平成30年度 運營諮问会議報告書



鸟羽高船高等専門学校

平成30年度運営諮問会議委員名簿

(五十音順)

氏		名		現	職	備	考
石	田	廣	史	国立大学法人神戸大学 名誉	教授	(亲	折)
鳥	Щ	光-	一郎	鳥羽商船高等専門学校奨学後	接会会長		
菅	沼	延	之	鳥羽商船高等専門学校同窓会	: 会長		
野	村		睦	鳥羽市小中学校校長会 会長	(鳥羽市立鳥羽東中学校長)	(亲	斤)
本	田	直	基	美和ロック株式会社 伊勢工	場群 総務部長		
増	田	峰	知	公益財団法人三重県産業支援 雇用創造プロジェクト推進・		(亲	折)
Щ	本	俊	彦	国立大学法人三重大学 理事	・副学長(教育担当)		

※ 委嘱期間平成29年12月1日~平成31年3月31日新規委員委嘱期間平成30年12月1日~平成31年3月31日

平成30年度 運営諮問会議資料

- 1 平成30年度 鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議次第
- 2 平成30年度 運営諮問会議委員名簿
- 3 平成30年度 運営諮問会議座席表
- 4 平成30年度 年度計画達成状況
- 5 平成30年度 学校要覧
- 6 学校だより VO1.88、VO1.89
- 7 2019 学校案内
- 8 学生の活躍(平成30年度)(新聞記事・ホームページ)
- 9 鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議規則

平成30年度運営諮問会議

鶉野:おそろいになりましたので、ただいまから平成30年度運営諮問会議を開催させていただきます。本日はご多忙中の中、ご出席いただきましてありがとうございます。進行を務めさせていただきます総務課長の鶉野と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。本日は委員、7名中6名の方がご出席されております。資料にあります名簿順にご紹介いたします。

国立大学法人、神戸大学名誉教授石田先生です。よろしくお願いたします。

本校奨学後援会長、鳥山様です。よろしくお願いいたします。

本校同窓会会長、菅沼様です。よろしくお願いいたします。

鳥羽市小中学校長会、会長鳥羽東中学校長野村先生です。よろしくお願いいたします。

公益財団法人三重県産業支援センター、雇用創造プロジェクト推進技術支援課課長増田様です。よろしくお願いいたします。

国立大学法人三重大学理事副学長山本先生です。よろしくお願いします。

石田先生、野村先生、増田様におかれましては本年度から委員をお引き受けいただいております。また、本日美和ロック株式会社伊勢工場群総務部長ホンダ様は所要により欠席となっております。

本校の出席者につきましては、座席表に掲載している教職員を列席、陪席させていただいており、各人ご紹介は省略させていただきます。また終了後の報告書作成やホームページでの公開用に写真撮影、録音をさせていただきたく予めご了承願います。

それでは、校長林からごあいさつ、並びに学校概要を説明をさせていただきます。林校長 お願いいたします。

林:校長の林でございます。年度末のお忙しいときに集まっていただきましてありがとう ございます。われわれにとって外部の有識者の方々のいろんなご奇譚のないご意見を伺う というのは、この会議が最大なものでして、ぜひぜひいろんなご意見をいただけますよう よろしくお願いいたします。

それでは、座って話をさせて、立っていきましょうかね。

学校の概要を3分でするということを言っていたんですけれど、5分遅刻してきましたので、本当はできないんですけれども、若干飛ばし気味にやらせていただきます。

これが、全国の高専の数でございます。国立高専は 51 校。キャンパスとしては 55 ございます。 2 つの高専が 1 つに統合されてスーパー高専と呼ばれているものがあるということです。赤い印がついているところが商船学科のある高専。これは全国で 5 校のみです。東から順番に富山ですね。富山高専。ここもスーパー高専で工業系の高専と商船系の高専が一緒になって、キャンパスは本郷キャンパスと射水にキャンパスがある。鳥羽商船高専。それから瀬戸内海に3つ、接近してございます。一番東側が弓削、愛媛県弓削島にある弓

削商船ですね。それから広島商船。これは大崎神島という島にございます。 2 校とも陸続きではございません。フェリーに乗って学校に行くというような形になっております。 もちろん学生は潤沢な収容能力を持つ寮がございまして、ほとんどの学生が寮生活を送っているといったところです。今日お越しの石田先生がおられた大島商船。ここは山口県の周防大島というところでございます。 5 つございます。

これは本校の写真でございますけれども、鳥羽丸ですね。244 トンの鳥羽丸。それからその 堤防がここにあって 23 号線と近鉄 JR の線路がございまして、この辺りに今この会議室が あるところでこういった建屋に。こっちは若干古いので少し造作が変わっております。ここに寮があって、ここに 400 メートルトラックがあるという。ここに体育館等々があると いうそういった全景でございます。

伊勢湾に面するところで、実はこっち側が北側北になります。池の浦湾と呼ばれている小さな湾ですけれども、一番奥に鳥羽丸が止まっていると。その先、北側に伊勢湾が広がっているということでございます。校舎地区、寮地区、鳥羽丸、それから堤防。

本学の教育理念というのは、137年前今年の9月になれば138年目を迎えるわけですけれども、変わらず進取・礼譲・質実剛健とこの3つを理念として謳っております。教育目標としては、人間性豊かな教養人となること。それから創造性豊かな技術者になること。それから国際性豊かな社会人になること。この3つを教育目標にあげております。

通常工業高専は5年ですけれど、商船系はプラス半年とプログスキー。その理由の一つとしては大型練習船による実習。これがトータルで12月存在するということございます。一体型の技術者養成ということで、5年一貫の教育をしております。くさび型配置ということで一般教養、一般科目がこのような形。それから専門科目が学年が上がるにしたがって科目数が増えてくるということ。高専の命題というか仕事ですけれども、地域産業、社会に貢献できる技術者を養成するということ。それと今やわれわれが力を入れている国際性の育成ということです。世界に通用するセンスを持った技術者を養成しているということでございます。

セールスポイントということで、138年の伝統を持つということで、商船系としては日本で2番目。一番古いのは三菱商船学校、現の東京海洋大学海洋工学部越中島でございます。それから遅れること9年で当地で商船教育が開始されました。同窓会活動が非常に充実しておりまして、卒業してもいろんなところで卒業生をサポートしていただいております。立地条件としては、交通の便が=カッコウ=しているんですけれども、他の4商船高専と比較して相対的にいいということで、先ほど申し上げた弓削、広島、両商船は船に乗らないとキャンパスにはたどり着かない。大島は橋ができて橋が無料になってかなり時間が経過しておりますけれど、一応本州とは地続き。富山は射水は畑のど真ん中にあるというような。本郷は街中にございます。これをセールスポイントと言ってよいのかどうか分かりませんけれども、他の工業高専に比べて入学しやすいが、進学・就職先は工業高専と同程度であるというところ。非常にお買い得な高専ということになります。

本校の教職員の数は教員は54名、うち4名は海事職でございます。船長、機関長、一等航海士、一等機関士、それから事務職は事務部長を筆頭に42名。計96名のスタッフで運営をしております。ただし、高専自体が今や620億の運営費交付金のうちの8割が人件費ということで、機構本部もなんとか人件費を圧縮ということで、第4期中期目標中期計画。これは今年の4月から始まって5年間ですけれども、その満了月ですね。平成35年3月期には教員数を47まで減らすということを宿題として承っております。

商船学科。今存在するのは商船学科。まず商船学科ですけれども、航海コースと機関コースに3年生のときにコース分けするということでございます。航海士船長を目差す。機関長を目指すと。海上のプロフェッショナルを養成しているということで、先ほど申し上げた12カ月の乗船実習が卒業には必要ということでございます。

もう一つは電子機械工学科。ロボコンで活躍している学科ですございますけれども、機械 工学と電子。こういった知識を用いてロボットとか機械、オートメーションも含めてそう いった分野に教育をして分野に人材を供給しているということでございます。ロボコンは 残念ながら今年度は地区予選で負けてしまいました。それまで2年間続けて全国で活躍を していましたけれども、さて、次年度はどうなるか。非常に楽しみにしております。

もう一つの工業系の学科は制御情報工学科ということで、極めてコンテストには強いというか。例えばロボコンと呼んでいる3年続けて文科大臣賞。最高の賞ですけれど受賞しております。今年度はそれプラスマイクロソフト社がビル・ゲイツ主催のイマジンカップ、シアトル開催。これに日本代表として参加しております。ちなみに3チーム参加して、あと2チームは東京大学ということで、非常に名誉というか頑張った結果でございます。この2つの工業系の学科をこの4月に一つに統合して情報機械システム工学科という学科に改組してこの4月にスタートするということで入学者が決まっております。詳しくは後ほどまた説明申し上げます。

一方、本科で5年生。5年間もしくは5年半の本科の後に、2年間の専攻科ができております。海事システム学専攻、定員4名です。商船学科などの進学者が2年間そこで勉強すると。一方で工業系は生産システム工学専攻、定員8名でございます。ということで1学年12名、2学年で24名ということで2年間の少人数教育を実践するということ。それから大学卒と同等の学士の取得が可能であるということでございます。ここを経営して他の大学の博士課程に進学をするというパターンが一般的になりつつあります。以上でございます。引き続きまして業務主事のほうから。

鶉野:いや、すみません。こちらのほうで進行させていただきます。

林:そうですか。

鶉野:本日の日程につきましては、式次第の通りとなっております。16時30分頃をめどに終了させていただきたいと思います。議事がスムーズに進みますようご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、委員の皆さまにお配りしております資料の確認をさせていただきたいと思います。お手元の配布資料をご覧ください。まず平成30年度鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議次第、続きまして平成30年度運営諮問会議委員名簿、平成30年度運営諮問会議座席表、平成30年度年度計画達成状況、平成30年度学校要覧。学校だよりvol.88、89。2019年学校案内、学生の活躍平成30年度版。鳥羽商船高等専門学校運営諮問会議規則。以上でございます。お手元の資料に不備ございませんでしょうか。それでは、議長の選出を行わせていただきます。本校運営諮問会議規則第3条により、議長は委員の互選をもって上げると定められております。今年度の議長につきましては商船学に熟知されている石田先生にお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。異議がなければ拍手をお願いいたします。(拍手)

それでは石田議長よろしくお願いいたします。

石田議長:それでは今年から新入ですので慣れない点があるかもしれませんが、皆さんの ご協力を得ながら鳥羽商船高等専門学校の諮問運営委員会の議長をさせていただきますの でご協力のほどよろしくお願いいたします。もうすでに 10 分近くたっておりますがご協力 よろしくお願いします。

ちなみに教務主事も石田といいますので、男前の石田かそうでない石田かでいつも喧嘩することはないと思いますが、委員の先生方にご判断お任せしたいと思います。

それでは、本日の資料のご確認をさせていただきましたので、議事としてただいまより本校の現状と課題ということにさせていただきたいと思います。私のちょっとしたあいさつということも予定されておりました。なにぶんちょっと遅れてきておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは本日の議題1にありますように本校の現状と課題についてということでどちらか の石田先生、よろしくお願いいたします。

石田: どのどっちがどっちの石田がご報告させていただきます。よろしくお願いします。 かなり時間が押してますので、かなりはしょって話すことになるかもしれませんが、でき るだけポイントを抑えて話をさせていただきます。ここに書いてあるような内容で、ちょ っと盛りだくさんで話をさせていただきますので、スライドがポンポン飛びますかもしれ ませんが、ご容赦ください。

まず、入学者の確保ですがまず PR。この辺は一番のメインは中学校回りです。今年は新学科が誕生するということでファイルも 200 以上。秋はいつも 200 以上回っているのですが、これだけの PR をさせていただきました。

それからもう一つ、今年度は同窓会の方々にご協力をいただいて、愛知県、大阪を中心に回っていただきました。オープンキャンパス。これが学校説明会という形になりますが、だいたい 490 名ぐらい。あとはこういったところで、近隣の高専との合同開催の説明会も行っております。

このオープンキャンパスですが、人数的にはだいたい伸びていっているのですが、この中で特徴的なのは学校の数が増えてきているということ。もう一つは保護者が非常に多くなってきているというのも一つ大きな特徴になっています。

その他に新学科のリーフレットとかなりの県、学校のほうに送らせていただきました。その他に商船学科独特ですけれども、商船学科を持つ5校が一緒に船主協会というところの 支援を受けて、横浜と神戸でガイダンスを行っています。

あと鳥羽丸を使った PR を活動も毎年やっていますが、メインは四日市とそれから名古屋港に行って、体験乗船一般公開というこのぐらいの人数の方が来ていただいています。

それから本校の同窓会がやっていただいていますふるさとの海を愛する会というのがありますが、そこに支援協力をさせていただいているところであります。あとマスコミへの露出はこのようなことになっています。

入学志願者ですが、実は中学校。今日は野村先生もいらっしゃるからご存知ですが、とにかく減っています。減っていて、特に南のほうが特に著しく減っているというこういう現状です。ということを考えると、本校への志願者は当然減っていて、厳しい状況になるというわけですが、志願者倍率をみます。今年は2学科ですので、一応商船学科は去年より少し伸びました。情報機械システム工学科、昨年までの制御情報と電子機械よりはちょっと落ちましたけど、まあまあでしょうと。初めてですので、今年ではいいかなというぐらいの。

どのぐらいの能力の学生が入ってきたかというと、まだ入学生は決まっていません。一応合格は発表しましたけれども。そうするとこれが合格者を出した生徒さんたちの調査票の平均評定です。要するに5 段階評価です。それでみますとここに推薦書いてあります。これも今年初めてで、あとでまた少し話をさせていただきます。そうすると体験については商船学科だけが今年やっているんですが、ここですね。ちょっと伸びました。それからS の一般。S の学力。情報機械システム科工学科はJ 科と言います。通称J 科。商船学科は通称S 科。この3つがだいたい同じような。確かにJ 科の学力で受けた子はちょっと成績がいいかな。特別推薦のほうはやっぱりかなり高い。こういう調査票の評定なんですが、実際の学力検査。要するにS 500 点満点のテストをさせたらどうだったかというと実はJ 科もほぼ同じぐらい。ですから、そういった意味では全学年でかなり質のいい、良くて均一な学生がもしかしたら来てくれるかなと。入学生をちょっと見てみないと分からないですけど。入り口はこうなんですけど、では歩留まり。歩留まりという言い方変ですが、確かに高専高等教育機関ですので当然退学も留年もあります。留年のほうを見てみますと現級留置で正式には言うんですが、去年ちょっと高かったんですけども少し落ちて全国の高

専平均に近づいてくれた。留年については。では、退学はどうなるか。ここがちょっと問題です。去年は全国平均より低かったんですが、これは嬉しかったんですが、少し上がっちゃいました。これが留年も含めて検討課題になってくるのかなという感じです。

さて、就職・進学ですが、皆さんもご存知だと思いますが、ご多分に漏れず高専についていると本校も就職と進学を合わせるとほぼ 100%といったことで、就職に関しては順調。I 科に関しては進学がその分増えている。こういう状況ですね。

さて、3年間。1年生から3年生まできて4年生のときに教育目標に対する達成度どうですか。自分はどのぐらいできていますかと問うたアンケートがあります。これを見ると、これが商船学科です。青が航海コース。赤が機関コースです。機関コースの連中は謙虚ですね。まだまだ駄目ですと。特に両コースの低いところはここですね。基礎学力。ここがやっぱりちょっと力がついていないという本人たちは自覚をしているといったところです。工業系。工業系は両学科ともほぼ変わらないのですが、まだ身についていない、力不足というのはリーダーシップ、やっぱり基礎学力、それと語学ですね。こういったところが弱いなと感じているというところです。これが卒業していったときに聞いてみるとどうなるか。航海コースと機関コースはほとんど同じような回答。ただし、やっぱり卒業するときも特に航海コースの学生は基礎学力。発想力というのもありますし、語学力も低いなと。だからある意味ちょっと力をつけてやることが十分できていないのかなというところが学校としての反省点ですね。工業系。工業系もほとんど一緒で、実は途中の4年生でやったのと卒業シーズンとほとんど変わっていません。だから言い方変ですけど、力ついていないまま卒業していく。本人たちはそう感じているということです。

満足度アンケート。今年はやっていないんですが、去年就職課とそれから進学先にうちの学生を送り込んだところにやったところです。その一つの例として、人間性と教養というのが本校の目標にあります。それ必要ですかと会社に問うと、こういう具合にどれもこれも重要ですよと言ってくるわけです。これに対して本校の学生はどれだけ身についていると思いますかという問に対して、こういう答えが返ってきます。だいたい身についているといってくれているんですが、ここですね。リーダーシップ。これが弱い。ということは先ほども言いましたように、学生も感じていて、就職先の人も感じていると。ですから、ここはかなり学校としてちょっと対策をきちっととっていかないといけないかなという部分だと思います。

それから学生にうちの学校の教育で良かったですかと問うてます。これも去年やりました。 そうすると本学に学校に来て良かったと思うのは、だいたい 80%以上。それからうちの学校で学んだことは役に立っていますかというのはやっぱり 80%以上。ということで本校の教育として学生は育っていったときにだいたい満足してくれているのかなという状況が見て取れるということです。

こういった結果を踏まえて当然改善していかなければならないわけですね。いろいろな場面で。考えるポイントは基礎学力が低いということでこれをどうするか。1つは入り口を高

くして良い学生を取っちゃうという手があります。ただし、そうすると定員の確保が難しいという問題もこれはらんできます。その辺のジレンマを抱えながら、新しい入試制度を導入する。これをやりました。それから当然うちの学校に魅力がないと駄目なので学生の学びも続きませんから、そういった意味で学びの魅力をつけるということで学科改組をしました。もう一つ入学したあとにどうやって育てていくか。もしくはサポートして支援していくかというところで取り組むために実はあとで紹介しますが3つの部屋を昨年度から作りました。

まず入試制度ですが、当然学力は通常通り。それから体験学習で選抜する。要するに AO 入試ですね。これは商船学科のみ残しました。推薦の仕組みを変えました。特別推薦と一般推薦。特別推薦は2・3年生で合計72以上。面接を課すと。一般推薦のほうは2・3年生で62以上でいいんですけれども理論的思考力を見るということで作文を課すと。こういう違いです。これで今年選抜をさせていただきました。ちなみに本校は機構本部のほうから承諾をいただいて、推薦と体験で定員の85%を確保することができます。

もう一つは新学科です。情報機械システム工学科。ここは一番の柱は何かというと、地域に根ざして活躍できる学生を作りたいということで PBL を中心に特にここに書いてありますが、1年生~5年生までの縦割りのチームを作って取り組ませる。要するに1年生~5年生からチームを組んでやるというようなものを中心としています。

もう一つは理論的思考力を早くからつけたいということで1年生からプログラミング教育を入れている。でもって、3年生までに基礎力をきっちりつけて4年生からそれぞれ自分に見合ったものに進んでいくということでここにオーダーメイドカリキュラムと書いてありますが、要するに一つは専門性を身に付ける。今のところユニットとしてここの6つを用意していますけれども、これは要するに時代にあったものを作り上げていくということでずっとこの6つでいくということではありません。

それからもう一つはここで技術者としての専門知識をつけますが、どういう技術者になりたいのかということはこの思考性ユニットで選んでもらいます。ここに1、2、3、4、5つ。例えば国際性を持った技術者になりたいと言えばこの国際性に沿った科目を選んでいくということになるわけです。この2つのユニットの組み合わせで自分のキャリアを決めていくということで作り上げました。

それから先ほど言いました3室です。学習推進室。これは学生の学びをお手つだいしましょうと。それからキャリア教育推進室。学生のキャリアをきっちりとマップを示してそれに沿う形で学びをつけましょう。もう一つは国際性ということでグローバル教育推進室。この3つを立ち上げました。学習推進支援室です。今言いましたように目標は基礎学力の定着と先ほど言いました留年率を減らすと。実際に部屋を用意して、一定時間先生が常駐して学びの場を作ってお互いに学べるような環境、教えたり教えられたりできるような環境を作ってみる。実際に試験なんかあったときにこの子ちょっと危ないなという子はリストアップして支援学生として面倒をみるという仕組みを作りました。今年トライアルで制

御情報工学科の1年生について毎週時間を決めて数学の補習をしてもらいました。そうすると結構力がついたというのが成果として出ています。それから到達度試験の対応。あと先生たちも当然スキルアップしなきゃいけないので、授業の公開を行ってその授業を見た先生はその授業に対するコメントを書いてその授業を行った先生にフィードバックするということをやっています。それから教員 FD もやっています。

次年度ですけれども、先ほど言った数学の補習。I 科だけでやっていたやつを全学科に波及させて導入していきたいなという具合に考えております。

それからあとは FD。それから AL。アクティブラーニングと言いますが、これの手法に対する技術的なものをケアしていければという具合に考えています。

キャリア教育推進室です。キャリア教育の戦略と書いてありますが、要するに学生個々がその能力を高め、自分の適性を見分ける、見極める。そういった力をつけさせましょう。それによって自己分析を行って自分がどういう仕事に向いているのかときっちりと見つけさせてあげましょうというわけです。ということで、本校ではもう授業科目の中に一般基礎教育1、2。キャリアデザイン1、2、3と5年生まで組んであります。特にこの一般基礎教育1、2は学科関係なく全学科で一緒に取り組んでいます。こういったところで力をつけ、いろんな学びを持たせて就職のほうにつなげていかせたいということです。ここに書いてあるように、特に一般基礎教育でもそうですけど、外部から専門の方を呼んだりして話を聞かせたりということもやってきております。それからキャリアデザインが1、2。あと講演会。やっぱり外部から来ていただいて講演会をしていろいろなものも身に付けていってもらうということをやっています。

もう一つ、数年前から始めておりますが、校内就職支援セミナー。企業の方に来ていただいて、学生が話を聞くというものです。これがその様子です。年々増えていまして、昨年度 55 社が参加してくれました。今年実は初めて参加料を取ったと。有料化したんですけれども、それにも関わらず一応 68 社増えて参加していただきました。財源確保の意味もあるんですけれども、良かったなと。

あとグローバル教育推進室。一応主なところはシンガポールとハワイのカウアイ島です。 そういったところに送り込んでいます。まずシンガポールですが SMA というのがあるんで すけど、シンガポールアカデミーのポリテクニックの中の一つの学校であるんですけれど も、そこのプログラムに派遣するというのがあるんですけれど、実はこの3月に行かせる 予定だったんですけど向こうの事情でこれがちょっと。実は次年度の6月に延期になりま した。でも毎年やっております。結構人気のあるプログラムです。

逆に向こうのシンガポールから来てもらって、鳥羽丸でトレーニングを積んでもらうということもやっています。これが夏に来てもらって、だいたい向こうの学生さんが 15 名ぐらい。引率の先生が 1 人。鳥羽のほうは同じ数の学生をくっつけてバディを組ませていろんなプログラムをこなさせるということをやっています。

それからこれがハワイのカウアイ島の KCC、カウアイコミュニティカレッジというところに行かせているやつですが、だいたい2週間~3週間ぐらい行かせます。向こうの伝統のナビゲーションを学ばせたり向こうの文化を学ばせたり、それから英語の勉強もあります。それからホームステイもあります。盛りだくさん。そういうところに行かせます。今年は今ちょうど3名行っています。引率教員と一緒に行っています。

それからこれが機構本部が作ってくれたプログラムでニュージーランドのオタルポリテクニックの就業体験プログラムです。実際午前中、専門用語とか英語を勉強して、午後実際に製作だとか実験を行うというようなプログラムになっています。これも本校、結構参加していて今年は9月にあったんですけど、全国から12名の高専生が参加したんですけれども、そのうち8名はうちの学生です。

あと日タイ高校生サイエンスフェアというのがあります。これが今高専の中で全国で6校になるのかな。チラコンサイエンスハイスクールというタイの学校ですが、そちらから来てもらっているんですけど、その学校との交流でもって、学生が向こうに行ってプレゼンをして帰ってきたというもの。実際女王の前でプレゼンを行ったということだそうです。それから高専生のための英語キャンプです。これは熊本高専が始めたんですけども、始めた当初から本校も加えさせていただいていまして、今年も一応2名の学生を派遣して英語の勉強をして帰ってきました。

それから SP プロジェクト。これがシンガポールポリテクニックの学生が本校に来てゼミ形式でプログラムをこなすということで現在 6 週間の予定で 3 名の学生が本校に来ています。あとはシンガポールポリテクニックの交流イベントということで、ここに書いてあるように自分のアイデアをビジネスにつなげるチャレンジ精神を育成するということを目的に作られたプログラム。今年はスタートアッププログラムということで開催されております。それから国をあげてやっておりますが、トビタテ!留学 JAPAN。こちらのほうも本校、毎年採用されておりまして、27 年度のこれが最初の年ですが、この年にすでに 1 名行って、30年度は高校生コースが 3 名、大学生コースが 1 名、4 名が参加させていただいております。それから今年はモンゴルの高専のほうに本校の教職員が行って高専というのものの説明とちょっとした模擬授業をやってまいりました。

あとせっかく外国に行っていろんなことを経験したり、学んでくるのでこれを学内にも展開したいということで全てのプログラムについて報告会をやっています。今年は3回実施しました。この中で多くは学生が英語でプレゼンをやります。あと英語力強化ということで TOIEC の特別対策講座。これは林校長が肝いりで始めたもので、そこそこの人数が参加してくれております。もっと増やしたいなと校長の熱望だそうですが、あとは英検等の会場にもなっています。

さて、教育の質の向上のほうの話をしたいと思いますが、うちは高専 4.0 イニシアティブ に 1 件採択されています。それがこういうようなプログラムです。実はこれを通すことで 学科改組につなげるという目的でこれを採択されました。要するに、地域の課題を吸い上

げて、地域産業とか企業とか学校が協力してその問題を解決しましょうということで、取り組むことによってうちの学生の学びだとかそれから成長ができるのではないかということで、こういう取り組みを採択していただいたのです。これの成果につきましては、こういうタイトルで去年と今年。2度ですね。フォーラムを開催させていただきました。実際にこういう具合に学生が成果発表をし、ポスター展示をし、いろんな企業の方に見ていただいて結構盛況に終わったという具合に思います。

それからもう一つは、商船のほうですが新海事人材育成ブロジェクトというと次世代海洋人材発掘プロジェクト。これは高専機構のほうが、5校と商船系の大学2つでこのプラットフォームというものを作りまして、そこで協議して2つの授業を展開しましょうと。一つは海洋人材育成のプログラム。もう一つは広報活動をやりましょうということで展開してまいりました。これが海事人材のほうです。実は、海事人材の育成プロジェクトはいろんな教育プログラムを考えましょうということで最終的には実装段階に入ってカリキュラムへの落とし込みの段階に入っているのですが、かなり前からずっと引き続きいろんな手を変え、品を変えじゃないですけれどやっていまして、実は一昨年までやった授業ではS評価。最高の評価を受けた授業の展開になっています。

もう一つは広島が主幹で行っていただいております広報活動です。海事産業について子どもたちに知ってもらいましょう。それから船に関わる仕事について子どもたちに知ってもらいましょうということで、地方自治体だとか他の工業高専、特に海のないところですね。そういったところでイベント展開をしていただいたというところであります。本校も当然これには協力、参加しております。

あと他機関の連携としましては、鈴鹿との連携。それぞれの主事室でもっていろんなところで連携を組んでやってきております。今年もこの 19 日にこれの会議が行われる予定になっています。

それから和歌山高専との連携を組みました。海をキーにいろいろなところで協力をしていきましょう。研究もさることながら協力もそうですけれども、いろんなところでいろんなテーマを見つけてやっていきましょうと。実は昨年度、科研の S で申請していたんですけれど、残念ながら通りませんでした。今またチャレンジしていますが、結果やいかにといったところですが。

あと地域との連携です。まず県とか自治体との連携ということで三重県の教育委員会。今日来ていただいておりますけれども三重県との連携。それから鳥羽市との連携ということで、いろんなところで協議、意見交換、情報交換を行いながら進めているというところであります。

もう一つは就労 c プラス授業。これは鳥山先生が来られていますが、三重大学が主幹となって三重県内の高等教育機関全て参画して行っている事業で、一番のメインはこれです。 三重創生ファンタジスタ。資格を与えて出そうと。要するに三重県で三重県を知って、三重県で活躍できる人を作るんだということでやっています。本校も当然このファンタジス タ。毎年 10 人ずつ出しています。あとは地域貢献として三重県がやっておりますアカデミックセミナーでの講演、それから公開講座。それから先ほど言いました = ふるさとの未来を愛するか = こういったところに協力もしくは、やっているということであります。

それから学生支援、生活支援の部分ですが、まず学生相談室というのがございます。これが相談室の体制です。一応臨床心理士2名、精神科医の先生1名に定期的にきていただいております。学生の心理状態をチェックするのは、今年は hyper-QU というのを使いました。それまでは機構本部が心と体の健康調査というのをやってくれという具合できていたのですが、どうも調査内容がマンネリ化して学生もどこに丸をつければ危険度レベルかっていうのを知っているので、「これ、もう使えないな」って言って、この hyper-QU というのを導入して、その判定に基づいて相談室のほうで面談が必要な学生は随時呼び出してカウンセラーの先生もしくは精神科医の先生と面談を行っていますということをやっています。利用状況としては相談数 136 件、カウンセラー数の相談 53 件、こういうことになっています。それからこれだけではなくて、メンタルヘルスに関する授業ということで、先ほど言いました授業を利用して本校のカウンセラーの先生に学生に話をしてもらうというようなことをやっています。

それから教職員も当然勉強してもらわなきゃいけないので、専門の先生を呼んでこういった FD 研修をやっております。

それから学生相談室、ちゃんと利用してね。みんな気軽に来てねということでこういうカード、名刺サイズぐらいですかね。ちょっと大きいぐらいのこれを全学生に配って「ポケットに入れておきなさい」と言って配っております。

それからいじめ防止なんかについてもいろんなところにこういう掲示をさせていただいています。学生相談室だよりも定期的に発行して、学生に呼びかけているというところであります。

教務主事室ですが、一番教務主事室が気を遣うのは出欠です。朝、学校に来ていないとかその学生どうしたんだろう。そこが一番気を遣うところなので、本校の場合は出席確認サイトというのを作りました。去年から作りました。それでもって授業が終わった先生が、ここに教務室というところがあるんですが、そこに必ず出席簿を取りに来てそこに収めて行くので、そこにおいてコンピューターでパチパチパチと入力してという形のものです。フローとしてはこうなっています。1限目の授業、2限続きもあるんですが、もし欠席だったらその担当の先生が今のサイトに入力します。入力したらその入力状況を見て教務主事補がその担任の先生に連絡します。担任の先生は本人に連絡を取る。本人に連絡がつかない場合は、家族に連絡を取る。これを基本的に13時までに終わらせるようにします。もしそこでも捕まらなかったら、一応保護者のほうで何とか連絡を取ってもらって駄目だったら17時。いませんということになるとリスク管理室が立ち上がるというシステムです。寮も一緒です。この担任の部分が寮務主事室になる。その他に毎週、ホームルーム。それから保護者懇談会。それから基本的には毎週月曜日は、三主事室の主事、主事補と学生課

長が集まって情報共有をすると。それから全校集会でいろいろな話をしていただくと。それから休み開けの前ですとかそういうときはメール配信で学生へ呼びかけをするというようなこともやっております。あと学生課のほうでもいろいろな取り組みをしていただいて利用図書館の利用促進をやってもらうとか、それからもう一つ図書館 1 階、ラーニングコモンズ的なものを整理しまして、学生の使いやすさを整備して全て学生課のほうはガラス張りになっていて非常に学生が入りやすい作りに変えました。

あと鳥羽丸の学生への支援の一つになっていまして、実は四日市とか名古屋港とかに PR に行くときにはどういうことをやるのか、どうやって例えば見学だとかをやるのかは学生に全て考えさせます。学生の上級生がリーダーシップを取って、企画運営を学生にやらせるとこういうことをやっています。

それから今年和歌山との連携を組んだので、和歌山のちょうどこういうのを作っていました。大地震対応マニュアル。これポケット版です。パラパラパラと折りたたんで小さくなるんですが、なおかつ水に強いという紙でできていますが、これを本校版に作り変えて全学生に配って携帯するようにということにしております。ちなみに留学生はこれでは分からないので英語版。こちらが留学生が持つということになっています。

それから学生主事室ですが、これ登校指導。池の浦という駅があるんですが、その前ですね。特に中心に毎日先生が立って登校指導をしております。それからあとは新入生オリエンテーション。もう一つ、リーダーズトレーニング。学生会とか寮生会の役員がリーダーシップを身につけましょうということで毎年やっております。今は、ここ数年鈴鹿の生徒さんも役員さんも参加してやっているということです。あと安全教育。それから学生会の活動のしごとをやっています。これがリーダーズトレーニングのやっている風景ですね。松本大学から先生をお呼びしてやっている様子ですね。

それから寮務主事室。毎年どんどん寮生増えています。実は。増えていって、キャパが200人ぐらいしかないんですけど、このままいくとオーバーフローするよということでずっと予算要求していたんですが、やっとつきました。やっとついて何とか部屋数を増やせるなということで今、寮務主事がホッとしているところであると思いますけれども。寮生の内容ですが、県外が7割、学科でいいますと商船学科が7割こういう状況。これ見ますと全国から来ていますね。この辺の近場に商船あるのになというところからきています。あとはいろんな諸問題に対応するためにいろんな意見交換、情報交換をやっています。寮務主事室ではもう頻繁にこの寮生徒に意見公開。それから学校との意見交換会もあります。特に校長との寮生役員との懇談会年2回ですね。それから他高専との交流。それから保護者。これ寮生保護者懇談会がありますので、そういったところで情報共有。こういったことをやっています。あとは先輩からのアドバイスというか5年生だとか08の方にいろんな話をしていただくということもやっております。それから試験前は、必ず寮生試験前勉強会というのをやっています。このときは毎日数名の先生方の協力して参加してやっています。

隔年でやるという話で今年はなかったんですが、寮生が近隣の町内会に協力して粗大ゴミなど収集なんかもやっています。

次に研究活動です。実は研究ということではお恥ずかしい話、停滞している部分があって研究主事も頭を悩ませているところですが、ネタ探しという意味では例えば民間の研究所とかいろんなところと情報交換してネタを拾ってきて学内に展開したいというのが実際のところです。確かに科研の申請率は研究主事と校長も頑張って声がけしていただいて 90% ぐらいになりましたけれども、実は平成 30 年度の新たな科研採択件数はゼロです。そこが大きな問題。出すには出したけど当たらないという。そこがちょっと今後の大きな課題になっております。

あと、先ほど新学科もできてますし、これまでも当然大いにやってきたことなんですけれども、地域と連携して PBL を利用していろいろな技術を普及させていく、地域に貢献していくというところが重要なところです。確かに科研率グーンと上がったんですけど、1件も取れていません。とうことで、この辺がガクンと科研の取得金額がガクンと落ちているというところが大きな問題ですね。今科研を取って最中の先生方がこういうテーマでこういうことをやっています。それから受託授業としてはこういう。それから共同研究。それから受託研究。こういったことで、何人かの先生方は活躍されています。

さて、この地域との連携による PBL によって要するに学生が考えて開発したものが日の目を見たというのはいくつかありますし、非常に注目されて今研究中であるというのもいくつかありますので少し紹介します。

これがまるみえホカクン、要するに獣害を防ぐということで、この檻の中に例えばイノシシが入りましたといったらぱちんとスマホで操作すると重りの蓋がポンと下がるというようなシステム。これはもうすでに発売されているんだよね。

これが今度今注目をあびているアカモクという海藻ですね。非常に健康にいいという。これに着目してアカモクの先ほど赤く出ましたけれどアカモクの生息域をドローンを使ってキャッチできると。このドローンもプログラミングすれば自動飛行で取ってきてくれる。こういうシステムを開発しています。

そしてこれは自動給餌システムです。AI を使った。要するに魚の活性度を見て与える餌の量、時間を決めてやる。例えば出荷の時期が決まっていたら、そこに合わせて成長を促すということをやるシステム。中身はよく分かりません、私は。

もう一つ、これが遠隔捕獲権利。要するにこのかごを消費者が購入するんです。これを消費者が見ていて、自分のかごに魚が入ったなと思ったらそこでぽんと蓋をして、その入った魚を届ける。こういうシステムですね。こういったものも今研究中です。

それからも一つ。カキ養殖。これ非常に盛んですが、このカキのコレクター、要するに帆立貝の殻ですかね。それにカキの卵が付着してそれが当然成長してカキになるわけですが、その付着度合いを見るのが実はこれまでいちいち船で「もう年なのに」とか言いながら船で行って筏に行って見なきゃいけない。それが非常に労力として大変だということで何と

かならんかということで、自動のこういうふうなカメラとかを設置したやつで画像を撮ってきたやつで判定するということを今開発しています。そういったことが、今この他にもいくつかあるんですけれども、こういったような研究が工業系の学科のいろいろなチームが取り組んでいるというわけです。

最後に学生の活躍について少し簡単ですけど、説明させていただきます。

最初に校長の話からありましたけれども、マイクロソフトのイマージングカップ日本大会というところで優秀賞をいただいて、先ほどありましたが3チームの一つに入ってイマージングの世界大会、シアトルで開催されたやつに出場しました。残念ながら賞はもらえなかったんですけれど、本校としては2度目です。世界大会に出場したのは。これは高専の中ではうちだけです。2度参加しているのは。それからプロコン。ここに書いてありますが最優秀賞を3年連続でいただきました。その他にもいろんな情報学会若手奨励賞とか、自由部門では特別賞。とにかくいろいろこれに関してはうちの学校毎年取ってきています。私は「そんなに取ってきたら恨まれるぞ」と言うんですけど取ってきます。

その他に高校高専を対象としたウエザーニュースというところがやっているんですけど、 気象観測機器コンテスト。これも毎年のように優秀賞以上取ってきますね。今年も優秀賞 をいただいています。それから制御情報工学科の学生が今年三重県で全国のインターハイ があったのですが、そこのところで技術協力ということで活躍してくれています。

あとスポーツのほうも走り高跳びで全国高専大会3位に入っている学生がいます。今3年生です。記録は2メートル持っています。

それからあとは商船系の先生が学生と一緒にやっているんですが、全日本ソーラー人力ボートレースというので参加して学生の部で総合優勝というのを取ってきています。他にもたくさんあるんですけれども、キリがないのでこのぐらいで、あとは資料につけさせていただいておりますので、そちらを見ていただければと思います。以上です。ありがとうございました。

石田議長:石田先生ありがとうございます。内容は鳥羽商船高専の多岐にわたる部分ですぐに皆さんから協力したいということをすぐに決められないかもしれませんが、できましたら石田教務主事の石田先生に言われた発表の順ぐらいにおって関係する方々、もしくはご質問等いただければありがたいと思いますがいかがでしょうか。委員の先生方いかがでしょうか。なかなか出にくいようでしたら、最初私のほうからでも石田先生に。先ほど入試で特にここ最近どういうような変化があったのかとかこれは新学科ができて非常に活動を広くされていますがぜひ継続していただけるように。というのは、やっぱり先生方、しんどいので、労力に見合った成果が出ないからといって後ろに下がるんですよね。これはもう昔はそれでも良かったんでしょうけど、今や東大でも一の学生徒のために十分努力をするというぐらいやっております。私のほうがお聞きしたいのが、ここのところ制御情報と電子機械が合体して1学科になって、そのあたりちょうど入試が終わったところなんで

すけど、倍率うんぬんの話はちょっと見させていただきましたが、その辺活動上良かったのか。それから高専ではよく言われる女子学生のリクルート。当校は非常に情報関係では優秀な学生を育てられておられるというのはよく存じ上げています。これは入ったときから優秀だということだけじゃなくて、中でかなり叱咤激励しながら教育にあたってレベルアップをしている成果だと思います。マイクロソフトなんかもその最たるものでしょうけれども。それが新学科のところでちゃんといるのかなという危惧を、女子学生にとっては見えない形でならないのかなというちょっと心配もするんですけど、その辺り業務主事として入試担当等でいかがでしょうか。

石田:まずどういった学生が来てくれたかということですけれども、実は先ほど推薦で例 えば工業系も推薦で 85%と言いましたけど、実は 85%以上の学生が推薦のほうに志願して くれました。そういった意味では、非常に学力が上がってなおかつ推薦で落ちた子はたい がい学力のほうに回って合格を勝ち取っているのでそこそこ粒のいい学生が来たのかな。 それのおかげかどうかわかりませんが、なかなか商船学科は体験と推薦でここ数年 85%に 満たさなかったんですよ。それが今年は満たしたというところで、商船学科もそこそこ優 秀な学生さんが集められたかなという気がします。あともともと制御情報工学科のほうは 比較的女子学生の入学生が多いです。そういった意味で今年もそれなりに数はいるんです けれども、ただ新学科の説明のときにこれまでできていたこと。例えば電子工学科ででき ていたこと、制御情報工学科でできていたこと。それはちゃんとできます。新学科でも。 そのプラスアルファで違うことも新しいこともできますというような謳い文句で説明をさ せていただいてきました。説明会も中学校の先生なんかが来ていただくような場を設けて 説明させていただいて各中学校のほうに生徒さんにお話されたんじゃないかと思うんです けれども、そういった意味ではこれまでの本校の活躍、非常に女子学生の活躍が目立つん ですけれども、情報系の面で。だからそういった意味では、入ってくる女子学生も安心し て入ってくれているのかなという気はしています。

石田議長:中のコースで情報系のところでたくさん取ったりと、そういうことも人気のあっての枠あるんですか。

石田:一応枠は付けていないんですけれども、先ほどの学年進行でいきますと1年生からずっと先生方が見ていて、チームを受け持つので見ていて、その中でその学生の適正を見極めていくと。なおかつ学生の希望とかそれまでの履歴も一緒に見ながら、「じゃ、君はこういうほうが向いている。希望はこうなんだけど、いや、君の力としてはこっちのほうが向いているかもね」というような相談をしながら、最終的に4年生になるときにどの専門性ユニットを選ぶ、思考性ユニットを選ぶというのを本人と教員が相談して、保護者ともとなると思いますが、決めていくことにしています。ただ、今のところ専門性ユニットと

して並べたのは、今の時代でいくとどれもこれも結構注目されている分野なのでそう大きくどっかに偏るということはないかなという。ただ、まだ入学したばかりなので1年生。 これが4年生になったときどうかっていうのはちょっとまだ見えませんけれども基本的にはここは何人、何人、何人という枠は決めていません。

石田議長: どうもありがとうございます。各委員の方々、関係する分野で結構ですのでご 質問等本校のためにということで。

山本:どこというわけじゃないんですけど、これは他校のことをどうこれ以上に、三重大学のことでもあるんですけれども、広報、入試入り口のところで広報とういことで広報にも戦略を持って臨むというぐらいかなり重要視されているところがあると思うんですけど、今ホームページ等があって充実はされていると思うんですけれどアクセス数とか分かるようになっているんでしょうか。

石田:カウンター付けてた?付けてない?

山本: 三重大もないんですけど、誰がどういうところをアクセスして情報を得ているのか。 そういうことも分からないまま、ボヤって重要だけどみたいなことを言っていたりするん ですけれどもちょっとそこら編でなんか広報について三重大学に参考になるようなところ をお聞かせいただけたればという質問です。

石田:一つには、一番ホームページ、当然古臭いホームページをずっと続けていても仕方がないので、ある一定の時期ごとにリニューアルしないといけないと思っていますが、肝心なことは中のコンテンツなりを新しくどんどん更新していくというところが一番重要かなと思っていて。要するにいつも新しい情報が載っかれば、そのホームページを開く人もなんか新しいことないかなと見にくるわけですよね。そういったところでおそらくこの学校はというのが意識付けされると思うので、その記事をどんどん新しく更新していくことが重要かなという具合に思っています。

あとは、これは作り込みのやり方だと思うんですけれども、見たい情報がすぐ見れるような道筋で見れると。ページが開けるというつくりが重要かなと思います。あっちいき、またこっちいき、また行ってとなると嫌になっちゃいますので、これが知りたいのにどこにいきゃいいんだよと。たぶんホームページに関していうとそういう作り方が重要かなと思ってて。できるだけ今回、本校もリニューアルしたんですけれども、できるだけシンプルな作りに心がけてやってくれて、これも実は大枠は業者に頼んだんですけれど、作り込みはうちの学生がやっています。そんなところでよろしかったでしょうか。

石田議長:スマホ対応というふうにはなっているんですか。

石田:なっていますね。

石田議長:今日日の学生さん、コンピューターの前っていうよりもスマホを使うほうが多いみたいで。その辺の対応策が必要かと。

石田:そうですね。スマホですね。

石田議長:その辺の対応もちゃんとされている。ちょっと参考になるか各大学さんもそうなんですけれども、入試の何々学科じゃなしに、鳥羽商船高専はこんなんですよという入口の簡単なビデオをよく作られてですね、そこでまず見てから、あっ、ここの学校ってこんな雰囲気とか面白そうなことあるんだと言ってから自分の専門のところへ入ってくる。最初から専門に入るのが多い学生さんにはどうも各大学もみんな入試の表面の簡単なビデオ、最近は動画が多いのでやってられると。私もそうだなと思いながらお金もかかって高専はなかなか窮屈なのでしていませんけど、お宅の学生さんはかなり優秀だからそういうのを作ってですね、どうこうできるような部分も出てくると思います。結構作っておられるところもありますね。

石田: 本校も商船学科は学科のほうに行ったら、ムービーが見れるようになっていますね。

石田議長:そこへ行く前に鳥羽商船高専はどうしても船だけやというイメージを受ける可能性が高いので、こんなんでこうこうですよっていうふうに入り口に入ってから私は情報試験があるんやなって言って入っていくと。

石田: 進学科用のやつはトップページからいけるんだよね。

A:動画ですか?まだ新学科のページいじっちゃいけないんです。

石田:なかったか。

石田議長:ないんですよ。私も今回このお仕事があって。

石田:学科が誕生しますというところからいかないのか。一応作ってはあるんですよ。

石田議長:かなり先生の人海戦術で広報されたみたいで成果としてはきちっと学生に応募 していただいたということですので今後うまく育てていただいて。その辺り、野村先生で すか。中学校から送るほうとして。

野村:私は鳥羽ですので、もともと商船っていうのは鳥羽にあるっていうのも子どもも分 かってますし、親も分かっています。私も小さい頃に海学祭で船に乗せてもらったりとか したことがあります。商船っていうのは鳥羽にあるもんだというふうな認識でおりました。 商船っていうとやっぱり船やなということはあったんですけど、一時期商船人気がなかっ た時期があって、それがロボットのほうでいろいろ賞を取られたりとかそういうものを私 たちは身近に聞くことができますし、新聞とかテレビとかあるんですけれども意外と鳥羽 市の広報とか市長が言っておられるんです。そうすると広報に載ったりすると、今度こん なのあるんやな、こんなの取ったんやなということが分かりますので、子どもたちは身近 な存在であるなとは思います。地元の商店ですので昔から商品をおろしていたのでそれか ら親がぜひともいったらというのもありましたし、通学も近いですのでありがたいなと。 それだけの能力を付けていかないといけないなと考えております。だんだんいろんな賞を 取って、鳥羽商船のブランドっていうんですか、鳥羽商船ブランドちょっと上がっている と思うんです。商船科もずっと上がってきているのかなというふうに私のほうでは見させ てもらっています。今回制御と機械が一緒になって学校での説明がまずは分かれてました よね。どうしてもこれはこの時期じゃいかんなというのがあるんですけれども、来年度こ の2つの科がありますって親とか私らに説明があってその後に一つになりますっていうん で、そこはどうやったんかなと自分たちの中では。子どもたちにとっては何なんっていう のはあると思います。

石田:そこが実は新学科を立ち上げるときに一番ご迷惑をかけたところであり、私どものジレンマであるんですけれども、本来大学なんかだと2年前ぐらいからそういうことを広報するわけですけれども、実は決まったときから言わせてくれと。決まるのも非常に遅かったんです。ギリギリでなおかつ文科省が決して新学科になることが分かるようなことを言ってはいけないし、書いてもいけないし、出してもいかんと言う前にきつく口封じをされまして、もしこれがどっかから漏れて分かるようだったら、取り下げるよっていうぐらいまでの脅しがあったぐらいですから。そんなんで非常に公表するのがよっぽど遅れてしまった。この辺が、われわれの軸地たるものがあるんですけれども、これは文科省が決めることなので文科省はそういってきたら仕方がなかったかなということは説明会のときにもご理解をという話はさせてもらったんですが。

野村:私らは意外ですよね。実際本当に行くのは子どもたちなので。こっちにしようか、 こっちにしようかっていう考えていたのがなんで一緒になっていう。 石田: だから生徒さん、保護者の方、なんでやっていうのがあったと思います。なんでもっと早く教えてくれないのっていうのはあると思います。確かに。

石田議長:野村先生からの新学科の設立の時期、説明とか。これは普通だと前倒しで1年度でっていうような話が。大学ですともう3年前ですから高校へ入るときの1年生に向けても公表して入ってくるときこうなりますよってその話はなかったんですか。

石田:実はここで言うことかどうかよく分かりませんけど、実は先ほど言いましたように 高専 4.0 イニシアティブというのは新学科の誕生を前提に文科省に採択されて、ですから それが採択された段階で新学科誕生というのは当たり前のつもりでわれわれは動いていた んですし、早めに新学科の設立が承認されるだろうなと思ってたんですが、ところがそれ がなかなか承認されないというのがありまして。

石田議長: それは当該校である鳥羽商船の責任じゃなくて、文科省で出て、30 年度に 4.0 の第一段階進んでいる学校と、30 年度から進んでない学校と実は分かれているんですよ。 31 年でっていうのがごく普通ですよね。してくれている。その辺がなかなか文科省が配慮してくれない。

石田:そうなんです。そのつもりで2年間ちょうどいい助走だねって言って 4.0 イニシア ティブに出して採択されたので、そのときから新学科で申請はしていたんですけれど、な かなかそれが通らなかった。

石田議長:文科省の内情で、大阪のさる学校とさる首相の奥さんの問題で大変な状況になって文科省の人事等もとんでもない状況になってしまったので、前代未聞で事務次官とかみんな直で首飛びましたので大変やったという事情はよくお分かりで、本校はそれのちょっと本校としてはちゃんとしてよということだったけれど、なかなか本庁の対応がうまくいかなかった。入試については両先生方からのご意見もありました。他にございませんでしょうか。いいですか。

菅沼:では私から。去年で66歳になりまして、この間にいろいろな肩書、いろいろ地位をいただきましたが、私の人生の最終目標は同窓会長ですね。同窓会長ということで早めに手を挙げたら先輩から追い出されます。まだ早いということで2年目。たぶん来期も同窓会長拝命するかなとは私思うんですが、実際問題同窓会長になってみまして、同窓会長の名刺がこれほど社会に重きをなすものだということを本当に思いました。すごいなと。うちの同窓会長の名刺って。私はそんな中において、小さい会社をやっておりまして、坊主

2人は海運丸に乗りました。一般大学ですけど。お父さんの会社に入るかと言ったら、海 運丸に乗ってこいと。そうしたら入れてやるということで、1人はベリー航海。2人目は 帰って来ましたけど、それはなぜかというと私は寮生活と練習船が全て私の人生なんです ね。同窓会長をやってみて、王政復古的なことも考えようかと思ったんですけど、いや、 これは間違っていると。商船学科うんぬんじゃないと。これは。電子機械工学科とか制御 情報の人と本当に私たちの出身母体のデッキ、エンジンの人たちが融和を持たんととても じゃないと同窓会活動無理だというふうに思うようになったんですね。先ほど、校長先生 にもいろいろ話していたんですけれども、校歌もそうだし、海事主義の

コウタイソウカ **=**も良くないなということで思い切って舵を切ったようなことがいっぱいあるんですね。 そんな中におきまして、前から気付いておったんですけど防衛大学なんかは民間拒否する と本当はいかんですね。給料もらっているから、国家公務員の。お金を全部返さないとい かん。授業ではね。そのくらい違うんです。ただうちの商船学科の場合はみんな船会社な んですね。ほとんど。もうこれね、下の学生と一緒に一般のところへ行かせてもいいじゃ ないですかね。これなぜかと言いますと、結論を言いますと、私の会社に入社してナンバ 一2になったんですよ。私全然知らなかったんです。その会社の。なんでって言ったらも のすごい仕事をやった。絶対根をあげんということで、ああ、そうだろうなと。寮生活っ てそうだろうし、船に乗ってくると免疫改良だから一方でそういう体験を見つけているん ですね。だから商船学科の人間を商船関係に就職するというのはなんとなくこれから矛盾 すると思うんですよ。いいようにやられているでしょう。船会社に。就職を。むしろ商船 学科で鍛えられた精神と肉体を使ったほうがいいんじゃないかなと思うんです。もう1年 前ぐらいから考えていたんです。これは。今度総会のときに言ってみようかなと思うんで すけれど、これ、もう商船学科は海事関係、造船関係いろいろあると思うんですけれど、 そこだけに就職の窓口をつむのはどうかなと思うんですけど、先生どうでしょうかね。

石田:別に商船の勉強をしたから船に乗れというのはわれわれも言いたくない部分があるんですけれども、ただ本校の商船学科に国が求めているのは、いっぺん出た話でもあるんですけれども、海上就職率を上げろと。当時今日、海運人材育成プロジェクトって話をしましたが、実はあれの立ち上がるネタになったのは、国からの報告書の中で商船学科の海運就職は70%に満たしていない。これは非常に由々しき事態。言葉はちょっと違いますけど。とにかくこの海上就職率を上げろと。これがタスクだという具合に言われたんです。逆に言うとその頃、商船学科、なくすぞという話も渦巻いていましたから。そうするとわれわれは会長が言われるように、一般のところに行けとはなかなか言えない。学校の存続に関わってくるので。なおかつそのあと、右往左往しているうちにもう国の文科省のほうから船員養成、構成見送り船員養成200人体制は崩さないというのが厳命されましたから、であればそれに呼応するためにも海上に行かさざるを得ない。できるだけ。

菅沼: いや、それは本末転倒だと思いますよ。こういうふうに国からこう言われているんだから。そうでなければ辻褄が合わなくなりますよ。

石田:その辺が例えば船主協会が一番大きな団体になりますけれども、船主協会がそれを 全く口出ししない。

菅沼:都合が悪いから。それは。

石田: 言わないですね。

管沼:だから、学校の存続言われると沈黙しないといけないのか分かりませんけど。もう 海ばっかだけというのはいいのかなと思いますよね。相反するところあるんですよ。

石田:かたや、実は船員養成はご存知の通り高専のみじゃなくて大学もやっているわけです。

菅沼:おっしゃる通りです。

石田:大学のほうはどんどん実は船員になる人間が減っていっているわけですよ。そうするとおそらく将来的な構図として本当に日本人船員が必要だということが、本当ならば生き残るのは高専で海事関係の陸に行くのはマネージメントもできますから大学のほうなんだろうなという気はしていますけれど。ただそういう構図ができれば学校としても意味があるんです。ただ会長が言われるようにわれわれとしては別に学生に対して、確かに教育の中では「みんな船に乗って欲しいな:という話は当然しますけれども、実際の希望を聞いたときに「私は乗りたくないです」って言ったら別に無理強いはしません。

石田議長:菅沼委員のおっしゃることは昔からよく分かることで、もう何年前になりますかね。自民党の分教員会部会というのが本部にあります。これは政策決定。そのときに海員養成のということで私行ってちゃんと説明しときました。大学は90%以上に乗ってる。ドツボにおかしな数字のマジックがあって、乗船科実習に大学は行く学生はすでに外洋局の主としたところにみな就職が決まった人間が行くので、乗船実習会に行っている人間ははっきり言って半分くらい。高専は全部の学生が行って、そのうちの7割近くが行くので、非常に数字のマジックのように誤解しないでくださいと言ったら、今の管さんとか幹事長だとか「ああ、そうなんですか」ってびっくりしてましたですけれども、その辺りはちゃんと理解してくださっている。それとわれわれ船というのは実は菅沼さん、外航の船主協会のそちらと内航の船主協会とそこに非常に温度差があります。内航はご存知のように海

運学校が短期大学になって、人数がいらない、減らしたのをまた元に戻して増やしたんですけど、かなりの人数を今排出していますが、入った人間が2~3年後にはほとんど辞めていくと。ですから平均年齢だけがとっとっと上がっていくという。だから海員が足らないという。本校だったらかなりの部分が外航に行ったり内航に行って混ざっているので、その辺りは先生方の指導が大変だと思いますけどぜひ伊勢湾というのは大きなバックボーンを抱えた力を持っている団体ですので、その中でも本校の卒業生は大きな位置を占めていますので、ぜひその辺りは壁にならずに日向になってでもいいからプッシュしてあげてください。よろしくお願いいたします。

他のこともお聞きしないといけないので、あれですけれども。教育関係でも学生のレベル アップ等でかなり努力されてしんどい先生方も努力されておると。そのことについてお伺 いしたいと。すみません。1個だけ。議長の勝手な意見で。大学へ進学する学生が増えて きたという石田先生、ご説明されていた。

石田:大学というか専攻科ですね。

石田議長:専攻科に行ってからもう1回大学院やという進学というのは各高専もかなり増 えてきて。

石田: 高専増えてきましたね。

石田議長:特にここ海で。中では海洋関係の。三重大学さんとのあれはこれは地元なので 行かないのか、その辺り配慮していただけないのか。

石田:確かにですね、三重大学に行けばいいなと思うんですけど。言うんですよ。先生方は言っておられると思うんですけど、ところが手を挙げないんですよ。なぜかはよく分からない。もしかしたらですね、地元が多いのでたぶん友達が三重大にいると思うんですよ。そうするとなかなか行きづらいのかもしれませんけど、よく分かりません。僕は。なんか理由を知ってる?

石田議長:寒いとこの北陸。技科大に行ったりして。

林:たぶん技科大の件があるんですよね。

石田:技科大は比較的入りやすいので。

林:長岡と豊橋、そもそも要するに本科の卒業生の受け皿として大学院大学としてそういう立場なので、結果から言うと長岡と豊橋に編入、それと大学に行くという学生さんの数は目につきます。あと商船系だとやっぱり商船系大学、2つ。東京と神戸と。三重大というのは申し訳ないですけどあんまり目につかないですよね。

石田:分からないですけど、校長が言われたように技科大が入りやすいというのがまず一番ですね。

石田議長:それは各工業高専も高専は技科大がその目的で進学に作ったので、今はどこも 非常に多岐にわたって地元での人材育成ということをよく言われてて、近くに三重大学、 なおかつ昔でいう海洋水産の資源を示すとか。何か悪いんですかね。広報が。

石田:自分の学生、もしかしたら学力があるので厳しいと思っているのかもしれない。

石田議長:そうなんですか。

石田: 技科大は基本的に書類審査と面接。どっちかは書類審査だけ。なので。

石田議長: それは技科大はね。他の学校にも結構入られているので。ぱっと見ると三重大学、工学部とか海洋資源とかがないのでね。

石田: 鈴鹿は確か 10 人ぐらい毎年行ってましたね。鈴鹿は推薦よりも学力で編入してきてる学生がほとんどです。

石田議長:教育絡みでは広く社会連携とかそれから同窓会も見ててですけれど、地域との 連携はありますが、ご質問等いただけましたらありがたいです。

増田:よろしいですか。社会連携と言いますか、地域連携の関係で日頃から三重県のほう大変お世話になっております。ありがとうございます。私ども雇用経済学部に関係する財団になりますので地域産業を振興するという視点でぜひ、最近は売り手市場でなかなか地元の人も残ってくれない可能性もあるんですけれども、地域の中小企業なんかもぜひ就職先としてこれからもいろいろご支援いただければなと思っております。それと特に中小企業のほうも随分力をつけてきて、独自の研究などをやるケースが多くございます。最近国の施策もそうですし、中部経産局なんかもそうなんです。中が IoT、AI、一色というと怒られるんですけど、かなり国にいい習えてそういう方向になってまして、その中にもヘルスケアであったりエネルギーであったりという新しい産業のモデルものっているんですが、

それを全部網羅して IoT の分野というのがどこにも絡んできているということ。その点に関しては、地域の拠点、三重大学さんや鈴鹿高専さんもあるんですが、鳥羽商船さんはすごく独自の活動で江崎先生には工業研究所のほうで随分お世話になっておりますけれども、そういったところと分野をぜひこれからもご協力の点を伸ばしていただければなと期待しております。

特に今回いろんなプロジェクトで水産がらみの話がありますと、例えば県ですと浜島の水産研究所なんかも、なかなかあそこ工業系とくっつきがいまいちなんですけれども、なんかは昔からいせもんははやってたりとかいろいろやっていますので、そういう分野でアカデミーにおりますので、そういったところでこういう地域のプロジェクトを作ってここでスコープとか総務省のとか、農水研のプロジェクト応募とかもやられていますけれども、経産省系のインプロであったり、地域の企業主体ですとサポイン事業とか少し大きな外部資金を取れるものもございますので、そういったプロジェクトメーカーともまた触れ合わさせていただければなと思っています。高専の先生方、本当に教育と意識がすごくウエイトが大きくて研究に時間が割けない大変なところがあるのでご無理は言えないところは重々承知はしているんですけれどもそういう視点でもまたぜひ一緒に仕事ができればなと思いますので、よろしくお願いします。

石田議長: 今や保護者は学校等の教育機関にとってみたらお客様の最たるもので。

B: ずっと冒頭から校長先生、副校長先生の日々の学校内での話も聞かせていただいて濃い学生生活を送らさせていただいているなというのは良く分かりましたので。中学校の校長先生も見えて、私も年々、近所の人とか地域の中学生の親御さんから「鳥羽商船どう?」っていうことを毎年のように聞かれて、その人数がどんどん増えてきているっていうのは何十人ということはないですけど、増えてきて今年はすごく熱望していた生徒さんがちょっと入れなかったということもあって「えー、そうなの」っていうような。

石田議長:それは一に彼が悪いんです。

B: というようなこともあって、どんどん学力のほうも上がっているんだなというのも実感しましたし、入ってくる学生さんのレベルアップもそうですけど出ていく学生さんが鳥羽商船ということで先生もおっしゃったブランドというんですか。後ろ盾になっている。鳥羽商船卒と言えば「おー、えらい」って言われるような。会長が終わられた頃の商船とはまた今違うので、このエリアではもうやっぱり鳥羽商船って言えば「おー、えらい」という部類の学校だと思うし、ますます頑張っていただいて私、息子が2人ここにお世話になって今度5年生進学。息子が将来社会に出ていくときに鳥羽商船卒であるということを誇れるような学校にしていただければというふうに思っております。

石田:一言だけ言わせていただくと校長のほうからセールスポイントになるのかなというお話されましたけども、確かにこれまで見ていくとレベルは確かに入ってくるときは低いんですけど、やっぱり特に工業系の先生方はかなり努力をされて出ていくときには本当に他の工業高専の卒業生と就職先なんかも全く変わらないんですよ。だからそこまで育ててくれてるっていうことなので、そういった意味では胸を張っていいかなという気がしていますし、それがなおさら入学生のレベルが上がればもっともっと上にいけるかなと期待はしております。

石田議長:先生方も励みになりますよね。地の利として南のほうが減ってきているってい う、第一産業部門で若い人がどんどん減って、本校の入試でもやっぱり四日市、名古屋の 方にシフトしていっているんですかね。

石田:そうですね。もともと三重県自体が縦に長い県ですから、交通の便もいいところではないのでどうしても南のほうは名古屋、大阪のほうに出て行っちゃって残らない。だから逆に来てくれるかっていうとそういうところにいって鳥羽市なんてかなり移住してきてくれたらお金を出すっていう仕組みを作っているんですね。それでもなかなかやっぱり難しいですね。だからやっぱり三重県でいうと極端な言い方をしたら津から北ですかね。活性化しているというかそれなりに自治体としてうまくいっているという気はしますね。

石田議長:あの辺り、または名古屋を中心とした工業地帯がダーッとあるんで工業関係の 学科の卒業生も主だった大企業等へ。高専の痛いところなんですけどね。昔の人で地元の 企業に就職せえって、実は各工業高専入れて就職するほとんどが大企業のほうへ行ってし まうので、辛いとこでいいながら地元に支社、その他があればそこへ行ける。

石田:本校もやっぱりこれまでは確かにほとんど名古屋、東京、大阪ですね。工業系の学生が就職していく。だけれども、研究主任が中心になってやってもらっているんですが、三重県にはまだまだ活躍できる場がたくさん。先ほど中小企業という話も出ましたけれども、いいとこいっぱいあるというのが徐々に分かってきていますので、いろんな情報を仕入れながら地元に就職できればあとは行ってもいいなっていう学生が来てくれれば。

石田議長:三重大が中心となっている COC プラスのやつのあれも辛いところなんですけどね。卒業生の就職率を 10%上げろとかいうようなどこの大学にも地方化されてて。と言えどもそれほど予算くれないので大変なんですけど。その他ございますか。

学生生活等について、かなり寮がやっとついて改修。でも改修ですとそれほど部屋数は増えない?キャパが一緒なので。

石田:実は一度以前大改修をして一回部屋を減らしちゃったんですよ。建屋は一緒なんですけど。どんどん寮生が減ってきて空きスペースどうしようかってことで、相当前ですけれども、1回、共有スペースみたいなのをドーンと作り変えて。そこの今どんどん逆に増えてきたのでなんとかそれを元の寮室のタイプに戻せないかというので、ここ何年もずっと。もう10年ぐらいか。頑張ってリクエストしていたんですけれど、なかなかつかなくて。

石田議長:改修してからの順番みたいなのがあるので。

石田:「お前のところの寮生のキャパはこんだけだろう」とか言われて、「そこを満たしていないんじゃないか」とか言われて、いろいろすったもんだしながらやっとつきました。

石田議長:20~30 億ですか。

C: 予算は少ないです。4,000 万弱です。

石田: 4,000 万弱です。改修ですから。

石田議長:部屋数はそれほど増えない?

C: 22。22。計画では22部屋。

石田: 22 部屋。

石田議長:22部屋。1部屋2人?

石田:そうです。基本的には1部屋2人です。

1部屋2人。2人部屋ですから44人。

石田議長:40ぐらい。少し。

石田:場合によっては学年によっては、1人部屋になることも。

石田議長:上級生のほうは。

石田:取りあえず22部屋確保できると。

石田議長:ちょっと話はそれるけど。去年はインフルエンザ等で学生さんもいろいろ感染力が弱いとバーっと。そういう部屋もちゃんと取ってあるんですか。隔離しないといけない。

石田:療養室というのが確保してあって、そこに隔離するようにはなっているんです。

石田議長:でもかなりな学生数。

石田: ただうちは発症がわかった時点で寮生は家に帰らせます。それ以上の拡大を防ぐために。帰り途中大変かもしれませんけど。ばらまきながら帰ってるかもしれないですけど。

石田議長:学生生活等で本校の非常に特徴でいるいろなコンテストで特に情報で非常に優秀ですけど。今日日問題になっている先生の労働の問題で課題活動の指導っていうのは。大学だとほっとかないですむんですけど。高専の場合は高校の指導できちっと先生がついてきたりとか。その辺の課外活動の先生の、あんまりやらせるな。オーバーワークさせるなということで文科省もはっきりと数字出してきましたけど。本校辺りはその辺りはどのようにされているんですか。

石田:本校としても課題としてはあります。それは。やはり熱心な先生はずっとクラブ活動見てますし、毎週のように大会の引率だとかに行かれますので、非常に労働管理としてはグレーな部分があります。ただ。

石田議長:グレーではすまなくなって。

石田: ただやはり意識として、学生主事がおられますが、学生主事がかなり目配りしていただいて、そのへんの危ないところはケアしておられるので。

石田議長:学生も休ませと。週のうち2日は完全にフリーにしなさいと。

石田:機構本部のほうからも調整変えて。顧問の先生、月に何名休みましたとか。うちは リマークはつかなかったんですけど、厳しいことは厳しいですね。

石田議長:シイナ先生からはやらせたいということにはどうもならないみたいなんで。たぶん管理者責任が出てくる。文科省もそこはきっちり方針を出しだしたから。土曜日、日曜日は絶えずどっかで試合をするというのは学生もしんどくて駄目だということで、週2日は長くやすませなさいというのがあって、それができない週は次の週とか。ただ予選と

かなんかは高校野球なんて最たるものですけれど。そういうのも振り返りなさいということになってきだしたので。

石田:機構本部のほうからも以前から言われているんでけれども、かなり本腰を入れてこれは各学校に指示を出さないとまずいなという姿勢になってきて。課外活動もしかり、それから寮当直もしかりですよね。この辺のところも先生の負担軽減ということでおそらく機構本部からそれなりの指示がくることになるんじゃないかなという懸念はあるんですけど。

石田議長:鳥羽商船高専さんもその辺り事前に対応を考えられていたほうが。あたふたと。

石田:特に寮は、実は外部委託というものを考えつつこれまできているんですけど。

石田議長: 先生もどなたかねやっぱり見ないとね。

石田: なにぶん、石田先生ご存知だと思うんですけれどもやはり教員が見ていないと厳しい部分が結構あるので、なかなかジレンマです。

石田議長: ただ全教官がここに回っている。

石田:60歳以下。寮当直が免除されているのは三主事。

石田議長:それだとそんなに1カ月に土曜日、日曜日も平日も潰れるというのはそれでもない。たぶん数回ぐらい。 $2\sim3$ 回ぐらい。

石田:今月に平均1.5回。

石田議長:大丈夫ですね。クラブのほうが時間かかるので。クラブのほうは何らかの形で やっといたほうがいいのかなと

石田: クラブに関しては、全部ではないんですけど外部の指導員というのを協議しまして、 教員の負担を担うような方策を今練っております。定員減ということもありますので、そ の辺のところも強化しなくてはいけないんだろうなという話も思っております。あと機構 本部のほうからまだ来ていないんですが、外部の指導員が高専の場合には対応しなくちゃ いけないんですけれども、そこに引率が可能になるんじゃないかというような話も聞いて おります。まだちょっと来ていないんですが、今年度中にでるんじゃないかというような こともありますので、できますればそういうところで、お金が必要だということもあると思いますけれども、そういう対応をしていきたいと考えております。

石田議長: 熱心な先生も土曜日日曜日練習試合でもうちょっと、ご本人が了解していればいいというものではどうもないみたいな話で。

石田:漏れ聞いたところでは、ある高専は高専大会は出場しないと決めている。

石田議長: そこまでいくんですか。

石田: そこまで行っている学校があるんです。思い切るな。

石田議長:極端な。最初の頃の発表が非常に多岐に渡ってますので、皆さんがどれかというものがありましたら。今学生生活についてということでしていますが、いかがでしょうか。今日日入ってくる学生、やっぱり心の病と非常に弱い子どもが。これはどこでもそうなんですが。学生支援相談室のところの学生が、拝見するとカウンセラーの方が1名で週に1回。お医者さんのほうは月1回。お医者さんなかなかこれないですけど。あとは先生が毎日入られるんですか。どうも学生さんに聞くと先生にはやっぱり相談しにくい。そうすると看護婦さんがおられますよね。看護婦さんがカウンセラーのところに個人的な相談に。そういう意味では僅かなお金なんでしょうけれど、週にもうちょっと増やすなり、学生さんたちがやっぱり先生に聞くというのはちょっと格式張ったような話はやはりどこでもそうですが看護婦さん。その辺りぜひ学生相談室は先生が。

石田:私は室長ではありません。

石田議長:学生主事。

石田:学生相談室長というのが別に。

石田議長:またおられるんですか。その辺り、学生さんのこれも今日日そういうのちょっと見ておいてやらないといけないですね。

石田:そうです。確かに看護師さんへの相談が非常に多いですね。

石田議長: それはやっぱり先生には言いにくい。知ってほしくないと。そうするとなかなか自分の心の病は出せないので、そういう意味ではぜひこの拝見したらちゃんとしているということになっておるんですけれども。

石田:実は幹事監査の時にちょっと少ないねって言われました。

石田議長:そうですか。

石田:増やしたいなと。

石田議長:学生のためにはそこはやっぱり。先生に相談される内容とそうでない内容がある場合があるので。

カウンセラーさんは女性の方?

石田: そうです。1名が女性ですね。男女1名、1名です。

D: ただ看護師さんの方は2名おりますので、2名女性。

石田議長:看護師さん、2名おられるんですか。

D:1人は正規の人。あと非常勤ですけど、ずっと来られる方。

石田:一応相談室員は担任も何も持たれていない先生が相談室員になってます。

石田議長:その先生はああいうカウンセラーの講習会とか受けてられる。何か資格があるようなことを聞いたんですけれど。

石田: 教員に関しては資格はいらないんですけど、ただ機構とかやってくださる研修には 行かせるようにしています。

石田議長: そういう意味では **OB** の先生方でそういうのでこられた記憶があるんですけれどね。学生相談のカウンセラーの先生がですね。リタイヤ、でもやっぱり中におられる人はなかなかしづらいので、リタイヤされてから。そういうソフトな部分。学生さんも弱くなっているので、うまいこと育てて、学力だけじゃなしに。昔の商船高専だったらしばい

て叩いて、引きずり回せば皆、ついていけるほど頑丈だったんですけど。今はもうそこまでいかないので。

増田:学生さんの生活で言いますと具体的に何かっていうことじゃないんですけれども、18歳の子で外から来ている学生さんが随分多いんだなという印象を今受けましたので、その18歳ぐらいになってくると三重って田舎やなぐらいに思ってしまうかもしれませんけど、伊勢、志摩、この鳥羽ってやっぱり年取ってくるとわ一良かったなといいとこやなって絶対思うとこあると思うんで、そういう素養といいますか何かこれは学校教育の中なのか休みの近隣での遊びなのか分かりませんけど、そういうのをなるべく楽しめるような環境づくりをぜひお願いしていただいて、また外へ就職される方も多いみたいですけど、やっぱり底でもぜひ三重県のファンになっていただいて、三重を応援していただけるとかいずれこっちの戻ってこようかとか戻るというか本来のふるさとじゃないけどこっちへとかそういうような雰囲気につながれば非常にありがたいなと思いますので、感想だけですけれども。

石田: その意味では COC プラスでその辺を意識しながらいろんな授業を展開してもらっていますし、このあとコンソーシアム三重がその火を引き継げば、そちらがそういうことを考えてくれればうちも入ってますので。今山本先生はどうかなと。

山本:気持ちだけはあるんですけど。

石田議長:研究指導担当の教務主事等には耳の痛いお話もされていましたが、研究所の申請。だいぶ資金取れ、取れって言って、ある意味本末転倒なんですけどね。こういうことをやりたいから研究費を取るっていう。表に取る。なんでもええから研究費を取ってこいみたいなおかしな話になるんですけど。なかなかということで 90%を超えるらしくて、申請率がその中の申請ですけど。研究業績や何も要求されないやつは今でも独創的うんぬんでやっていけば。他はかなりの積み上げの部分を。やっぱり大切な税金を出すのでこの人はちゃんとこういうことができるのかということで出すので、その辺り三重大学の先生方に講習会をやってもらうとか、協同でやってもらうとかいうようなお話はなかなかないんですかね。

石田:科研をとるための講習会というのは講師を呼んでやるんですけど、それほど参加者 が多いかっていうと。

石田議長: まあ、どこもね。なかなか。

石田: ただ、やっぱり私がうちの学校の先生のことを言うのもちょっとはばかれるとこですけれども。科研を取るためにはそれだけの業績を乗っけていかないと取れないので。

石田議長:だから積み上げがね。きちっとテーマから。

石田: そこをそういうふうに1本でも2本でもなんとか論文を書いてもらえばいいと思うんですけれど、そこからなので結構厳しい。

石田議長:分担されている方は数字の中では申請。主の方だけ。分担されている方も結構 おられる?

石田:何人かおられます。

石田議長: それをつないでその中の一部でも出していくとか。 三重大にこだわらずにですけど。一番近くて研究と協同でさせていただきやすいというのはやっぱり山本先生のとこだなと思うんですけど。 分担なんかでも最初からそういうところで。

石田:ですから三重大が近いので自分と関係性の高い研究室のドアを叩いてくれれば一番いいんですけど。なかなかそういうのをしない。

石田議長:商売しているということで。Sという。もう私も委員じゃないので言っていいと思うんですけれども、第二審査の頃Sやってたんで、でも大変ですよね。

石田:そういう意味では地域のいろんな課題がネタになると思うんですけど、そういったところで食いついてくれれば一番いいかなと。

石田議長:いろんな申請分野とかありますね。私は環境系か光学系のところで得てたので。「なんで石田、お前そこに座っているんだ」ってあとで言われましたけど。それで僕理学系やからということで。ぜひ頑張って正解は少しずつ積み上がっていくと期待しますけど、ちょっと近隣に三重大学という総合大学があるのでその辺り、今日来られている山本先生なんかにご助力いただきながら一人でも二人でもちょっとずつコロシアムできるようなところやっていただければいいかなと。ただ石田先生、それは一朝一夕に絵に描いたお餅を描いたって委員の先生方は何を言ってもはねますから。この頃大変になってきたから。審査の先生は。全部コメントを書かなくてはいけない。昔はいいのと悪いのだけ。そのもっと昔は何も書かなくても良かった。

あとは国際活動、非常に活発に本校されていますけれど、それに対する支援というのは何 かどうでしょうか。

石田: 国際ですか。特に今ないです。一応細々ですけれども会長が来られていますが、奨学後援会のほうからいくらかのお金をいただいて研修費にある一定金額以上かかったら補助を出しますというような一応制度は動いています。あとは JASSO からの辺りのところにお願いして、申請して通るというのは、最近 JASSO もなかなか渋くなってきまして通らなくなってきます。

石田議長: 菅沼さん、同窓会員から大きな支援でというのもお願いしてもらえますか。

菅沼:まずやるのは、私同窓会のメンバーで生徒勧誘っていうか。

石田議長: ぜひ在学生の支援同窓会としては、この頃出身校からもやたらと寄付のあれがきます。高専はその辺わりかしおとなしいかなと。良識あるのとない学校といろいろありますけど、ぜひ大人の後輩の在校生が少しでもキャリアアップして教育をつけるのに親御さんもみんな経済的に余裕があるわけじゃない方も多いので、そういうのを少しでもサポートしていただければありがたいのかなと。あれほど活躍されているので。どうぞ。

鳥羽市が人口が減ってしまって、できるだけ鳥羽に人を増やしたいなというのはあります。 諸説でたときにどんな答えないと思うんですけれど、どういうところがあれば鳥羽に残る かな。どういう施設?どういう機関というのが鳥羽にあると商船の学生だけやないんです けど、どういう施設どういう機関があれば鳥羽に残るかな。卒業して鳥羽に。

石田: そこは長年在住者が一番分かっているかもしれないです。

増田:今からわれわれがやっているってことは実は別に大きな企業じゃなくても必要とされる技術になってきつつあると思っています。だから例えば旅館とかであっても、簡単なアプリみたいなものはその従業員が作って運用していくみたいな時代がすぐそこまできていると思っています。鳥羽市ってこれだけ観光業が盛んで実際の求人倍率 10 倍を超えてるすごい特殊な地域だと思うんですけども、だから鳥羽港を始めとして学生が地域に根付いて働いていくという。そのためには地域の産業を理解して、どういうところで自分が活躍できるかなということが分かってくると別に新たに何かがいるというわけではなくて、今あるところが受け入れる仕組みというか、われわれとかが活用できる仕組みみたいなものがミックスされていけばお互いにいい感じになっていくのかなと思って、地域に電気のプ

ロジェクトを今重点的に進めているという状況であります。これでお答えになっていますでしょうか。

いろいろと子どもたちもよく知っていますので、そういうことが活かせるというかここで作るところはどっか違うところにいってしまうのではなくてそれをここで作ってここで管理できるという場所とかそういうものがあれば、それはどういうところなのかなと言うのはありますので。

石田議長:なかなか地域に根ざした人材育成というのは言うは易し、行いは難し。われわれも若いときそうですけれど、まず自分の殼から飛び出て、私は大阪から飛び出て、今度は日本から飛び出てIターンとかJターンとか言われているそういう方々をまたそこで見合った人が戻りたいなという体制がどうも。たぶん本校の学生さんたちも最初から鳥羽のところに就職して、三重県内に就職してもやっぱり名古屋とか東京とか都会でも、戻ってこれるときにそういうのが、そりや本校も活躍する一つの人材育成の場でもあると思います。前任で行ってた大島商船、前の校長のときに、JST の予算があったので私、毎年 4,000~5,000 万、5年間予算いただいてやった成果がものすごく良かった。姉妹活動とか企業とか戻って来られる方が非常に多くてそういう動きが鳥羽であり、三重であり。三重は東京も近い。

時間もせってきておりますが、あともう一つぐらい。

キャリア支援についてはかなり改善されて 多くの企業に来ていただいて、ちなみにお金はいくら取っているんですか。

石田:1社1万でしたっけ。

石田議長: そうですか。100万に乗るように。時期的なものも就職の説明会うんぬんと時期がきていますので、その辺りも柔軟に。

菅沼:一ついいですか。私いまだに鈴鹿とか豊田の関係者と付き合っているんですね。たまたま鈴鹿高専の同窓会の方にも。いわゆる部活っていうのも盛んにやっています。鈴鹿もトヨタも。母校へ帰ってきますと、同窓会が盛んというふうには今取れませんよね。だから5年半、一貫教育もちろんヘッドも大事ですけれど、心身を鍛えるというのでなるべく部活というものは今の在校生の方ができるように、もちろん先生方の負担を逆になくなる逆にしたほうがいいんじゃないかなと思います。学校オープンなんかしますと東海地区インターハイでもうちの学校は出ることに意義があるんだというふうに思わざる負えないような成績ですよね。見とると。一貫教育ですのでできれば体育のほうを充実していただけたらなと先輩としてそういうこともあります。

石田議長:議長の進め方がちょっとだらだら後ろに伸びまして誠に予定時間をかなりオーバーしております。この辺りで当委員会の質疑応答等を終わりにしたいと思いますが、ただ今までに各委員の先生方からいただきましたご提言とか改善案とかそういうものについて次年度の本校の運営、協力、研究に活かしていただけるようによろしくお願いいたします。それでは終わります。

鶉野: 閉会にあたり校長林からごあいさつ申し上げます。校長先生、お願いします。

林:議長におかれましては、3人5分ほど遅刻してきましたので、そのつぐないを今調整をしていただいて本当にありがとうございます。最後に議長言われたとおりにいろんなご意見をいただいて来年のこの会議はもっと少しでも褒められるようにちょっと、ちょっと、ちょっとを積み上げていきたいというふうに考えております。今日はいろんなご意見いただきましてありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。

鶏野:どうもありがとうございます。以上を持ちまして平成30年度運営諮問会議を終了させていただきます。電車でお帰りの方は鳥羽駅までお送りさせていただきますので、1階玄関前にお集まりください。お車の方は道中お気をつけてお帰りください。またお忘れ物ございませんようお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

独立行政法人 国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校の概要

2019(H31)年3月14日

国立高等専門学校 全国で51校(55キャンパス)

商船学科のある高専は5校のみ



旭川

苫小牧

八戸

秋田

釧路



独立行政法人国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校

National Institute of Technology, Toba College

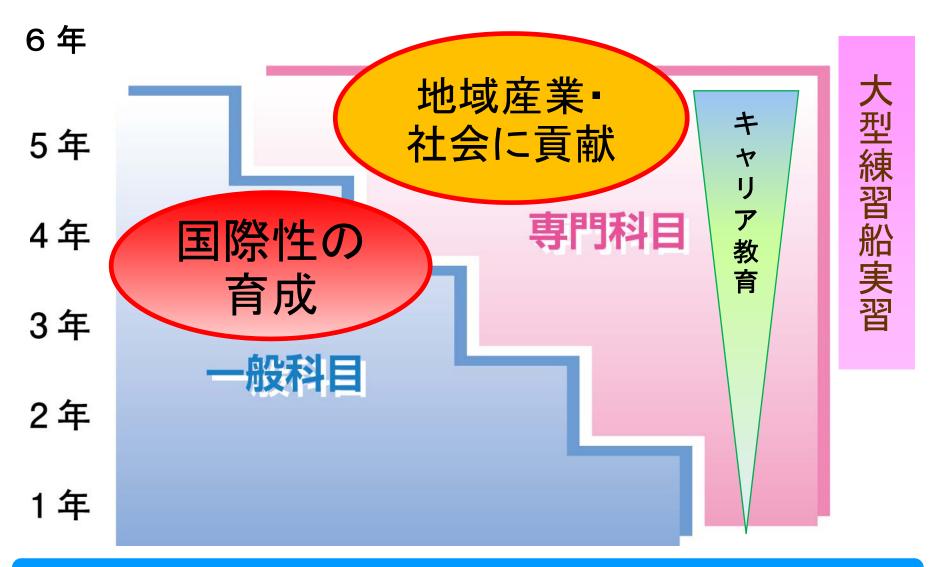


- 〇 教育理念•教育目標
- □教育理念 進取•礼譲•質実剛健

口教育目標

- 1. 人間性豊かな教養人となること
- 2. 創造豊かな技術者となること
- 3. 国際性豊かな社会人となること

〇 高専教育システム(本科)の特徴



くさび形教育 5年(商船は5年半)一体型の技術者育成

〇 本校のセールスポイント

伝 統

- 創基138年の伝統を持つ
- 同窓会活動が充実しており、卒業しても強い味方

立地条件

■ 交通の便が(他の4商船系高専と比較して)相対的に良い

進路

■ 他の工業高専に比べて入学しやすいが、進学・就職先は 工業高専と同程度

〇 学校史1 明治14年~昭和20年

明治14年(1881) 東京攻玉社分校として鳥羽商船黌開校する。(8月20日)

明治28年(1895) 私立東海商船学校に改称。

明治32年(1899) 鳥羽町立鳥羽商船学校となる。(機関科が設置される。)

明治44年(1911) 三重県立鳥羽商船学校設立。

昭和14年(1939) **文部省直轄の官立**鳥羽商船学校となる。

昭和17年(1942) 逓信省移管となる。

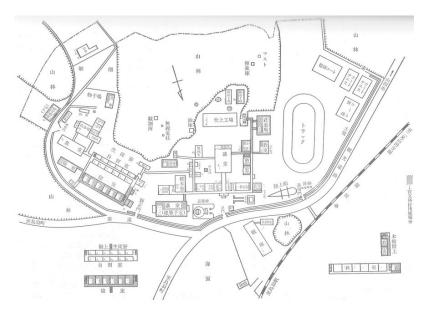
航海練習所、文部省から逓信省に移管。

昭和18年(1943) 逓信省は**運輸通信省**となり、商船学校の所管名が変わる。

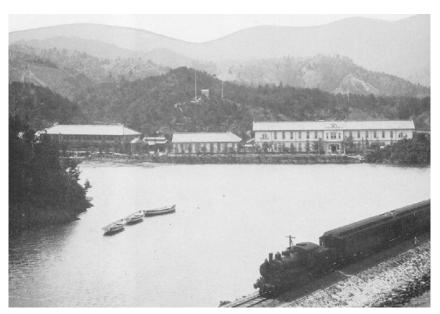
昭和20年(1945) 運輸通信省は**運輸省**となり、商船学校の所管名も運輸省となる。



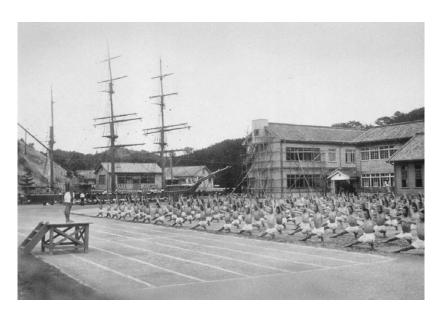
県立時代の校舎正面



昭和17年当時の平面図



県立時代の校舎全景

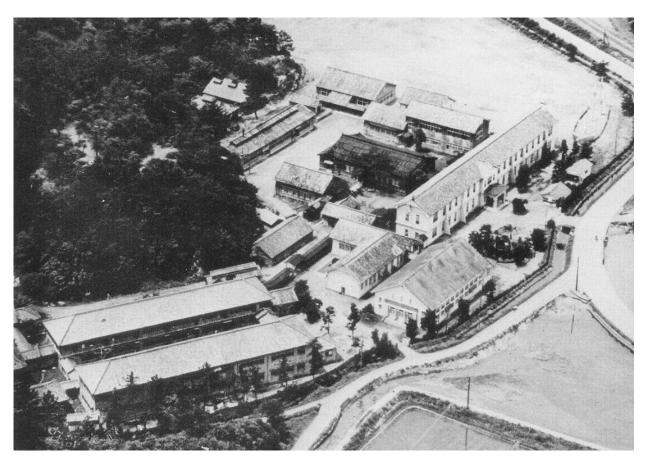


昭和18年度の陸上鍛錬大会の様子。

O 学校史2 第二次世界大戦戦後

昭和26年(1951) 鳥羽、富山、大島、広島、弓削の**5商船学校は**国立商 船高等学校**として文部省**に移管。

昭和42年(1967) 国立鳥羽商船高等専門学校開校式挙行。



高校移管直前の本校全景

〇 学校史3 昭和高度成長期~現在

昭和56年(1981) 創基100周年記念式典挙行

昭和60年(1985) 改組により電子機械工学科設置

昭和63年(1988) 制御情報工学科設置。

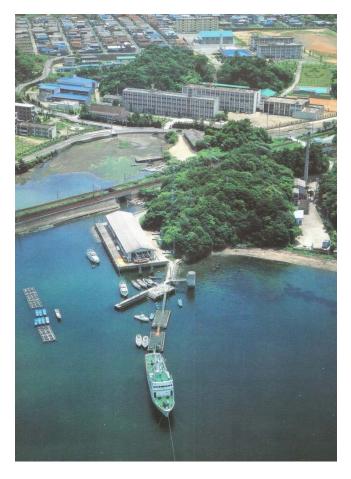
これにより、3学科体制となる。

平成13年(2001) 創基120周年記念式典挙行

平成16年(2004) 独立行政法人国立高等専門学校機構鳥羽商船高等専門学校となる。

平成17年(2005) **専攻科**設置(海洋システム学専攻、生産システム工学専攻)

平成31年(2019) 工業系学科の改組(情報機械 システム工学科)



100周年当時の本校

〇 本校の教職員 (2019.4.1(予定))

教育職員					事務職員等			合計
校長	教授	准教授	講師	助教	部課長	係長等	一般職員等	
1	22	23 うち2は 海事職	1	7 うち2は 海事職	3	13	26	96
		54 うち4は海			42			

〇 商船学科

● 航海コース : 航海士、船長をめざします

●機関コース :機関士、機関長をめざします

第3学年でコースが分かれます

海上のプロフェッショナル





1年間の 大型練習 船実習

〇 電子機械工学科



○ 制御情報工学科 先端技術を学び、未知の領域に挑戦する



情報機械システム工学科

3つの特色を持つ新学科

- 学生の個性に合わせて複数のモデルから選択
- 学年縦断型のチーム編成で地域課題解決PBL
- 少子高齢化による人手不足の解決手法提案

課題の解消

- 高齢化、若者の地元定着不足による 地域産業の衰退
- ICT IoTを利用して新産業をリードする人材が不足

農林水産応用

観光・サービス業

IoT クラウド AI スマホアプリ 機械学習 3D CAD シミュレーション 組込みシステム Web

情報系

電気電子系

機械系

プログラミング教育

プログラミングを基盤としたカリキュラム

地域産業

農林水産業・サービス業

企業など

製造業•情報通信業



第4次産業革命 促進人材

協働PT

高専

社会実践体験:問題解決力



<u>地域住民</u>

理工系人材発掘・課題発見





遠隔操作による害獣捕獲

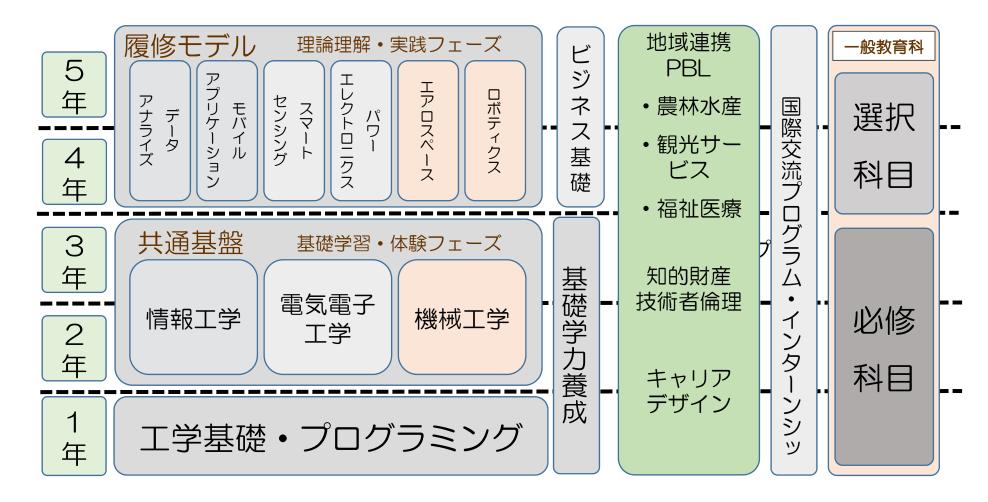
地域の産業を理解し課題発見、

自治体や企業と連携したPBL実践



環境計測による養殖産業支援

- モデルコアカリキュラムにおける情報工学系、機械工学系を主たる主分野、副分野とする融合複合学科 (両分野をつなぐ電気電子分野についても、必要最低限を必修科目として配置)
- 1年次には、プログラマ(論理的)思考を定着させるためのプログラミング教育を実施
- 2·3年次には、3分野の基礎科目の履修を通じ、PBLにより対象分野への興味を持たせる
- 4・5年次には、複数のモデルから主軸となる分野を決定し、理論に基づいて実践可能な人材育成 (モデルは社会の要請を先取りして適宜変更し、レイトスペシャリゼーションを推進)
- ・ アントレプレナーシップを育成する「ビジネス基礎」も副履修モデルとして配置



〇 専攻科

海事システム学専攻(定員4)

・商船学科などから進学

生産システム工学専攻(定員8)

・電子機械工学科・制御情報工学科 などから進学

本科の上に専攻 科が設置されて います 高度な専門的学 術を学んで、 国際的感覚と広 い視野を持った 実践的専門技術 者をめざします

2年間の 少人数教育 「学士」の学位が取得可能





〇 2018年度のプロジェクト採択と主な受賞

ロ プロジェクトの継続

2017年度 KOSEN4.0イニシアティブ採択 全高専で36件採択 (全51高専から96件提案)

(継続プロジェクト: 第4次産業革命を促進するプログラマ育成と地域活性モデル)

- □ 第29回全国高等専門学校プログラミングコンテスト 自由部門最優秀賞、文部科学大臣賞(3年連続)
- □ マイクロソフト イマジンカップ 世界大会2014年に続き2回目の出場
- □ 第7回高校・高専「気象観測機器コンテスト」 最優秀賞受賞

〇 地方自治体および他高専との連携強化

① 三重県工業研究所との包 括連携

高度な計測機器と情報技術

- ② 鳥羽市との包括連携 災害時の協働
- ③ 鈴鹿工業高専との連携 教職員の人事交流
- 4 和歌山工業高専との連携 科研S申請

第三ブロック校長・事務部長会議

- 全国5ブロック

□参加校(11高専)

(東海)岐阜、豊田、鳥羽、鈴鹿

(北陸)富山、石川、福井

(近畿)舞鶴、明石、奈良、和歌山

口活動内容

- ① 教育•研究
- ② 国際交流
- ③ 人事•管理運営

独立行政法人 国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校の概要

2019(H31)年3月14日

国立高等専門学校 全国で51校(55キャンパス)

商船学科のある高専は5校のみ



旭川

苫小牧

八戸

秋田

釧路



独立行政法人国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校

National Institute of Technology, Toba College



- 〇 教育理念•教育目標
- □教育理念 進取•礼譲•質実剛健

口教育目標

- 1. 人間性豊かな教養人となること
- 2. 創造豊かな技術者となること
- 3. 国際性豊かな社会人となること

〇 高専教育システム(本科)の特徴



くさび形教育 5年(商船は5年半)一体型の技術者育成

〇 本校のセールスポイント

伝 統

- 創基138年の伝統を持つ
- 同窓会活動が充実しており、卒業しても強い味方

立地条件

■ 交通の便が(他の4商船系高専と比較して)相対的に良い

進路

■ 他の工業高専に比べて入学しやすいが、進学・就職先は 工業高専と同程度

〇 本校の教職員 (2019.4.1(予定))

教育職員					į	合計		
校長	教授	准教授	講師	助教	部課長	係長等	一般職員等	
1	22	23 うち2は 海事職	1	7 うち2は 海事職	3	13	26	96
	54 うち4は海事職					42		

〇 商船学科

●航海コース : 航海士、船長をめざします

●機関コース :機関士、機関長をめざします

第3学年でコースが分かれます

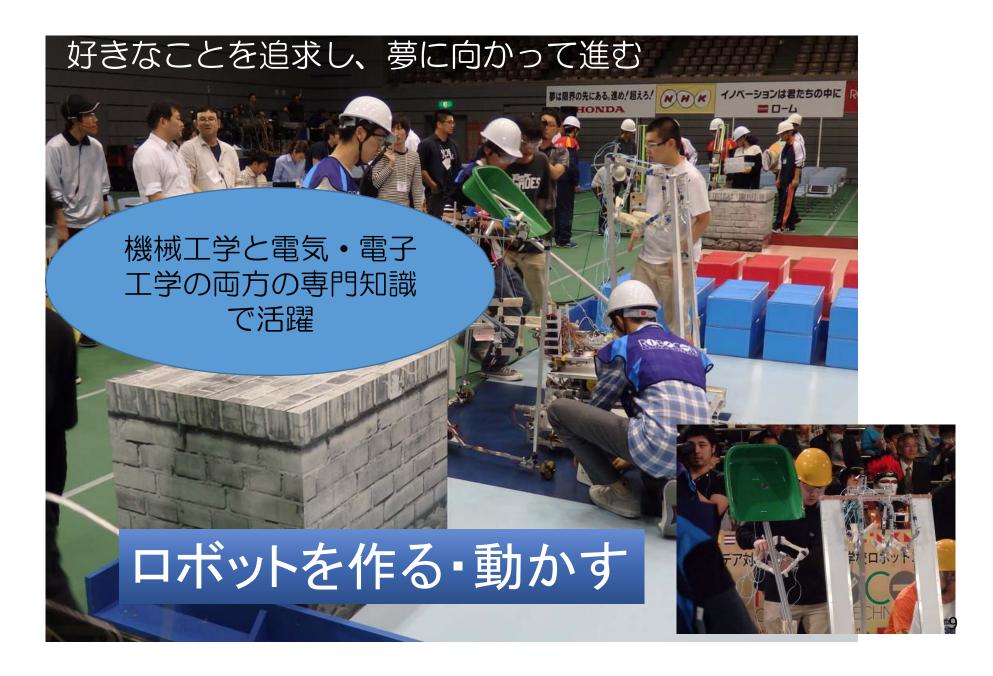
海上のプロフェッショナル





1年間の 大型練習 船実習

〇 電子機械工学科



制御情報工学科 先端技術を学び、未知の領域に挑戦する



〇 専攻科

海事システム学専攻(定員4)

・商船学科などから進学

生産システム工学専攻(定員8)

・電子機械工学科・制御情報工学科 などから進学

本科の上に専攻 科が設置されて います 高度な専門的学 術を学んで、 国際的感覚と広 い視野を持った 実践的専門技術 者をめざします

2年間の 少人数教育 「学士」の学位が取得可能





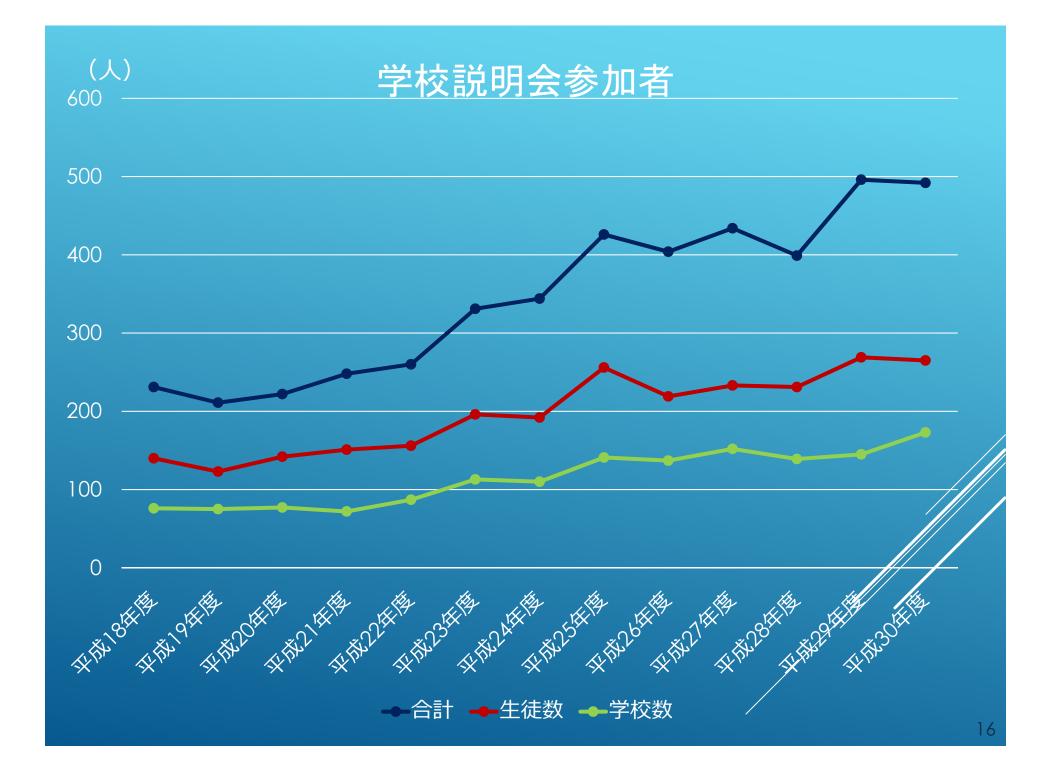
報告内容

- 入学者の確保(入口)
- 留年・退学
- 就職・進学(出口)
- 教育目標達成度
- 満足度アンケート
- 教育改善
- 教育の質の向上
- 他機関との連携・協力
- 地域との連携・貢献
- 学生支援・生活支援
- 研究活動
- 学生の活躍

入学者の確保

学生募集 · PR活動

- 春季学生募集巡回PR(6月) 県内中学校 211校[148]
- 秋季学生募集巡回PR(9~10月) **214校**[225] 和歌山•静岡•奈良•岐阜•滋賀 41校[36] 愛知 37校[43]
- 同窓会会員による中学校訪問愛知県、大阪府を中心に14校
- オープンキャンパス(8月18·19日) 合計492名[496]参加(中学生265名[269])
- 海学祭での入試説明会(10月22日 120名[36組])
- 近大高専、鈴鹿高専との合同説明会(志摩は本校生催)
 名古屋名9[6]、桑名27名[4]、伊勢34名[36]、志摩13名[23]、津7組み[8名]、四日市52名[12]、蟹江、尾鷲



- 新学科新設に伴うリーフレットを県内外の中学校1480校に 配布
- 学習塾関係者対象説明会(10月10日)14団体[9]
- 中学校主催「進路説明会」(6~11月)参加 23校[26]
- 受験相談会(11月26日) 28名[26]
- 学力検査選抜直前、入試説明会(2月3日) 27名[34]
- 国立高等専門学校(商船学科)5校合同進学 ガイダンス(横浜、神戸)(6~7月) 177名[230]
- ◆公開講座「サイテクランドin鳥羽商船2018」(7.8月)11講座[6] 119名[94](延べ人数)
- 高専機構主催「国公立私立合同説明会」に参加

●鳥羽丸PR航海

(練習船の一般公開、体験航海)

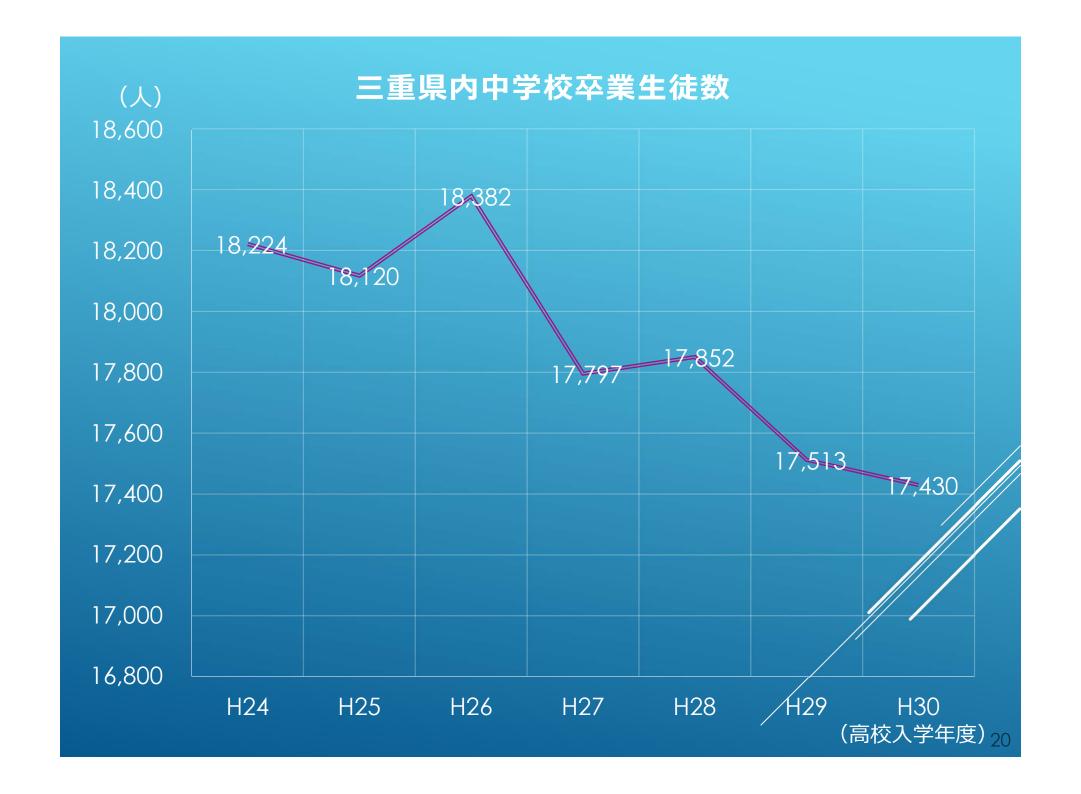
8月4,5日:四日市(約600名)

11月10,11日:名古屋(約400名)

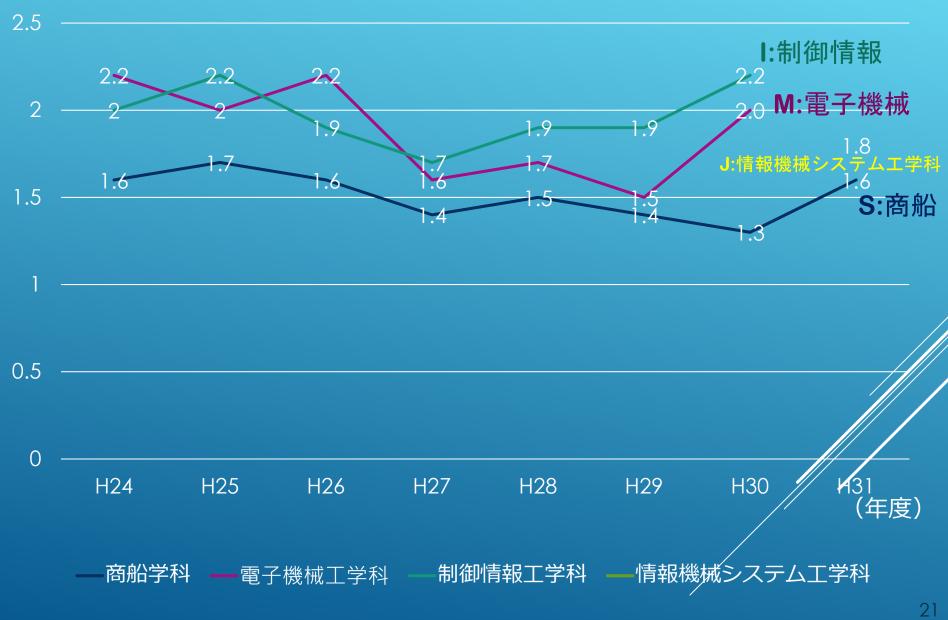


- ●NPO法人「故郷の海を愛する会」主催事業に協賛 7月26日 JMU造船所見学と鳥羽商船高専の練習船で体験航海 12月8日 もうすぐクリスマス。遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話
- ●テレビ・新聞等における本校行事・学生活動の報道 31件[13]
- ●鳥羽市HP、自治会誌、同窓会誌での学生活動記事掲載
- ●HPをリニューアルし、積極的な情報発信に努めた。 情報発信はトピックス29件[12]、学生の活躍14件[13]

入学志願者



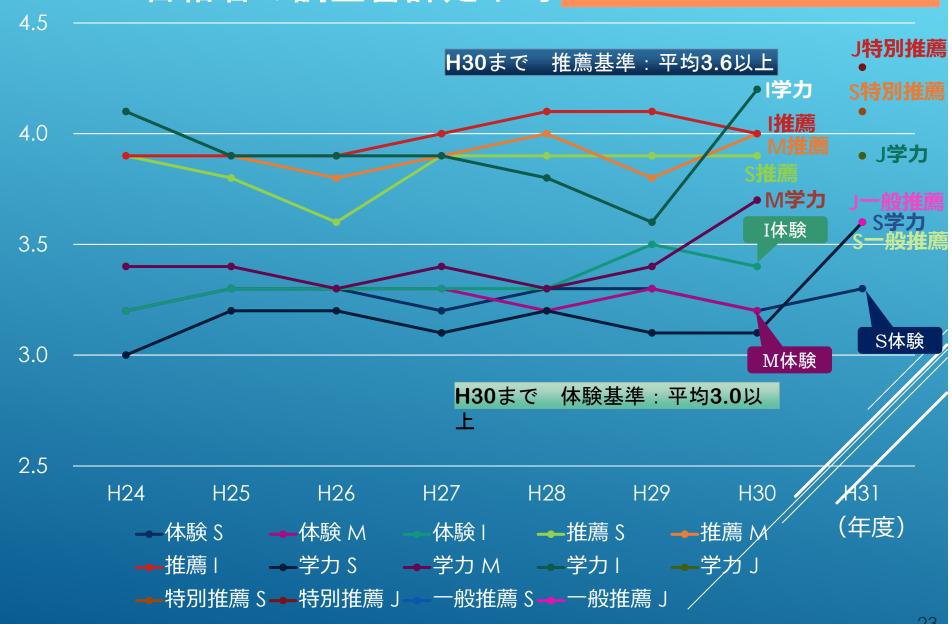
志願者倍率

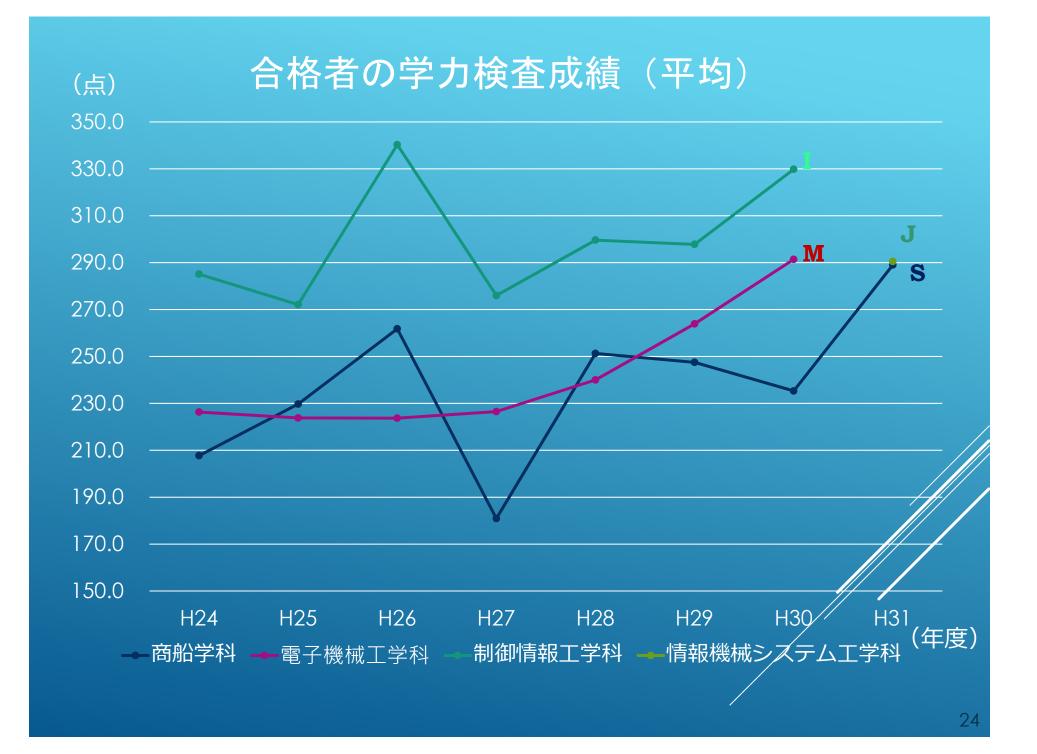


合格者の学力

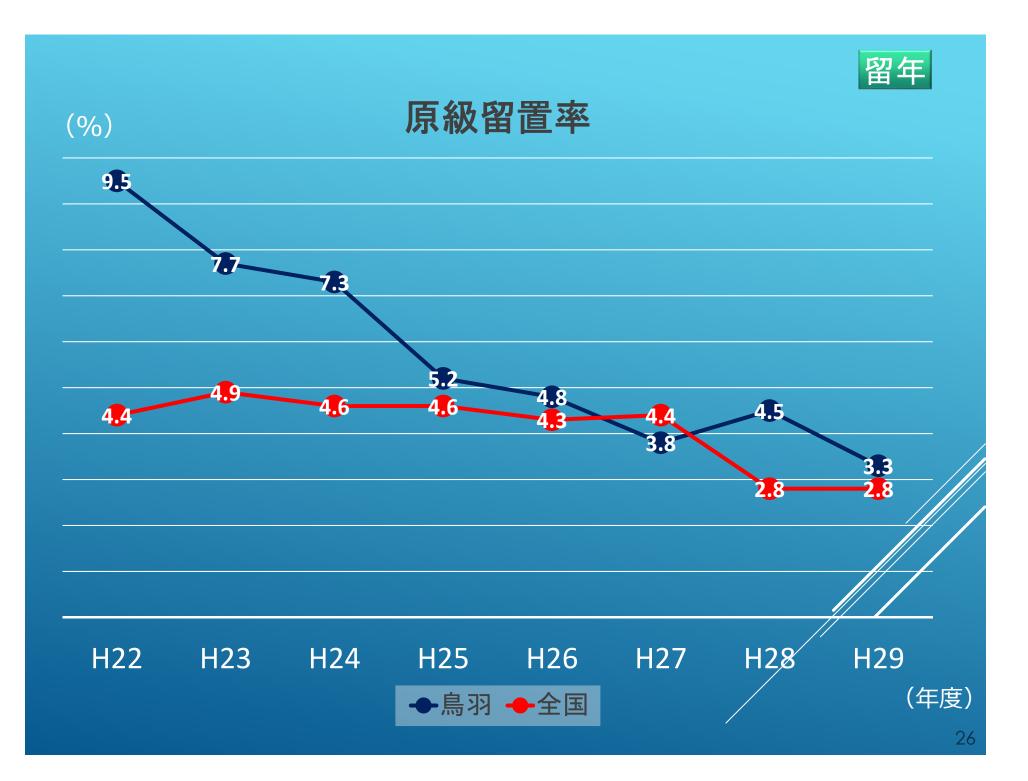
(点) 合格者の調査書評定平均 一般推薦: 2,3年生で平均3.4以上

特別推薦:2,3年生で平均4以上

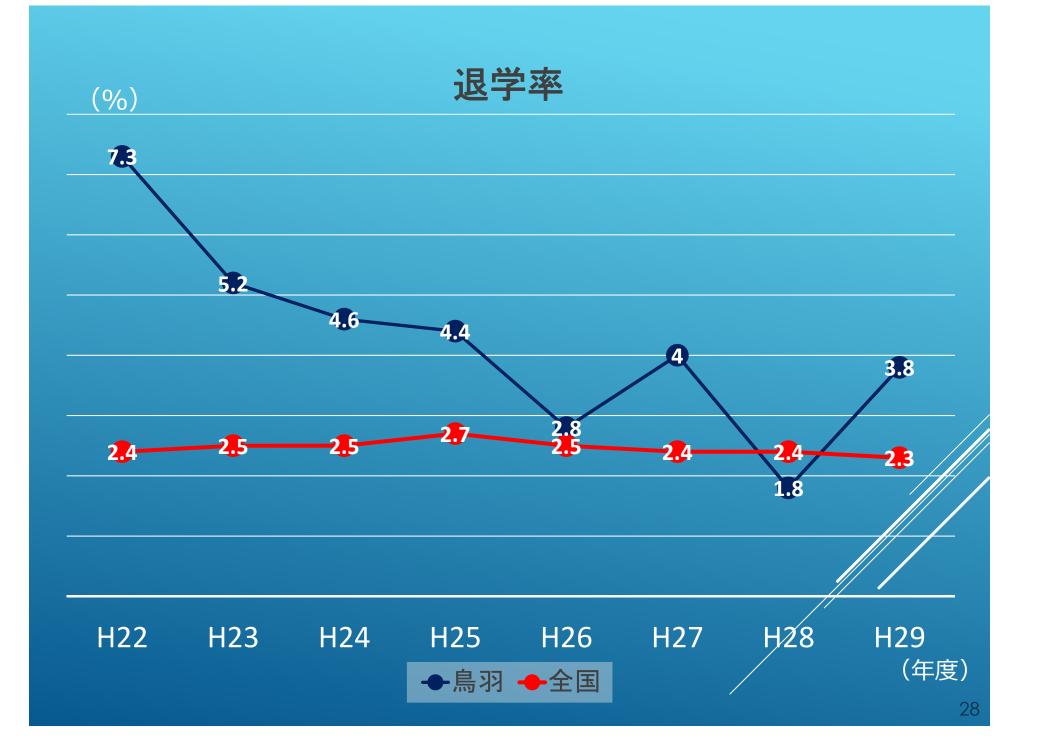




留年



退学



就職 • 進学

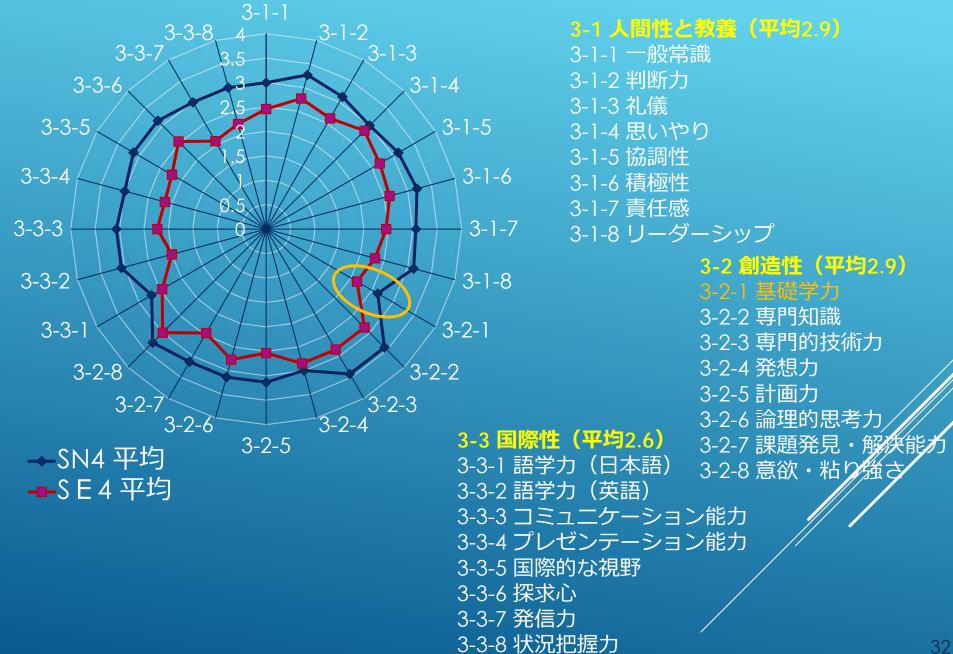
就職・進学率



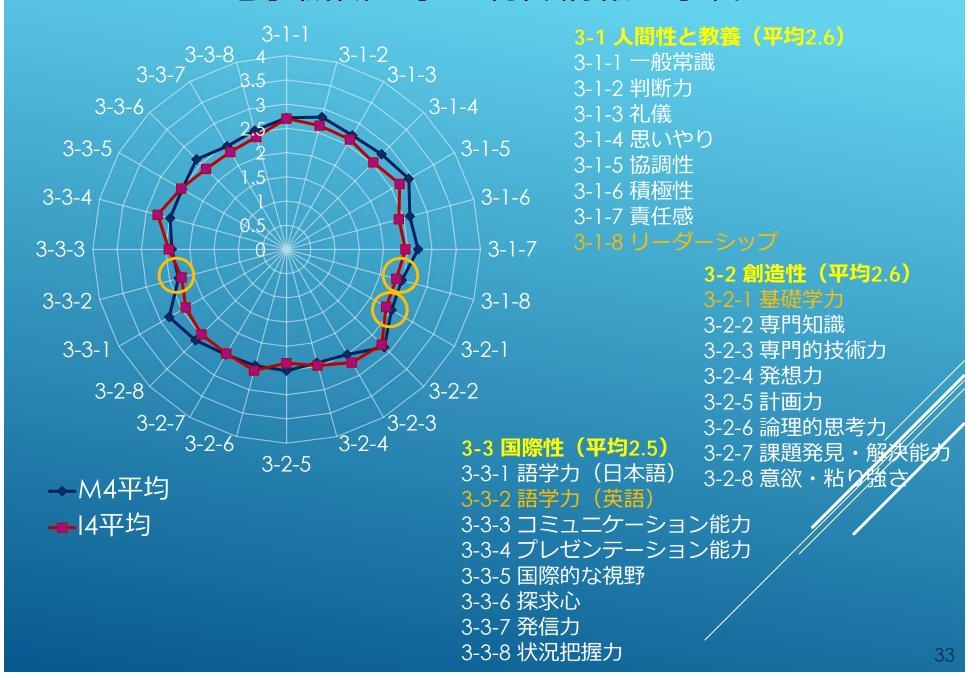
3年間における教育目標達成度

(新4年生に実施)

商船学科

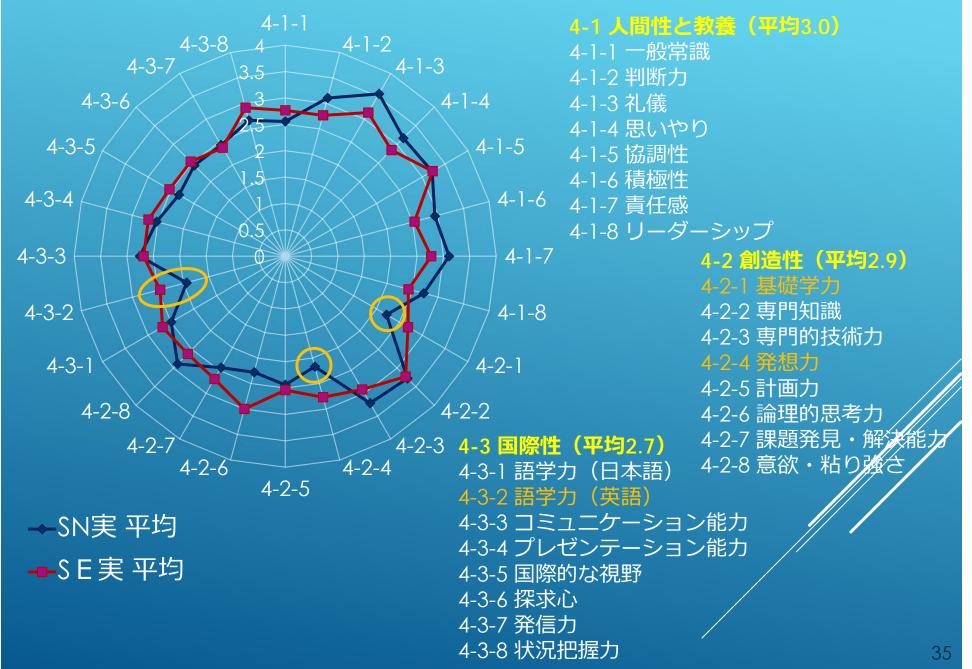


電子機械工学 · 制御情報工学科

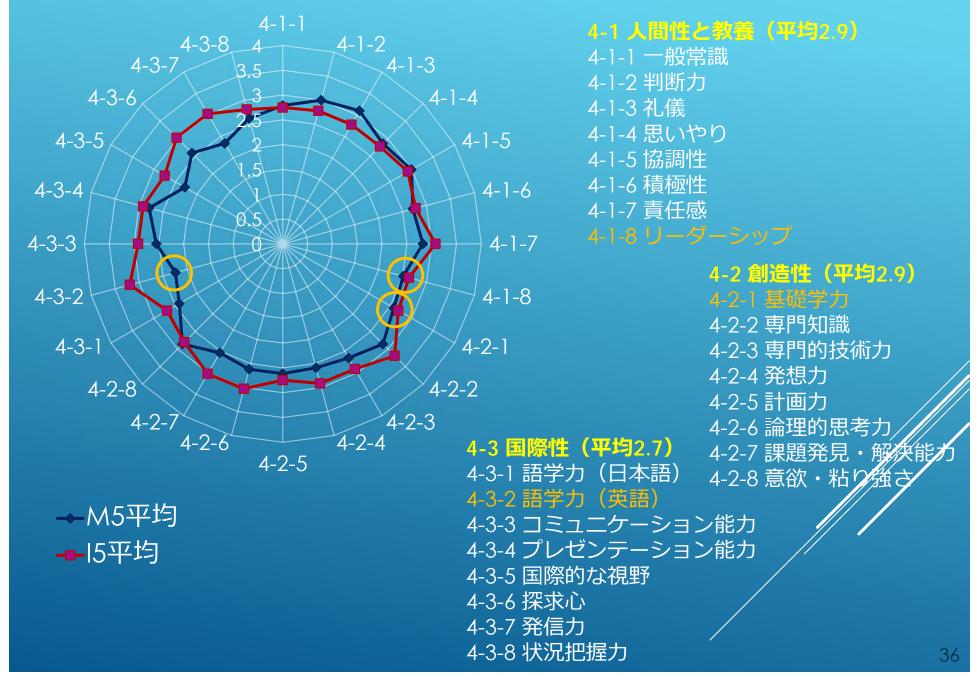


卒業時における教育目標達成度

商船学科卒業生(平成30年9月卒業)の教育目標達成度



工業系学科卒業生(平成29年3月卒業)の教育目標達成度

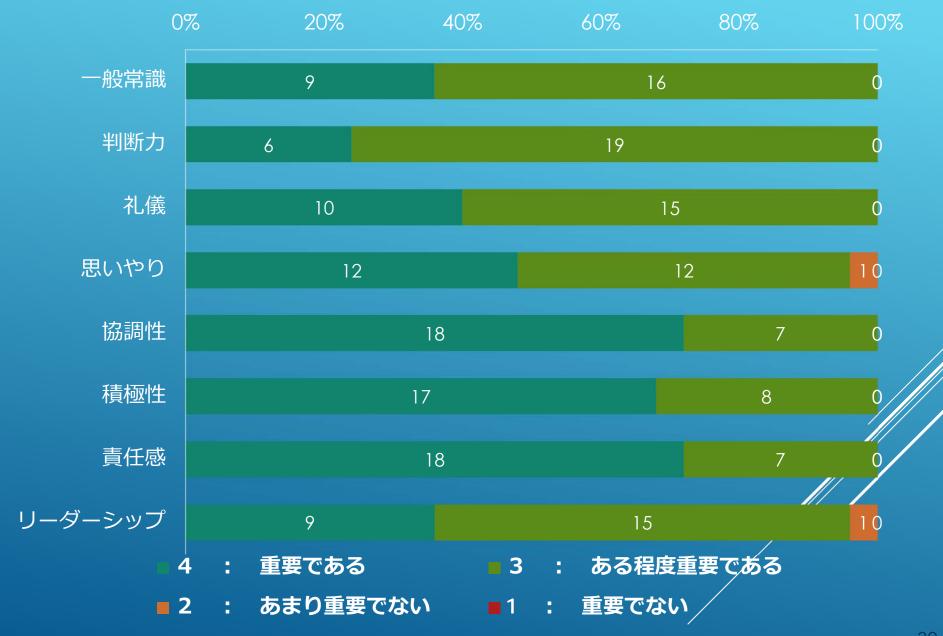


満足度アンケート

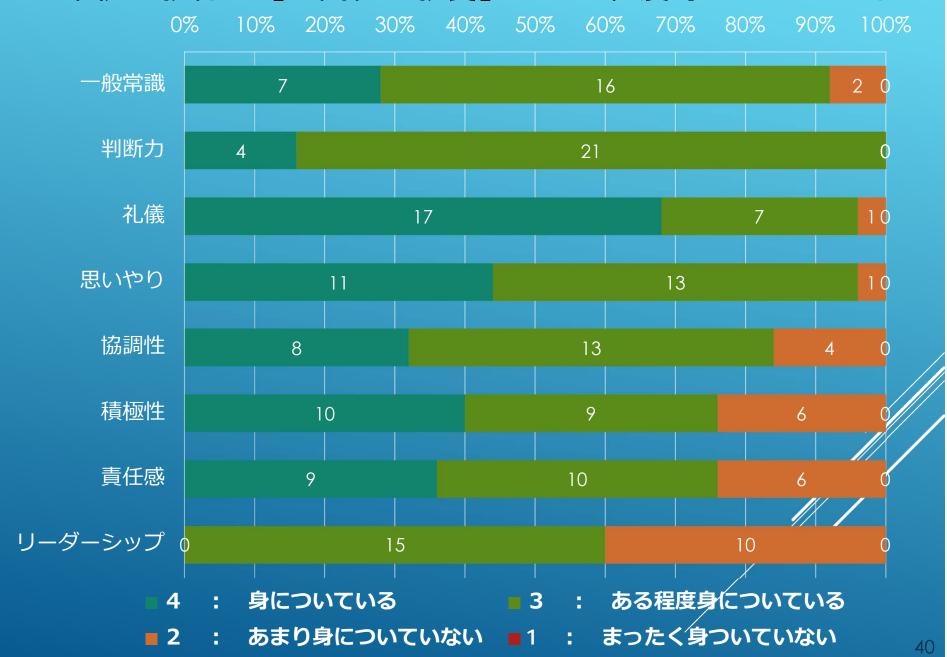
就職•進学先

(平成29年度実施)

本校の教育で【人間性と教養】はどの程度重要ですか



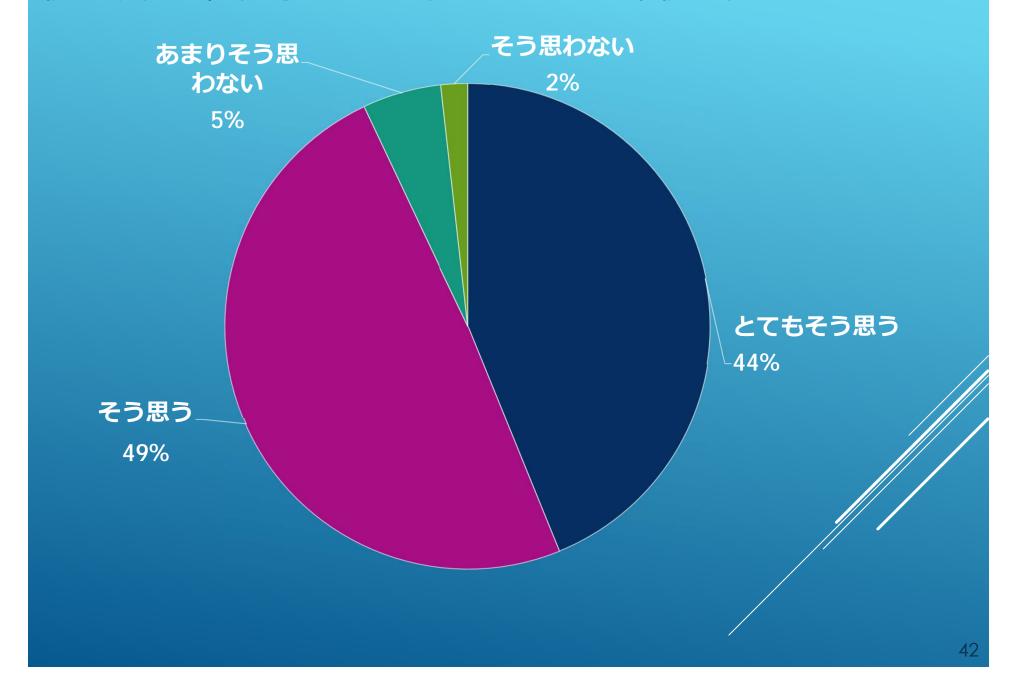
本校の教育で【人間性と教養】がどの程度身についているか



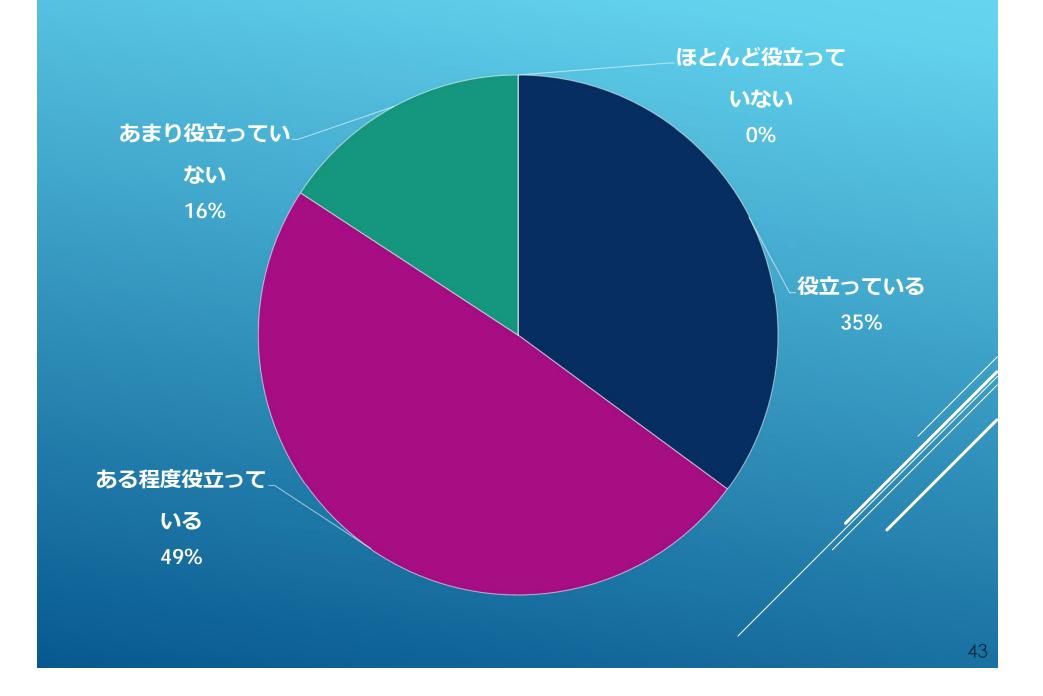
卒業生・修了生

(平成29年度実施) 実施に際しては、すでに卒業・修 了したOB・OGを対象に、卒業 研究・特別研究の指導教員から依 頼した

x校の教育内容、身についた能力について本校に在学してよかったた



x校で学んだことは、役に立っていますか(卒業後、役に立つと思うか)



教育改善

学生のポテンシャルを引き出す

入学生の基礎学力が低い

学業不振→原級留置・進路変更 生活の乱れ→学業不振・懲戒 将来に対する不安→ミスマッチ・学業不振

どうするか? どのようにして?

入学志願者のレベルを向上させる

入試改革

平成31年度から新入試制度導入

定員の確保は?

学びの魅力 平成31年度から学科改組



入学させた後にどう育てるか

課題解決に積極的に取組み、企画を推進するしくみ

平成31年度から新入試制度導入

1.推薦選抜

特別推薦

出願資格:2・3年生の評定の総計が72以上、かつ2・3年生の全科目3

以上

出願書類:志望理由書、校長推薦書

選抜方法:書類選考、面接

一般推薦

出願資格:2・3年生の評定の総計が62以上、かつ2・3年生の全科目3

以上

出願書類:志望理由書、校長推薦書 選抜方法:書類選考、作文、面接

2.体験学習選抜 (商船学科のみ)

出願資格:2・3年生の全科目3以上

3.学力検査選抜

☆ 推薦と体験で定員の85%確保

1.推薦: 1~3年生の合計96以上

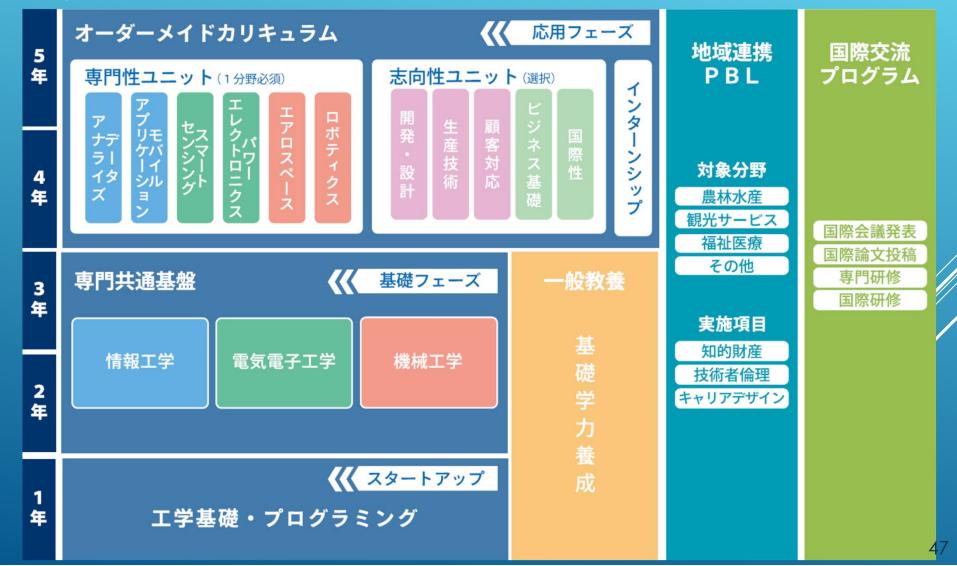
2.体験:全学科、1~3年生の合計

81以上が望ましい(主要

5科目は全て3以上)

「情報機械システム工学科」への改組

地域課題を解決するPBL(Project Based Learning)チームに1年生から所属し、地域産業や文化を理解し、工学的な解決法を提案できる実践的技術者を輩出する



個性に合わせた「専門性ユニット」と「志向性ユニットの選択

専門性ユニット

技術者としての専門分野の学習

データアナライズ

ビッグデータ解析、人工知能による認識処理などを実装できる技術者を育成します。

モバイルアプリケーション

スマートフォンやタブレット端末による各種アプリケーションを開発できる技術者を 育成します。

スマートセンシング

身の回りにある情報を定量的に計測し、分析・可視化を行う技術者を育成します。

パワーエレクトロニクス

住宅や事務所向けの電力供給・管理システムの整備、保守を担う技術者を育成します。

エアロスペース

航空宇宙産業の製造現場で活躍するため、生産現場の管理運営能力を持つ技術者を 育成します。

ロボティクス

生産を担うロボットの開発、設計、製作、制御、整備ができる技術者を育成します。

志向性ユニット

職種選択のための学習

開発・設計

開発・設計業務に携わるために必要な高度な理数系の知識を修得します。

生產技術

生産現場の取りまとめとして幅広く技術を理解し、各部門の要望をまとめる調整能力 を培います。

顧客対応

電気機器やビルシステムの導入・保守運用をするための顧客との交渉力を養います。

ビジネス基礎

ビジネス的な視点を持つ技術者として活躍するために、経営・管理などを学びます。

国際性

グローバルな視野を持ち、英語を中心とした語学力の向上を進めます。

学修推進支援室

- (1) 学生の学力向上に関すること。
- (2) 学生の学修を支援するために必要な方策の検討及び実施に関すること。
- (3) 教育改善に関する調査・研究に関すること。
- (4) 授業改善計画の立案、実施、評価及び再構築に関すること。
- (5) 教員の資質向上に関すること。

キャリア教育推進室

- (1) 本校におけるキャリア教育の設計、改善、実装に関すること。
- (2) 学生のロードマップ(将来構想)に関すること。
- (3) 就職及び進学に関する情報の収集及び提供に関すること。
- (4) 就職のための指導と支援に関すること。

グローバル教育推進室

- (1) 学生及び教職員の英語力向上に関すること。
- (2) 国際交流プログラムに関すること。
- (3) 学内におけるグローバル化推進に関すること。
- (4) 留学生の受入れ及び指導に関すること。
- (5) 海外の機関との交流及び連携協力に関すること。

学修推進支援室

平成30年度の活動

「基礎学力定着」 「原級留置率の低減」

学生の学力向上・学修支援

(1)「学修推進支援室」の設置





- ●「学修推進支援室」(空き教室を利用)を設置し、学生の授業外の学修を支援するために自習の場を提供する。
- 支援室には平日1時間程度支援室員(教員)とTAが常駐し、学科学年に関わらず 学習のアドバイス、支援をする。
- 一般教育科など実験室を持たない教員が補習や勉強会を開く場として利用した
- 支援室は、グループ学習にも対応できるようテーブルを配置し、ホワイトボルドと 設置した。また、前方は講義に対応できるよう教室と同じ配置とした。
- 学科学年が異なる学生グループ複数が同時に学習できる空間とした//。
- 各教員に教科書・参考書の提供を呼びかけ、数十冊収集することができ、その場での調べものにも対応できるようにした。

(2) 要支援者のリストアップと支援

- 前期期末試験の結果で、単位不認定の恐れがある学生(要支援者)をリストアップした。
- リストは,教員全体で情報共有し、クラス担任と教科担当教員で対応を協議し、対策の実施を要請した。
- 要支援者の一部は、各科の室員が自身の支援室常駐時間を用いてフォローを 行った。

(3) 制御情報工学科1年生の数学補習

● 制御情報工学科の1年生では、金曜5・6限を「支援室補習」として出欠を取る授業としての時間を設けた。その日の基礎数学で出題された演習課題に各自が取り組む時間とし、教員がフォローする形を取った。また、成績上位者に協力を求め、成績下位者とのグループワークを行った。その結果、単位認定試験は1名に留まった。

(4) 到達度試験の対策(3年生)

- 数学・物理の担当教員の協力で、対策用プリントの作成・配布をじた。
- 数学については、到達度試験の結果は、授業評価の一部として取り入れている。

教員の資質向上

(1) 授業公開の実施

- 平成30年11月26~30日の5日間実施
 - ✓ 他教員の授業見学すること、および自身の授業を見学してもらうことで学校 全体の授業の質の向上を図る。
 - ✓ 専門科目担当教員は一般基礎科目の授業内容の把握。
 - ✓ 一般基礎科目担当教員は専門科目での応用。
 - ✓ 見学後は、「見学記録・コメントシート」を記入し、授業担当教員へフィードバックとした。24シートのフィードバックが得られたが、昨年度の39枚から減少しており、周知の徹底及び実施方法の改善が必要。
- 授業アンケートで好評であった授業、AL(アクティブラーニング)を試みる授業を 見学推奨した。

(2) 教員FD

- 平成31年3月6日に実施
- ICT活用教育を含むALの強化を目的として開催 「学生が納得する授業づくりの検討(I科 中井室員)」 「学修推進支援室の取り組み、およびAL型授業の試行」(I科 北原副室長)」

(3) その他

● 第3ブロックAL推進研究会に参加し、他高専とも情報共有を行ってきた。

平成31年度の活動計画

学生の学力向上・学修支援

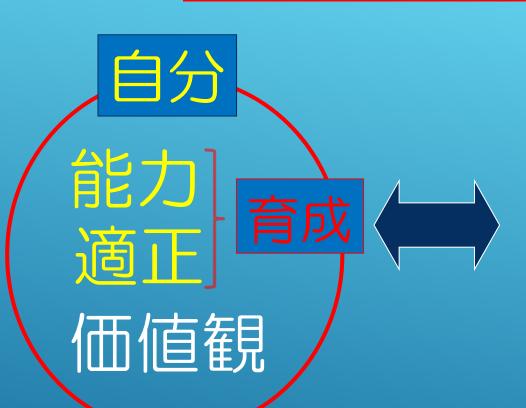
- (1) 学修推進支援室の運営
- (2) 要支援者のリストアップと支援
- (3) 数学・物理の基礎学力向上、および到達度試験の支援(1-3年生)
- (4) 1年生全学科の数学・物理のリメディアル教育の実施(新規)
- 担任、教科担当および学生相談室とも情報共有を行い要支援者の利用を増加させる。
- 今年度、高学年のチュータを週1回1時間として試行的に導入したが、来年度は 週2回程度に増加させるなど機能の充実を図る。
- ◆ なお、30年度の原級留置数は25人(28年度31人、29年度25人)であり、顧著な減少は見られない。
- (4)では、制御情報工学科において試行した補習を全学科の1年生に導入する。

教員の資質向上

- (1) 授業公開の実施
- (2) 教員FDの実施
- (3) 授業アンケートの改善、授業改善計画の立案、実施
- ALを用いた授業を学内に浸透させることが必要である。
- 他高専の事例、ALを行っている教員の授業計画、教員FD、ワークショップ、授業アンケート利用などを通じてALの普及と授業改善を図る。
- 授業改善計画の実施、評価について、PDCAが回るよう現在検討中であり、平成 31年度から反映させる予定である。

キャリア教育推進室

キャリア教育の戦略



企業

業種職種

(経済)

自己分析•成長 + 企業分析



企業に自分を選んでもらう

キャリヤ教育支援

授業

就職支援

5年生 就職力 養成

キャリアデザイン3

課外活動支援

4年生

キャリアデザイン2 インターンシップ

校内就職支援セミナー

学外就職支援セミナー 就職指導講演会

• 部活

・リーダース トレーニング

3年生

キャリアデザイン1

校内就職支援セミナー

講演会

• 交诵安全

・ネット

薬物

2年生

一般基礎教育2

学生活動支援

・コミュニケーション能力UP

リーダーシップ能力UP

一般基礎教育1

学生会活動(体育祭・海学祭) クラブ活動 資格、コンテスト

社会人 1年生 基礎力 養成

今年度の活動(1)

(1)授業科目

- 社会人基礎力養成(学科横断型授業)
 - 一般基礎教育1(1年生)

メンタルヘルス・コミニュケーションスキル(本校カウンセラー、臨床心理士)、スマホ安心講座(KDDI講師)、消費者教育(鳥羽市出前トーク講師)、性教育(元中学校養護教諭)、学生会活動・学園祭(学生会役員)、間き上手・話し上手エクササイズ(教員)、酒・煙草・マナー講座(教員)、学科別進路状況紹介(教員)、検定試験について(教員)、国際交流プログラム(グローバル教育推進室長)、キャリア形成(学生主事・キャリア教育推進室長)

一般基礎教育2(2年生)

日本国憲法(三重県弁護士会弁護士)、ライフプランを考える(日本FP協会) デートDV防止啓発講座(鳥羽市子育て支援室講師)、 地球温暖化問題(教員)、減災ワーク(教員)、キャリア形成(教員)

● 就職力養成

キャリアデザイン1(3年生)

コミュニケーションカ育成、自己(意識、能力、実績)分析 キャリアデザイン2、校外実習(4年生)

企業・職種・地域分析調査、インターンシップ準備・報告、/履歴書作成

(2) 講演会

● 社会人基礎力養成

選挙制度講演会

(選挙権が18歳以上となった理由・意義、ネットに関わる選挙違反) 本科1~5年生、日程調整中、鳥羽市選挙管理委員会 講師

● 就職力養成

(キャリアデザイン1・2と連携した学科横断型就活力養成授業プログラム開発) Webテスト(適正分析), エントリーシート講座, 模試(調節中)

3・4年生、平成30年11月27日、12月4日、(株)マイナビ 講師 最新就活情報講座・模擬面接講座(旧就職指導講演会) 4年生、平成30年12月4日、(株)マイナビ 講師

(3)セミナー

● 就職力養成

校内就職支援セミナー

本科3・4年生、専攻科1年生、平成31年2月8日、2部制(企業数増加への対応) 人材広告企業のインターンシップ説明会(12月・1月)、就職セミナー(3月)参加支援 マイナビ、メディア総研、学研アソシエ

(4)その他

● キャリア教育リーフレットの作成(キャリア教育の見える化)



グローバル教育推進室

平成30年度国際交流

No	事業名	担当	派遣先	対象	実施日	募集人数 (予定)	参加費用(予定)	備考
1	MELキャンプ	鳥羽	シンガポール	全学科 1年生以上	① 9月 ② 3月	6名程度	約15~20万 JASSO奨学金3年生以上	
2	SMA 鳥羽丸トレーニング	鳥羽	鳥羽商船	SMA学生 本校学生	9月	SMA13名程度 本校学生13名程度	_	全室員で対応
3	Toba SP Project	鳥羽	鳥羽商船	S P学生 本校学生	① 9月 ② 3月	SP学生3名	_	M科教員で対 応
4	トビタテ!留学 JAPAN				H29年8月18日 ~ H30年1月31日	3名採用	_	
5	K C C 国際インターンシッ プ	富山	アメリカ合衆国 ハワイ州カウア イ島	商船学科 3年生以上	3月	本校より3名 (3校で10名)	約40万	引率教員 2~3名
6	高専生のための英語 キャンプ	熊本	シンガポール	全学科 1年生以上	8月	4名程度	約20万	引率教員 0~2名
7	アメリカ・オハイオ 州立大学派遣	鈴鹿	アメリカ合衆国 オハイオ州	全学科 4、5年生 専攻科生	9月		約30万	
8	NTMA研修	広島	フィリピン	商船学科 3・4年生	9月	航海コース2名 機関コース2名	約12万	引率教員1名 ※推進室員以 外
9	海外現地法人 インターンシップ	機構	フィリピン、他	専攻科 1年生1年 生進学予定 者		1名~2名程度	_ (高専機構から補助あり)	引率教員 0~1名

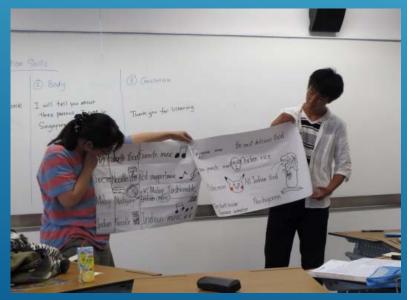
平成30年度の活動

国際交流事業

(1) MEL CAMP

SMA(シンガポール・マリタイム・アカデミー)の主催する乗船プログラム

- 3月に6名の学生を派遣する予定であったが、SMAの校内事情により6月に延期となった。
- 引率は常に2名体制を取っている。
- 乗船研修前にシンガポール人講師による3日間の英語集中講座を実施する「。
- 日系企業の現地法人を訪問する。



語学研修



船内ワーグショップ

(2)SMA鳥羽丸トレーニング

SMAから学生と引率教員を招待し、鳥羽丸で研修を行うプログラム

- 9月12日~9月19日に実施し、学生15名と引率教員1名を招待。
- 15名の本校学生にパートナー形式で交流を行った。
- 鳥羽市長を訪問し、本校の国際交流事業についてアピールする機会も設けた。



実習風景



プレゼンテーションの様子

(3)KCC国際インターンシップ

ハワイのKCC(カウアイ・コミュニティー・カレッジ)の協力のもと、伝統的航海術の講義を受講し、ライフセービングの実習なども受け、商船系高専5校が共同で行うプログラム

- ホームステイで現地の生活様式を体験し、カウアイの人々との親睦を深める。
- 長年かけて建造された伝統カヌーのメンテナンス作業を行う。
- 屋外で生活をしながら、ハワイの文化を学ぶ。
- 平成28年度3月は本校から7名の学生が参加し、平成29年度は2名の学生が 参加した。今年度は3月2日~3月21日で、3名の学生が参加中。



オリエンテーション風景



カヌーのメインテナンス作業

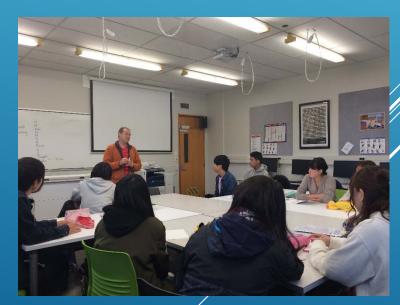
(4)オタゴ・ポリテクニク就業体験プログラム

平成29年度より機構本部が主となり実施しているプログラムで、ニュージーランドのダニーデンという街でホームステイをしながら、オタゴ・ポリテクニックで研修を行うというものである。

- 9月5日~9月23日に実施した。全国から12名の高専生が参加し、本校から8名 の学生を派遣した。
- 午前中は語学研修、午後は工学系の様々な分野で活用できる実験実習を行う。
- 特徴的なものとしては、全て同じキャンパス内で行うため、午前中の研修において午後に行う実験実習で用いる科学用語も導入し、安全で円滑な実験実習を行うことができる。
- 現地の企業訪問も行い、グローバルな視野も身につけることができる。



実習風景



語学研修の様子

(5) 日タイ高校生サイエンスフェア

平成31年度より高専機構が学生受け入れを始めるタイのチュラポーンサイエンス ハイスクールで日本とタイの高校生が交流をしながら、お互いが科学分野における 発表を行うものである。今年度は6月7日~6月9日に実施された。

- 本校から4名の学生が始めて参加し、2組に分かれて、発表を行った。
- そのうちの1組がタイの王女の前で発表を行った。
- 現地のフィールドワークも行い、日タイの学生の親交を深めた。





(6) 高専生のための英語キャンプ

熊本高専が九州地区の高専を中心に行っているプログラムで、開始当初から本校も参加している

- 平成30年度は、8月18日~9月2日に実施され、本校から2名の学生が参加した。
- シンガポール・ポリテクニックで語学研修を受講する。
- 現地の日系企業を訪問し、海外に視野を向けさせる。
- 他高専の学生との集団行動を主として、コミュニケーション能力の育成を図る。

(7)SP Project

シンガポール・ポリテクニックの学生が来校し、ゼミ形式でプログラムに取り組む

- 平成31年3月3日より、6週間の予定で3名の学生が来校している。
- プログラムの一環として、本校学生がサポートをしながら、鳥羽の近辺のプイールドワークを行う。
- 本校学生にとっては、国内にいながら、同じ専門分野を学ぶ留学生と交流を深める絶好の機会となっている。

(8)シンガポール・ポリテクニックとの交流イベント スタートアッププログラム

平成30年度、機構本部が開発した新プログラムで、将来グローバルエンジニアとして活躍し、外国人との交流を通じてコミュニケーションスキルを身につけ、自分のアイディアをビジネスにつなげるチャレンジ精神を育成するためのプログラム

シンガポールの学生たちとチームを組んで、これからの"Smart City"にイノベーションを起こすようなビジネスプランとプロダクトを提案する。

9月にシンガポール、3月に東京で開催し、双方向の交流ができるような環境でアイディアを出し合ったり、プロトタイプを製作した。

(9)トビタテ! 留学JAPAN

「トビタテ!留学JAPAN」は、平成25年に文部科学省を中心として始まった官民協働の海外留学支援制度

- 平成27年度に地域人材コース【三重県】に1名が合格した。 シアトル(9月15日~翌年2月29日)
- 平成30年度は高校生コースで3名、大学コースで1名の学生が合格した。 ニュージーランド 2名(9月5日~9月23日)
 タイ国際ボランティア 1名(7月29日~8月11日)
 大学生用の理系、複合・融合人材コースの未来テクノロジー人材枠に1名アメリカ合衆国オハイオ州(4月1日~翌年2月28日)

(10)モンゴル3高専に教職員を派遣

教員2名、事務職員1名の計3名をモンゴル3高専に2日間送り、モンゴル3高専の教職員と双方の抱える課題とその解決法について意見交換を行った。また、本校の模擬授業や本校の紹介をモンゴル学生に対して行った。





(11)国際交流報告会

国際交流事業に参加した学生を中心に、本校に編入する留学生や本校で短期受入を行った学生による発表の場をして報告会を開催している。

第1回国際交流報告会平成30年4月9日(月)

- 1. MEL Camp (Singapore)
- 2. KCC国際インターンシップ(Kauai, Hawaii)
- 3. プログラミングチャレンジinシンガポール(Singapore)
- 4. Toba SP Project 2017(Singapore Polytechnic学生)

第2回国際交流報告会平成30年10月31日(水)

- 1. 留学生自己紹介(オド君 Mongolia)
- 2. 在外研究報告(一般教育科 鈴木)(Turkey)
- 3. 日タイ高校生サイエンスフェア(Thailand)
- 4. 国際ボランティア報告(Thailand)
- 5. 高専生のための英語キャンプ(Singapore)

第3回国際交流報告会平成30年11月14日(水)

- 1. オタゴ・ポリテクニク就業体験プログラム(New Zealand)
- 2. シンガポールポリテクニックとの交流イベント(Singapore)
- 3. SMA鳥羽丸トレーニング(本校)
- 4. 高専職員海外研修報告(学生生活係 西尾)(Malaysia)

英語力強化事業

(1)TOEIC特別対策講座

平成29年度から、外部講師を依頼して、TOEIC集中講座を開催している。 授業のない3連休を利用した集中講義で、学生及び教職員が受講する。 今年度は7月14日~16日に開催され、35名が参加した。





講座をやり終えた学生たちの様子

(写真は平成29年度の様子)

(2)実用英検、工業英検

- 実用英検については、一次試験の準会場として本校で受験できる。
- 工業英検については、本校が三重県の本会場となっている。

平成31年度国際交流

No	事業名	担当	派遣先	対象	実施日	募集人数 (予定)	参加費用(予定)	備考
1	MELキャンプ	鳥羽	シンガポール	全学科 1年生以上	6月 3月	8名程度	約30万	引率教員2名
2	SMA 鳥羽丸トレーニング	鳥羽	鳥羽商船	SMA学生 本校学生	9月	SMA15名程度 本校学生15名 程度	_	全室員で対 応
3	Toba SP Project	鳥羽	鳥羽商船	S P 学生 本校学生	3月	SP学生3名	_	I 科教員で 対応
4	K C C 国際インターンシッ プ	富山	アメリカ合衆国 ハワイ州カウアイ 島	商船学科 3年生以上	3月	5高専で15名 程度	約40万	引率教員 2~3名
5	高専生のための英語 キャンプ	熊本	シンガポール	全学科 1年生以上	8月	全国で20名	約20万	引率教員 0~2名
6	オタゴ・ポリテクニ ク就業体験プログラ ム	八戸	ニュージーランド	3年生	9月	全国で30名	約35万	引率教員1名
7	アメリカ・オハイオ 州立大学派遣	鈴鹿	アメリカ合衆国 オハイオ州	全学科 4、5年生 専攻科生	9月		約30万	

教育の質の向上

KOSEN4.0イニシアティブ (平成29・30年度採択事業)

第4次産業革命を促進するプログラマ育成と地域活性モデル

農林水産・観光業が盛んな三重県の抱える課題をPBLで解決し、 地域貢献はもちろん、学生の技術向上を図り、知の拠点とな る。



- 入学半年間の集中したプログラミング教育で論理的思考能力育成
- 機械・電気電子・情報・海事分野、将来活躍する分野での適用
- 学生の特性に合わせた多様な「Specialist・Generalist」教育システム

害獣駆除

養殖支援

観光支援

IoT クラウド AL スマホアプリ 機械学習 3D CAD 3Dプリンタ シミュレーション 組込みシステム

機械

プログラミング教育

プログラミングを基盤としたカリキュラム



情報通信業



第4次産業革命 促進人材

協働PT

高専 社会実践体験

問題解決力



理工系人材発掘 課題発見





地域に根ざした高専が御用聞きを担う 課題発見、自治体・企業連携のPBL実践





海運業応用



第4次産業革命を促進する プログラマ育成と地域活性モデル

Fostering Programmers and Regional Activity Model to Promote the 4th Industrial Revolution

> 鳥羽商船高等専門学校 National Institute of Technology, Toba College

> > 78



フォーラム開催(2018/02/23、2019/02/22)



基調講演(三重大学・坂本教授)



学生・教員による事例紹介(10件)



パネルディスカッション



ポスターセッション(40件)

新海事人材育成プロジェクト 次世代海洋人材発掘プロジェクト

国立高専における次世代の海洋人材の育成に関する協議会

[背景]

第三期海洋基本計画(平成30年5月)において、海上輸送の 確保、海洋産業の振興、国際競争力強化、海洋環境の維持・ 保全、海洋立国を支える専門人材の育成と確保が求められて いる。

「フェーズ1] 27年度から28年度(PLAN)

海洋人材育成にかかる実態調査等

「フェーズ2] 29年度から30年度(PLAN, DO(試行)) 国立高専と関係機関の連携によるプラットフォームを基にし て、5商船高専において海事・海洋分野の人材育成(カリキ ュラム構築、教材開発、キャリア教育等)や海事・海洋の魅

刀を伝える広報店動を実施

国立高専における次世代の 海洋人材の育成に関する協議会

富山高等専門学校 鳥羽商船高等専門学校 広島商船高等専門学校 大島商船高等専門学校 弓削商船高等専門学校



東京海洋大学 神戸大学

海事・海洋に 関する協会等

国立高専と関係機関の連携によるプラットフォーム

1. 海事・海洋分野の人材育成事業の実施

実施事項

- 1. 現役の海事・海洋人材による遠隔キャ リア教育実施、開発教材利用による実 践と教材のブラッシュアップ
- 2. 海事人材の更なるグローバル化(海外) 駐在時の交渉や契約など高度な英語 力)に対応した教材開発と実践
- 3. 外航船舶乗船による教員FD実施

「日本船主協会」 「全日本船舶 協議会 職員協会 支援 (人材派遣)



労務協会





海事・海洋分野の社会へのスムースな接続と裾野拡大に向け、 1. 出口と連携したキャリア教育実践、2. 商船学科入学に向けての活動

2. 海事・海洋の魅力を伝える広報活動の実施

実施事項

- 1. 海事系大学や工業高専との連携によ る総合体験型学習行事【高専フェア】 開催と小中学生への海洋教育
- 2. 初等中等教育における指導要領改定 にかかる海事・海洋人材のキャリア教 育副読本の開発と実践

「日本船主協会」

協議会 支援 (人材派遣・ 施設提供

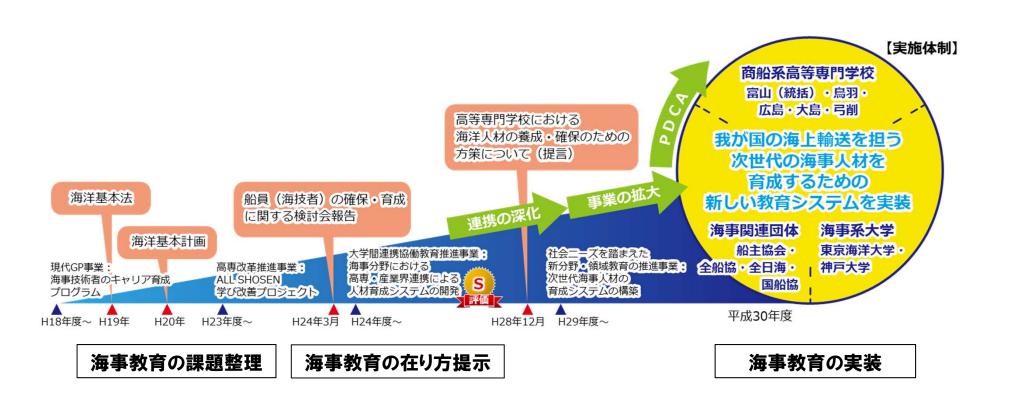
「全日本船舶 職員協会」

「日本海洋 少年団連盟





新時代に活躍できる海事人材の産学連携による育成 〜新教育システム実装フェーズ〜 (略称:新海事人材育成プロジェクト)



「KOSEN(高専)と産業界が連携した. 次世代海洋人材の発掘と確保」

(略称:次世代海洋人材発掘プロジェクト)

産業周知事業

産 業 界



H18から商船系高専と産業界 などとの強い連携事業で、継 続的に海洋人材確保の取組み

商 船 系 高



海洋教育事業

幼児・小学校低学年対象行事

出した行事も実 も海洋を体験する

海洋に関する

理解を促進する事

それぞれの年齢で

適切なイベントを体験

海洋に関する座 **行事を長年**

産業界との連

携で現場見学

新技術の体験

や海洋業界に ついてまなぶ。

学的なものや,

などを行い,

将来日本を支える

海洋人材の確保



小4-小6

行う。地域性を **成長過程で何度**

小1-小3

新産業を牽引 する人材育成 高専フェア -KOSEN FAIR-

全国高専

との連携

融合

事業① 事業 ②





開催地域の核となる工業高専などと協 力し, 高度技術も融合させる。少年層 の全域にわたって、そして保護者や教 育者も対象とする総合体験型学習イベ ント。

各地域

2.0

全国各地で 広域イベント展開

保

広域年齢

対応行事

地域の祭り

倍率は広島の倍率

主幹校:広島

他機関との連携

鈴鹿高専との連携

1.教務主事関係

- PR活動
- 学祭で、各校の展示ブースを設置。
- ・鳥羽丸PR航海で鈴鹿の宣伝ブースを設置。
- ・中学校巡回PRで双方のパンフレットを配布。
- 入学説明会
- ・近大高専、鈴鹿高専との合同説明会(志摩は本校主催)
- 入試関係
- ・互いの学校を試験会場に設定。
- ・両校での複数校受験の可能性を検討。継続中。
- 特別講義等の鳥羽から鈴鹿への配信

2学生主事関係

- 各種規則に関する情報交換
- 学生会の交流
- ・鳥羽のリーダーストレーニングに鈴鹿から参加。

3.寮務主事室関係

- 各種規則に関する情報交換
- 寮生役員の交流会

和歌山高専との連携

紀伊半島×海洋×KOSEN プロジェクト

ー 海洋CUBIC(K³)プロジェクト ー



海を未来に引き継ぐ 紀伊半島の海 連携事業

紀伊半島三重県



和歌山高専一鳥羽商船高専

和歌山県, 海洋研究開発機構, 東京海洋大学



和歌山県

海との関係性「体験」スコア 47 都道府県中 第3位 (海と日本意識調査結果:2017日本財団)

太平洋

海の課題

海の資源 再生可能エネルギー 海の資源 海底資源エネルギー 海の資源・海の異常 環境整備・保全・修復

海の資源 海洋生物資源

鳥羽商船高専



鳥羽商船高専の練習船 「鳥羽丸」



海の大課題 海の異常気象、大規模災害

災害時連携

地域との連携・貢献

県内機関との連携

三重県教育委員会との連携

● 鈴鹿高専と共に、三重県教育委員会との連携・協力を図る

三重県との連携

- 三重県工業研究所の機器見学と意見交換
- 三重県工業研究所との連携協力に関する協定書調印(H30年1月16日)
- 三重県庁との意見交換を行い、本校の持つ技術の紹介、三重県の推奨する事業と連携した人材育成を進めることで協議

鳥羽市との連携

- 鳥羽市役所との意見交換を行い、本校の持つ技術の紹介を実施
- 鳥羽市との包括協定締結(H30年3月28日)
- イニシアティブフォーラムのパネルディスカッションへ市長参加

COC+事業 地域イノベーションを推進する三重創生ファンタジスタの養成



君も主役だ!! **三重創生ファンタジスタ**

三重創生ファンタジスタって どんな人?

- 三重県内の歴史、文化、産業等の 特徴を理解している
- 地域が抱える課題に対して 深く関心を持っている
- 能動的な活躍を期待できる
- 三重県が大好きで、地方創生に 興味がある人!!

三重創生ファンタジスタって どんな資格?

- 県内全高等教育機関(大学・短大・高専)が 連携して教育する資格プログラム
- 県内企業や自治体も連携しているから、 県内における資格の認知度②
- 三重県で就職して、三重県で活躍したいと 思える人にビッタリな資格!

三重創生ファンタジスタは でもなれる?

平成29年度以降に対象科目の 必要単位数を修得すること

※詳細は東面参照

● 誰でも目指すことができます!!



三重創生ファンタジスタ

(ベーシック)資格対象科目

				認定条件	HER
電子機械工学科	特別講義 学修 4 1 県内企業からの講師派遣があること。		県内企業からの講師派遣があること。	(集中)	
	プレゼンテーション演習 風修 4 1 地域に関わる調査結果のプレゼンテーションであること。		地域に関わる調査結果のプレゼンテーションであること。		
	工学実験Ⅲ 風修 5 3 地域に関わる実験テーマであること。		地域に関わる実験テーマであること。		
				県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	
	制御情報工学特別開義1			馬内医療系高等教育機関ないし県内医療機関からの講師派遣があること。	後期 (集中)
	校外実習 学修 4 1 県内企業のインターンシップであること。		県内企業のインターンシップであること。		
制御信報工学科	工学実験3			三重県の抱えている課題等について取り上げ、それを実験テーマとすること。	
				肌内企業との共同研究または地域に関わるテーマが含まれていること。	
	竹報通信			最新のクラウド活用事例などをテーマに、県内企業からの講師派遣があること。	
				原内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	
	環境化学			県内の環境問題を取り上げていること。	
				三重県に関する題材を取り上げていること。	
	生産システム工学特別実習			県内企業のインターンシップであること。	能期 (集中)
	生産システム工学特別演習			地域をテーマにしたものであること。	1年1後日 2年二前日
	生産システム工学特別研究1			県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること	
	生産システム工学特別研究Ⅱ	学修		県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	

手続き方法

三重創生ファンタジスタ(ペーシック)資格認定については、自己申請とします。 上記の科目より修得必要単位数を満たした場合は、単位認定申請書を教務係に提出して下さい。

君も主役だ!! **三重創生ファンタジスタ** 担当部署 鳥羽商船高等専門学校 学生課 教務係

TEL 0599-25-8032

MAIL gakusei-kyomu@toba-cmt.ac.jp

HP(COC+) http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/

三重創生ファンタジスタになるための詳細は裏面に記載 >>>>>>

地域貢献

みえアカデミックセミナーで講演

今年度の講演タイトルは「生活の中のトライポロジー」、「自動制御の歴史~ワットの遠心調速器から先端機器まで~」

「みえリーディング産業展」に出展

公開講座

「サイテクランド in 鳥羽商船高専2018」 「船員の仕事in鳥羽商船(鳥羽クルーズ)」(今年度は台風のため中止) 「小学生のためのバレーボール教室」

NPO法人故郷の海を愛する会

「サイテクランド in 鳥羽商船高専2018」 「船員の仕事in鳥羽商船(鳥羽クルーズ)」(今年度は台風のため中止) 「小学生のためのバレーボール教室」

学生支援·生活支援

学生相談室

1.相談室体制

相談室長 副相談室長 相談室員4名 臨床心理士2名(1名は週1回、1名は月1回) 精神科医1名(月1回)

2.hyper-QU(ハイパーQU)の実施

- 教育・心理検査の一つであるhyper-QUを11月に全学生に対して実施。
- 要支援との判定を受けた学生に対して、担任が面談し、状態に応じてカウンセラー、精神科医との面談につなげた。

3.利用状況(平成31年2月28日現在)

- 相談数:136件(学生相談室16件、保健室120件)
- カウンセラー相談件数:53件
- 精神科医相談件数:10件
- 本年度の支援学生:4名(主に学修支援)

4.メンタルヘルスに関連する授業の実施

- (1) 本校非常勤カウンセラーによる授業の実施(1年生対象) 4月「充実した学生生活のために——自分の考え方のくせを知る方法」 1月「心の健康」(自殺予防対策)
- (2) 鳥羽市健康福祉課子育て支援室との連携(2年生対象) 7月 「デートDV予防講座」

5.教職員対象のFD研修実施

- 8月「うつ病について」山村哲史先生(鈴鹿厚生病院精神神経科)
- 1月「LGBTと教育現場~先生たちにできること~」山口颯一先生 (一般社団法人ELLY代表理事)

6.啓蒙活動

- 相談室利用の啓発カードを作成し、全学生に配布した。
- いじめ防止のためのポスターの作成と掲示、およびチラシの配布。

「学生相談室だより」の発行(5回)。









- 学生相談室 (0599-25-8138) 10:15 ~ 16:45
- 保 健 室 (0599-25-8034) 8:30 ~ 17:00
- 宗田カウンセラー
- 毎週水曜日 14:00~18:00
- 早川カウンセラー 毎月1回木曜日 14:00 ~ 18:00
- 毎月1回火曜日 14:30 ~ 16:30





* KOSEN 健康相談室 (24 時間毎日) 0120-50-24-12

あわてず、あせらず、あきらめず

鳥羽商船高等専門学校

雅別	時刻 行先	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
	上本町	42																		
急行	名古屋		[‡] 52	13 148																
	中傷川	25 52	11 23	24	3 723 743 55	26 54	29 58	29 58	29 58	28 58	28	1 29 58	28	1 28 50	1 24 38	8 25 *46	11 35	10 35	28	⁴¹ 24
快速急行 急行 普通	賢島	*30 49	15 38	* 0 *21 44	*10 *31 56	25 53	19 53	19 58	21 53	19 53	19 53	19 53	19 53	* 15 * 39 57	* 12 33 57	* 15 31 55	37 *57	*22 48	* 4 24	6 *50

快速急行 伊勢市までの各駅と松阪・**中川・榊原温泉口・青山町~赤目口間の各駅と室生口 大阪上本町行 大野・榛原・桜井・大和八木・大和高田・五位堂・鶴橋

伊勢市までの各駅と松阪・9株中川・桃園・久居・南が丘・津新町・津・江戸橋・白子 近鉄名古屋行 ^{伊美}若松·塩浜·近珠四日市·近珠富田·桑名·西珠弥富·西縣蟹江

< 行先案内·追加停車駅 >

明=明星行

城=白堰行 島=島羽行 ミ=宮町停車

平成31年度も、平成30年度と同様の活動を継続

教務主事室による支援

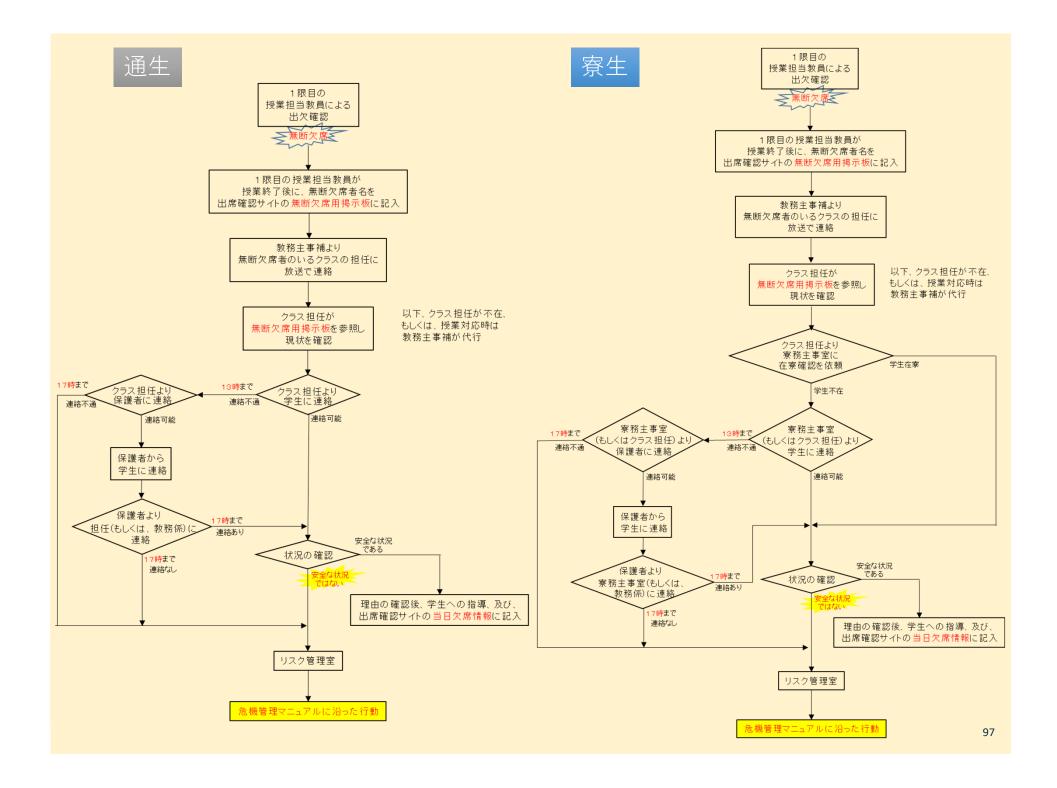
学生指導

教務主事主導

1.出欠席の確認

昨年度より、Office365を利用した「出席確認サイト」を立ち上げた。また、無断欠席者の安否確認についても対応フローに従って処理することになっている。





2.HR(毎週水曜日の7限目)

1~3年生については、HRにおいて担任による学習、生活指導を行っている。担任は、学級担任マニュアル(本校作成)を活用。

3.保護者懇談会(前後期各1回)

担任との連携を図ることを目的に実施している。また、寮生保護者懇談会も同時期に実施している。

4.3主事室連絡会(每週月曜日)

教務主事室、学生主事室、寮務主事室及び学生課長による情報共有、意見交換及び学生問題についての協議を行っている。

5.全校集会での講話(前後期の始業式と終業式)

校長、教務主事、学生主事による講話を行っている。

6.学生への声かけ

後期の授業開始に備えて、登校に悩みのある学生は学生相談室を利用するよう、きづなネット(メール配信サービス)を使って声かけをした。

学生課の取組

7.図書館の利用促進

学科推薦や今話題の図書について、学生にもっと興味が持つように、学生の往来の多い学生課前に掲示したりして改善を行っている。

8.学生課の活用促進

学生課の出入口付近について職員が見えるようなドア等 の改善を行い、より学生に親しみを持ってもらえるように心 がけている。

9.図書館1階にラーニングコモンズを整備

練習船「鳥羽丸」PR航海

四日市港PR航海(毎年実施)

■ 今年度は8月4日~6日

名古屋港PR航海(毎年実施)

- 今年度は11月9日~11日
- ■参加学生30名
- 一般公開や体験乗船を実施するが、乗船者の対応や各部署の説明は、上級 生のリーダーシップのもと、全て学生の企画・運営で実施される。





ポケット版の大地震対応マニュアルを作成

和歌山高専との包括連携協定に基づき、データの提供を受けた。



火の始末)

災害が発生したら

[巨大地震] が発生すると地震の揺れだけでなく 津波による被害が懸念されます。

正確な情報を収集する

- ●倒れやすいものから離れ、落下物に注意 ●むやみに動かず、安全を確保
- ●非常□やドアを開けて避難□を確保
- 避難は徒歩で、荷物は最小限 (火を扱っている場合は、身の安全を確保した後
- ●エレベーターを使用せず階段で避難 体校のエレベーターは地震が発生した場合、 自動的に停止)
- ●正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動 ●負傷者の救護や初期消火に協力
- ●家族との安否確認および学校へ安否連絡

地震発生直後は裏面へ



学校への連絡方法

安否連絡について

大地震などが発生した場合、本校は安否確認シス テムなどにより直ちに学生の安否確認を行います。 地震発生後、「きずなネット」から、メールを一斉 送信しますので、送信可能な状況になり次第返信 してください。

安否確認メールが配信されない場合には、下記の 方法で学校に連絡してください。

0599-25-8000(代表)

報告事項

①氏名、②学籍番号、③本人の状況、 ④家族や自宅などの状況。⑤その他



日頃の準備

大地震の発生を防ぐことはできなくても、日頃の心 日頃から準備・携帯しておくと便利な物 構えで被害を軽減することができます。学校では、 大地震に備えて防災に関する取組を進めていますが、 積極的に参加すると共に、家庭でもよく話し合い、 認識の共有と行動確認を行っておくことが重要です。

緊急避難場所の確認

- ●家族との連絡方法および待合せ場所の確認 ●災害用伝言サービスの確認と登録(メール宛先など の車前登録が必要)
- ●帰宅ルートおよび所要時間の確認
- ■緊急時メモの作成・記入
- ●具体的な情報収集手段および緊急避難場所の確認 (学校および校外)
- ●転倒防止対策や緊急時アイテムの確認 ●学校および友人などへの連絡方法の確認およびリス トの準備

本マニュアルは、各種端末にも対応しております。

■パソコン・スマートフォン https://www.toba-cmt.ac.jp/

サービスです。

録音 1

上記アドレスよりアクセスし、予め画面メモにて保 存してください。ただし、緊急時は携帯電影の充電 存してください。ただし、緊急時は携帯電弧の充電 が気が切れることもあるので、本マニュアルもあわせて 間まるな

※インターネット接続時には、パケット通信料がかかります。

家族への連絡方法

NTT災害用伝言ダイヤルサービス

地質など大災害発生時に、安否確認などの電話が爆発的

に増加し、つながりにくい状況になった場合、提供される

7 1 7 1 をダイヤル

昭配番号を利用する設合 3 昭配番号を利用する再生 €

被災地の方の電話番号を入力



□チョコレート・輪

緊急避難アイテム

□ホイッスル

□現金 (小銭も) □ アドレス帳 □ 保護(日)除証 □タオル・ばんそうこう □ 雨具 (カッパ) □ 手回し充電ラジオ □ 携帯充電用 USB ケーブル □ ポリエチレン製ごみ袋 □ティッシュ

の他非常時に必要	はアイテム
預金通帳	□ 印鑑
常用薬	□上着・下着・靴↑
運動能	□ リュック
卓上コンロ	□ 懐中電灯
紐・ロープ	□ ろうそく
予備電池	□ 缶切り・栓抜き
スリッパ	□ 洗面用具
使い捨てカイロ	□ 非常用食料・水
非常用保温アルミシート	□ 油性マジックペン
◆□□□ ==	

□ 食品用ラップ	□ 軍手	
memo		

※ 肥入は油井のペンを使用してください。

事前の登録が必要です! (事前にテストをしてください) 帯各社の災害用伝言板サービス

大規模災害時に携帯電話から安否確認(安否情報の 登録) ができる災害用伝言板サービスです。 あらかじめ指定したご家族や知人に対して、災害用 伝言板に登録されたことをメールでお知らせする機能も 提供されます。また、インターネットからも安否情報の

各社の QR コードはこちら







■ワイモバイ	
ī	■ (1977)

NTT⊮⊐モ	http:
au	http:
ソフトパンク	http:
Vlmobile	http:

top.cgf

NTTドコモ	http://dengon.docomo.ne.jp/t
au	http://dengon.ezweb.ne.jp/
ソフトパンク	http://dengon.softbank.ne.jp/
Y!mobile	http://dengon.ymobile.jp/

詳しいサービス概要や、ご利用方法はNTTのホームページをご覧ください。 その他携帯各社で提供されているサービスについては、各ホームページをご参照ください。

事前に記入しておきましょう

再生 2

伝言の再生 1 *ダイヤル式電話機の方は操作不要です。



が記入は油体のペンを使用してくがさい。

鳥羽商船高等専門学校





In the event of a disaster

When a "Megathrust earthquake" occurs, damage not only from shaking, but also from tsunami, is a concern.

Collect accurate information

- Stay away from anything that may break or fall
- Do not move in random; confirm safety first.
- Open emergency exits or doors to ensure an evacuation route
- Evacuate on foot and take minimum necessary baggage.
- (If handling fire, put out the fire only after ensuring your own safety.)
- Use the stairs, not the elevators.
- Try to collect accurate information and move in groups whenever possible.
- Try to help the injured or help extinguish small
- Contact your family and the College to let them know you are safe.



K See reverse for what to do after an earthquake.



How to be prepared

Although we may not be able to prevent earthquakes, we can reduce the level of damage by being appropriately prepared. Think about what you can do.

- Know evacuation sites. (Around the College and your home)
- Talk with your family about how you will contact or meet each other.
- Research and register for disaster message board services. (You need to register your email address in
- Know the route to get home and how long it will take. (People walk about 2.5km/h on foot during disasters.)
- Prepare and record disaster memos.
- Know specific methods for collecting information and emergency evacuation sites. (Around school and along commuting routes)
- Consider methods for preventing things from falling down, and prepare emergency kits.
- Know and prepare lists of contacts, i.e. College, friends.

This safety guide can be found on the College webpage for print out. Please share the information with family members. http://www.toba-cmt.ac.jp/



Chocolate, candy

Emergency kits

Items convenient to carry around at all times ☐ Cash (Including small change) ☐ Student card, driver's license Health insurance card Address book Towel, Band-Alds Rain gear Windup rechargeable radio USB cable Tissue paper, wet wipes Polyethylene gartage bags

rs

☐ Whistle

Bank books	☐ Personal seal ☐ Jacket, underclothing, socks ☐ Backpack				
Medicine, prescriptions					
☐ Sneakers					
Portable cooking stove	☐ Rashlight ☐ Candles				
String, rope					
☐ Extra batteries	□ Can opener, bottle opener □ Washing kit				
☐ Silippers					
Clisposable body warners	☐ Disposable eating utensits ☐ Permanent markers				
Heat insulated aluminum sheets for disasters					
Sheets for disasters ☐ Food wrap	Working gloves				
meme					

"Use a permanent marker.



How to contact the College

When things calm down, let the College know you are safe.

In the case of a major earthquake (earthquake measuring 5 or over), the College confirms the safety of its students, if you are not on campus at the time of the earthquake, contact one of the below addresses as soon as possible.

Telephone

official phone

0599-25-8000

What to include in Telephone

- Name ② Student number ③ Situation of yourself
- Situation of family members and home
- ® Other (troubles, etc.)



How to contact family members

If you want to contact your family members outside Japan, use telephone, email, or the internet to contact them directly. You can also ask your college or friends in other areas of Japan to forward your messages to your family members.

NTT Disaster Message Exchange Dial

This is a service that is available in the event of a disaster, such as earthquakes, when it is difficult to get a connection on phone due to an increase in number of users. Unavailable from

How to use Record 1 Play 2 Record with the pass code (2) Play with the passcode Enter the number of person in disaster-stricken area Play the message "This step is not necessary if using a dial phone

"Disaster Message Dial" is interconnected. Please refer to the NTT website for details. You need to register in advance! (Please test the service after registration)

Disaster Message Exchange of Cell Phone Companies

These are services for confirming safety (register safety information) from cell phones in the event of a disaster.

There are also functions for sending emails to specified family members and acquaintances, notifying that you have registered for the disaster message exchange. You can also check the safety of someone on the internet.

QR codes for each company

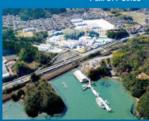


un 9888 ■ 1	
NTT Docomo	http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
8U	http://dengon.ezweb.ne.jp/
Softbank	http://dengon.softbank.ne.jp/
Ylmobile	http://dengon.ymobile.jp/



Protect yourself in case of emergency

Earthquake Preparedness Manual



National Institute of Technology **Toba College**

Emergency Personal Memo

Emergency i croonar meme
Name
Student number
Dept.
mergency contact address
TEL
Blood type

	- Ph()
******	*****************************
Allergy:	Yes (
Allergy.	No
******	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
Emergeno	cy site
near my h	nome
******	*****************************
Where to m	eet
with family	members
(share with fam	

"Use a permaner	nt marker.

学生主事室による支援

学生指導

全学生が安心して学べる学び舎の構築と学生の 将来の希望実現を見据えた進路指導の実践

1.登校指導

毎朝、学生主事室・学生委員会委員による最寄り駅における登校指導を行っている(地元住民の皆様との情報交換)。

2.新入生導入教育(新入生オリエンテーション)

実施 日 平成30年4月19日(木)20日(金)

実施場所 曽爾青少年自然の家

講師 本校教員(卒業することの意義, 学生として守るべきこと)

対 象 1年生

3.リーダーストレーニング

学生会活動のリーダー育成のために、コンセンサスに基づくリーダーシップの意成とや、アンガーコントロールなどのメンタルトレーニング、ソーシャルスキルトレーニングを主とするリーダーストレーニングを、毎年、実施している(鈴鹿高専も参加)。

実施 日 平成30年8月30日,31日

実施場所 三重県立鈴鹿青少年センター

講師松本大学人間健康学部スポーツ健康学科教授大飼己紀子

対 象 学生会、寮生会、クラブのリーダー、(鈴鹿高等専門学校学生会役員)

4.安全教育

①自転車安全講習会

実施 日 平成30年6月11日

実施場所 視聴覚教室

講 師 南部自動車学校講師

対 象 自転車使用登録学生(含寮生)

②自動車安全講習会

実施 日 平成30年6月10日、11月10日

実施場所 南部自動車学校講師

対 象 車輌通学の許可および許可申請予定者

5.学生会活動支援

学生が主体となって、自立的に学生会活動が出来るように、学生会会則の改正を促し、学生が役員のキャリアパスを意識しながら、学生会活動の企画・運営ができるように支援している。

6.地域との連携

地域の高等学校で組織する生徒指導連絡協議会にオブザーバーとして出席し、情報交換を行っている。



寮務主事室による支援

(暁寮) 在寮者数 (H30.6.1現在)

	商船学科	電子機械 工学科	制御情報 工学科	合 計			
1 年	29(4)	11(1)	4(1)	44(6)			
2 年	26(4)	6(0)	7(2)	39(6)			
3 年	30(7)	7(3)	4(1)	41(11)			
4 年	21(3)	8(2)	6(1)	35(6)			
5 年	18(2)	6(0)	2(0)	26(2)			
本科合計	124(20)	38(6)	23(5)	185(31)			
総 計	185(31)						

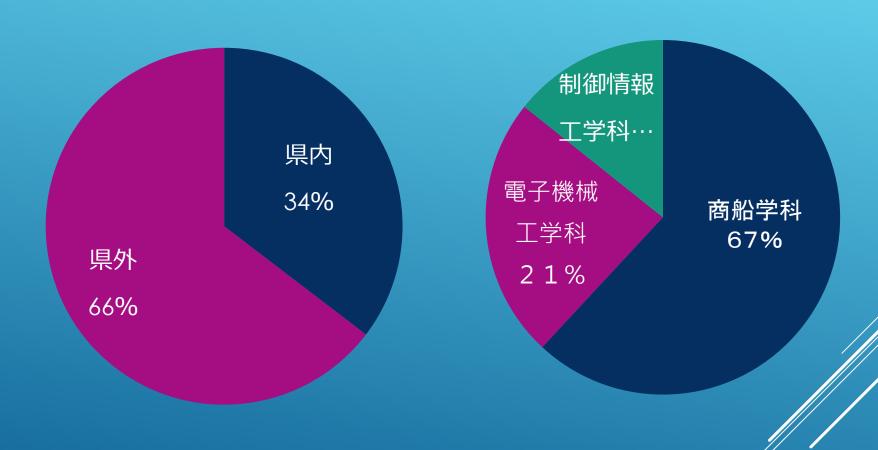
入寮可能人数:約200名

(括弧内は女子内数)

寮生数の推移(H10~H30)



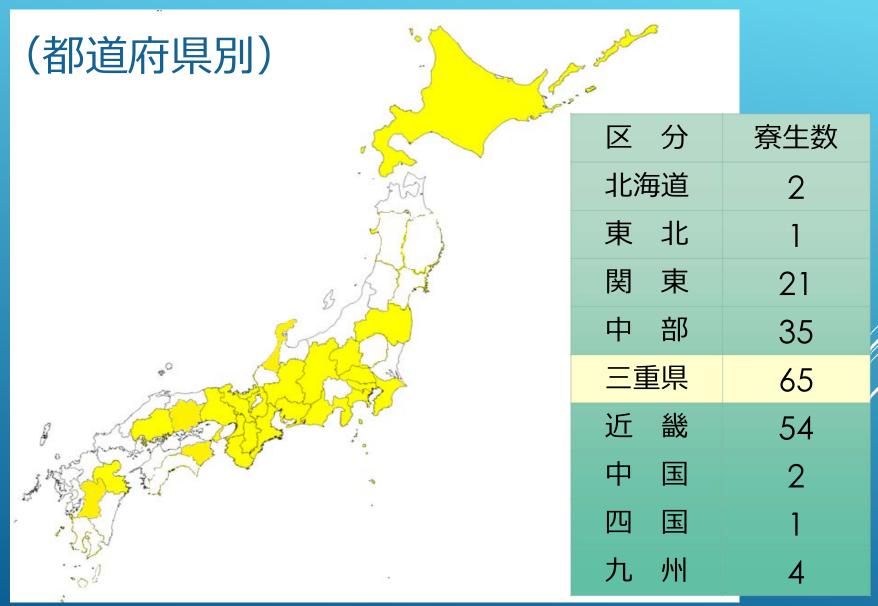
寮生出身地及び学科別状況 (H30)



県内外別(全寮生)

学科別(全寮生)

H30寮生出身地一覧



諸問題に対する改善への取り組み

寮生との意見交換

寮生役員・世話係学生とのミーティング(各週1回)

全寮集会(月1~2回程度)個別学生との懇談(随時)

学校との意見交換

寮務主事室, 寮事務室での打合せ(毎朝)

三主事連絡会(週1回), 寮務委員会(年数回)

校長・副校長と寮生会役員との懇談会(年2回)

高専間での意見交換

東海北陸・5商船高専寮務主事会議(各年1回) 他高専の寮生会との交流(年1~2回)

保護者との情報共有

春・秋季寮生保護者懇談会(平成30年6月16日、10月21日)

寮食業者と寮生会役員との懇談会





先輩からのアドバイス

第1回 資格試験について (海技試験対策講座) 5年生

第2回 進路(就職・進学)について(工業系学科対象) 5年生

第3回 OBとの懇談会 同窓会

第4回 リーダーの役割(寮生役員・世話係対象) 臨床心理士







試験前勉強会(寮生会)







寮生ボランティア(近隣町内会の粗大ごみ収集作業の協力)

研究活動

研究の充実

三重県工業研究所、鳥羽市、和歌山高専との包括連携を通じての研究の活性化と多様性を確保する。

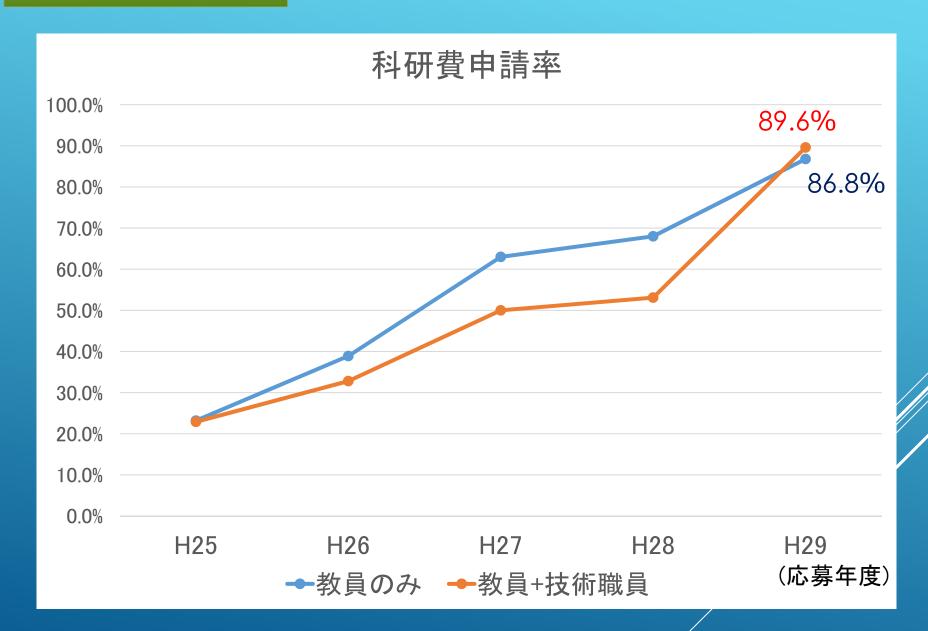
研究水準の向上

科研申請率の向上(68% ⇒ 90%)を実現した。今後は、採択率の向上に努める。さらには、各種プロジェクトへの応募及び外部資金獲得に積極的に取組み、外部資金等の増加を目指す。

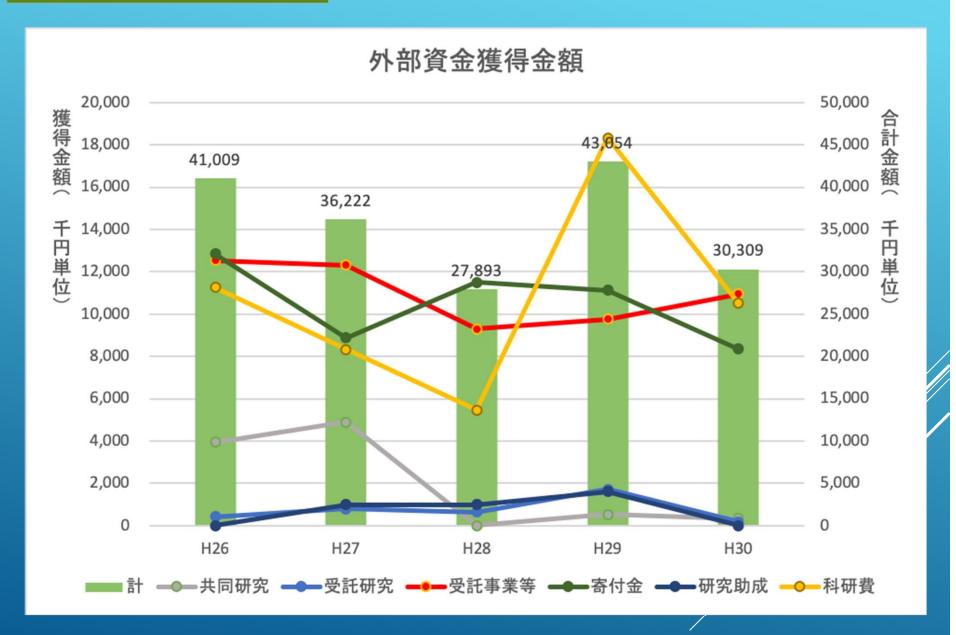
地域との連携

三重県においては、生産年齢人口減少問題もさることながら、著者の地元定着促進が大きな課題となっている。そのために本校は、人材供給の基盤を地域に置き、地域と連携したPBLを実施し、地域の発展に貢献できる人材供給を目指している。

科研費取得状況



外部資金取得状況



今年度の科研費

代表者

S	渡辺幸夫			海流発電に適した浮遊式二重反転水車の開発に関 する研究
N	亀谷知宏	若手研究(B)	H29年度~H31年度	感圧及び感温特性を有した機能性3D模型の作製法 の開発
G	深見佳代			女性医師支援策の有効性の検証と今後の課題分析 〜女性専門医の地理的・診療科的偏在〜
I	坂牧孝規	基盤研究(B)	H29年度~H31年度	船舶環境における疲労削減を目的としたサイボーグ スーツの開発
S	瀬田広明			操船視点の違いによる教育効果の検証:実施と操船 シミュレータの相互補完機能の開発
S	北村 健一	研究活動スタート支援	H30年度~H31年度	新規ポリマー材料を用いた唾液硝酸/オン測定器に よる操船者の心的負荷定量評価

今年度の受託事業

受託事業

	氏	名	相手方	研究期間	研究課題
I	江崎修	央	国立研究開発法人 農業・食品産業技術 総合研究機構 生物系特定産業技術 研究支援センター		クラウドで収集する檻・罠監視画像から頭数や獣 種を判断する動画認識システムの開発
I	江崎修	央	国立研究開発法人 農業・食品産業技術 総合研究機構 生物系特定産業技術 研究支援センター	H30.4.17~H33.3.31	スマート捕獲・スマートジビエ技術の確立
I	白石和	章	総務省 東海総合通信局		地域力向上に資するドローンとディープラーニングを活用した高品質ミカン栽培技術の開発

今年度の共同研究・受託研究

共同研究

	氏	名	相手方	研究期間	研究課題
S	瀬田 鈴:	1広明 木治	イスタンブル工科大学	H26.12.1~H30.11.30	日本とトルコにおける海上交通の安全管理に関 する研究
I	白石	和章	株式会社 ニコン	H30.4.1~H31.3.31	フレキシブルセンサを用いた海中モニタリング

受託研究

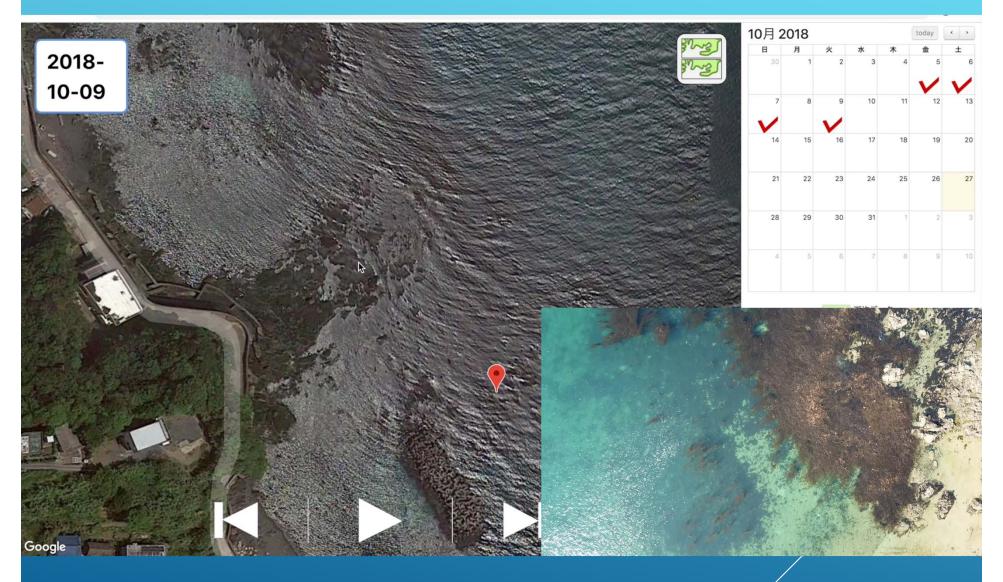
	氏		相手方	研究期間		研	究	課	題	
S	瀬田 今ま	日広明 井康之	伊勢湾フェリー株式会社	H30.8.1~H30.12.20	AR技術を用い 作開発	た権	見光情	報表	示シスプ	人的試

地域連携PBLによる研究

まるみえホカクン 獣害檻遠隔監視・操作



AKAMOKU ドローンによる藻場の可視化



- ・ ドローンの自動航行によりアカモクを撮影
- ・ 人工知能によるアカモクの領域の自動抽出

海面養殖の給餌の人工知能化









高活性



学習

非活性



Azure Custom Vision

評価用データ



高活性



非活性

評価結果

高活性

非活性

98.7%

98.1%

漁業カゴの遠隔捕獲権利販売(CVG)





権利購入

捕獲ボタンを 押す



獲物の捕獲





捕獲カゴ



消費者



新鮮な獲物を 直送する





自宅や勤務先からカゴの権利を 購入し、自ら獲物を捕獲します



宅配便でご家庭・お店に直送されます



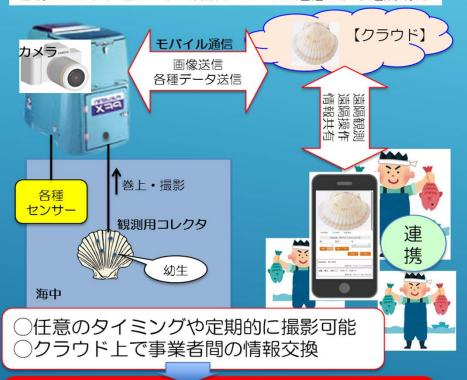


売れていないカゴはショーケース でライブ配信されます

牡蠣養殖のための画像収集システムの開発

【当事業で開発する装置】

牡蠣のコレクタをカメラで撮影、モバイル通信により遠隔観測



事業者の労力・燃料代の軽減

地元ブランド牡蠣 の安定供給へ





学生の活躍

学生の活躍



Microsoft ImagineCup日本大会において優秀賞を受賞し、2018年7月にアメリカのシアトルで開催された ImagineCup世界大会に出場しました(高専で唯一2度目の出場)。他の日本代表2チームはいずれも東大でした。

2018年プロコン 課題部門で文部科学大臣賞、最優秀賞、及び情報処理学会若手奨励賞を、また自由部門では特別賞を受賞しました。最優秀賞の受賞は3年連続となります。



2018年高校・高専気象観測機器 コンテスト(優秀賞(全国2位))





2018年インターハイ陸上競技で 本校制御情報工学科5年生17名 が技術協力

2018年 走り高跳び 全国高専大会 3位 東海地区高専大会 優勝





自己記録2m00

全日本ソーラー&人力ボート レース大会2018 (学生の部総合優勝)



ご清聴ありがとうございました。

平成30年度 年度計画達成状況

平成30年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。

- S:計画をはるかに上回る実績を残した A:達成度 100%以上 B:達成度 70%~100%未満 C:達成度 70%未満

	年度計画	委員会等	事務	計画の実施状況等	自己点検評価
1	教育に関する事項				
(1))入学者の確保				
1	県内外の中学校を教職員が訪問し、学校PRを実施する。(春季:230校、秋季150校) その他、在学生、同窓会等の協力を得て、入学者確保のための活動を行う。	教務	入試・支援	① 今年度の巡回PRは、新学科設置のアナウンスの必要性もあり、春季、秋季ともに230校と大幅に訪問校を増やし、各担当教員が学校PR、情報収集を行った。 また同窓会会員による学校PRの中学校訪問も、愛知県、大阪府を中心に、14校に及んだ。	
2	学校行事、各種イベント開催、コンテスト参加等について、事前にマスメディアに通知するとともに、コンテスト等で入賞した場合にも、積極的にマスメディア等へ連絡しPR活動に努める。	広報・公開	総務	② 学校行事、各種イベント開催、コンテスト参加等について、事前にマスメディアに通知し、PR活動を行うとともに、HP等で公表した。 学生の主な活動は以下の通り。 ・全国高専プロコンでの文部科学大臣賞、最優秀賞等の受賞 ・マイクロソフトイマジンカップ世界大会出場 ・少林寺拳法部インターハイ出場、全国大会出場 ・第7回高校・高専気象観測機器コンテストにて優秀賞受賞 なお、新聞等の掲載は30件、ケーブルTVでの紹介が1件であった。	A
3	入試広報室を中心に、中学校から依頼のある「進路 説明会」には、積極的に参加する。	教務	入試・支援	③ 県内23校の中学校から進路説明会参加の要請をいただき、すべてに参加した。	A
4	県内の他高専と連携し、共催の入試相談会を県内外で企画、実施する。	教務	入試・支援	④ 鈴鹿高専、近大高専との共催により、県内外において延べ 10ヵ所で開催した。(津、四日市(7月28日)・蟹江(8月1日)・名古 屋(8月3日)・桑名(8月8日)・尾鷲(8月9日)・伊勢(8月10日)・志摩 (10月13日)・津、四日市(11月24日))	
5	海事関連機関との連携のもと、5商船系高専の合同 ガイダンス等、商船学科向けの企画に参加し、志願者 増加を目指した広報活動を行う。	教務	入試・支援	⑤ 今年度の合同ガイダンスは2回開催された(神戸・横浜)。計177名が訪れ、会場において本校のPRを行った。	A
6	各広報活動において女子中学生向けパンフレットを利用するなど、女子中学生の志願者を増やすためのP Rを行う。	広報・公開	入試・支援	⑥ すべての広報活動で女子向けのパンフを配布資料とし、また校外団体主催の小・中学生向け「進路フェスタ」に、女性教員を派遣したことで、本校ブースへの女子の来訪も目立った。	В
7	練習船鳥羽丸を活用したPR活動を行う。 四日市港、名古屋港におけるイベント参加の他、他 高専との交流、本校オープンキャンパス等の機会に同 船を活用し、本校の魅力をアピールしていくとともに商 船学科志願者の増加を目指す。	広報・公開	入試・支援	⑦ 四日市港のイベント (8月4日、5日) には、例年を上回る約600名が鳥羽丸見学に訪れた。 また、名古屋港のイベントにも参加、体験航海の他、一般公開は両日にわたって行い、400名以上が鳥羽丸見学に訪れた (11月10日、11日)。	A
8	HPのリニューアルを行い、「トピックス」、「イベント情報」、「学生の活躍」、「卒業生の進路」などを積極的に更新し、本校の情報発信に努める。	広報・公開	総務	⑧ HPのリニューアルを行い(5月)、「トピックス」、「イベント情報」、「学生の活躍」、「卒業生の進路」などを積極的に更新し、本校の情報発信した。	A
9	中学生とその保護者及び教諭を対象としてきた「学校説明会」を「オープンキャンパス」に発展させ、対象中学生を全学年とすることで、本校を幅広く知ってもらえるよう、実施内容を更新する。	教務	入試・支援	⑨ 「学校説明会」を「オープンキャンパス」とリニューアルした今年度は、過去最高の508名の事前申し込みがあり、当日の各企画も概ね好評であった。	A
10	海学祭を、本校の入試広報活動の効果的な機会と 位置付け、入試説明会等を企画する。また参加者増 加を目指し、巡回PRや入試相談会等において、同学 祭のPRを行う。	教務	入試・支援	⑩ 例年通り、海学祭において入試説明会を開催。今年度は事前申込み制を廃止し、当日学祭参加者も自由に参加出来る環境を整えた結果、直近5年の平均参加者数が30名であるのに対し、120名を超える盛況となった。	
11)	2019年版学校案内をさらにPR効果向上を目的としたパンフレットにリニューアルするとともに、新たに簡易版の作成を検討する。	教務	入試・支援	① 学校案内はレイアウトを刷新、また中学校での進路説明会等で配布しやすい簡易版や、新学科新設に伴うリーフレットを作成、後者は県内外の中学校1,480校に配送した。	
12	入学志願者の増加と優秀な学生の獲得を目指して、 2種類の推薦選抜による、新たな入学選抜制度を導入 する。	教務	入試・支援	② 推薦選抜を「特別推薦」と「一般推薦」の2種類に分けた新しい選抜方法を採用した。 両推薦を合わせた今年度の志願者数は、商船学科が昨年度(10名)を上回る18名、新学科である情報機械システム工学科は、全定員数の85%を超える71名(89%)となった。	
(13)	他高専と連携し、県内外に学外試験場を複数設置し、学力検査を効率的に実施する。	教務	入試・支援	③ 東京検査会場は、平成31年度入試より東京海洋大学(越中島キャンパス)に変更。木更津高専、富山高専との共同運営により、派遣職員数やコスト削減につなげることができた。	A

	年度計画	委員会等	事務	計画の実施状況等	自己点検評価
14)	女子中学生の進路に関連するイベント等に積極的に参加し、本校のPRを行い女子学生獲得につなげる。	教務	入試・支援	④ 女子中学生に特化したイベントはなかったが、今年度から東京秋葉原で開催された、高専機構主催の「国公立私立合同説明会」に本校も参加し、女子学生に制服で補助業務を行わせるなど、女子中学生に積極的にアピールした。	В
	入試説明会等参加者、受検者及び入学者を対象として実施したアンケートを検証し、入学志願者獲得に向けた活動に活用する。	教務	入試・支援	⑩ 例年の検証・分析により学科改組、選抜方法の変更を行った。次年度も調査を継続し、新しい選抜検査の結果と照合して今後の参考とする。	A
16)	4年生を対象にアンケートを実施し、本校の教育目標及び学科の教育目的の達成度を検証し、シラバス及びカリキュラムに反映する。	教務	教務	16 アンケートを実施(5月)し、実施結果を教務主事、学科長と 共有を行った。なお、本校の教育目標に対する達成度は、4段階中 「人間性豊かな教養人となること」が2.7、「創造性豊かな技術者 となること」が2.7、「国際性豊かな社会人となること」が2.5で あった。	В
17)	教育施設・設備や学寮等の学生就学環境の向上を 目指した整備を行う。	教務 寮務 施設 環境整備	教務 学生生活	① 図書館1Fにラーニングコモンズを整備した。	В
	女子トイレ、女子更衣室等の施設の充実を検討する。女子寮については寮務主事、学生生活係の方針 等に合わせて改修案を検討する。	教務 寮務 施設 環境整備	施設	® 女子更衣室のロッカーを再整備し、従来は通学生のみに限定していたが、平成30年度からは寮生も使用できるようにした。 女子寮のトイレの一部を、和式から洋式に変更する計画を寮務主事、学生生活係と共に検討し、暁寮女子寮4階の女子トイレを変更する事で決定した。閉寮期間中の3月に工事は完了し、洋式を2ヶ所に増加させた。	A
(2)	教育課程の編成等				
1	商船学科の高度化を踏まえた将来構想についての 検討を継続して行う。	将来計画	企画• 地域連携	① 商船学科の高度化を踏まえた将来構想についての検討を行った。平成31年度も継続して行っていく。	В
2	練習船鳥羽丸の代替新造を目指し、5商船系高専が 連携して、基本構想を固め、具体的な提案を行う。	将来計画	企画• 地域連携	② 5商船系高専が連携して、1校1練習船を基軸とする代替新造を目指し、商船系校長・事務部長会議のもとに平成29年度に立ち上げた「商船系高専練習船更新WG」にて検討した基本構想(5商船系高専練習船要求書)を機構本部に提案した。	A
	工業系2学科の再編について、現在申請中の学科 改組が決定した折には、平成31年度の新入生受け入 れに向けた学内体制の整備を行う。	将来計画	企画• 地域連携	③ 平成31年度からの学科改組が決定(8月30日)し、教職員に対して説明会を実施(9月5日)、また、記者会見(9月6日)も実施し、学内外への周知・説明を行った。学内の体制整備についてもWGを中心とし、カリキュラム編成や学生募集関係の周知等を行った。また工業系学科改組に向けた内容で、KOSEN4.0イニシアティブが採択されており、新学科の重点的な取り組みとして「地域と連携した課題解決による技術者育成」を実施していくために地域・企業との連携を強化している。	A
4	高度連携関係にある鈴鹿高専との教育・研究・学生 指導等について、引き続き連携協力する。	校長	課長補佐 (総務担当)	④ 第16回鳥羽商船高専と鈴鹿高専との連携強化推進委員会を開催し、両校の主事による教務、学生、寮務、研究の各分野題及び事務部長間での連携事項について協議し、協力体制の強化を図った(7月12日、3月19日)。	A
(5)	和歌山高専との包括協定に基づいて、研究を中心と する連携協力を推進する。	校長	課長補佐 (総務担当)	⑤ 和歌山高専とは、練習船鳥羽丸を和歌山へ派遣し防災関連のシミュレーションを実施(5月8日)、本校に和歌山高専の教員を招聘し相互に研究事例紹介を実施(9月7日)するなど、連携協力を進めている。	
	各学科・専攻科の教育目標やカリキュラムに反映させるため、卒業生に対し、在学中に身に付けた資格・能力の有用度に関するアンケート調査を実施する。	教務	教務	⑥ 卒業生に卒業アンケートを行い、そのアンケート結果を集計した(9月、3月)。本校の教育目標に対する達成度は、4段階中、工業系では「人間性豊かな教養人となること」が2.9、「創造性豊かな技術者となること」が2.9、「国際性豊かな社会人となること」が2.7であり、商船では「人間性豊かな教養人となること」が3.0、「創造性豊かな技術者となること」が2.9、「国際性豊かな社会人となること」が2.7であった。今後、その結果について検討していく予定である。	
	「地域への貢献」を主として、県内機関との各種連携を基に、地域ニーズの把握をさらに進め、具体的なプロジェクトを増加させる。より多くの学生を関連プロジェクトに参加させる中で、「新産業を牽引する人材育成」を実施する。	校長	企画・ 地域連携	⑦ 「高等教育コンソーシアムみえ」や「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の事業に参加し、県内高等教育機関と連携しながら、学生の地元地域への関心を高める取組を行っている。三重県水産研究所が主催する研究会で、IT技術活用漁業の取り組み紹介として、学生が3件の成果報告を行った(2月16日)。また、学生チームが「コンソーシアムみえ」の取り組みである「みえまちキャンパス」へ参加し、地域と連携した活動について発表を行った(2月20日)。	A
8	鳥羽市との連携協定を基に学生実験などで地域の ニーズを取り入れたテーマ設定を行い、積極的に地域 と関わる機会を作る。	校長	企画• 地域連携	⑧ 授業の中で地域のニーズである「観光につなげる漁業」の取り組みとして、遠隔からカゴ漁による魚介捕獲システムを提案し、捕獲者・捕獲場所等のバックグラウンドが見えるようにすることで、付加価値をつけ消費者(観光業者、観光客)へ提供する仕組みを実装するなど、新規課題に積極的に学生を参加させ、「新産業を牽引する人材育成」を進めている。	S

年度計画	委員会等	事務	計画の実施状況等	自己点検評価
⑨ 英語、数学、国語の3教科については、入学直後に学力試験を実施し、各学生の学力・学習習慣を把握し、学修推進支援室が中心となり、科目担当教員と協力して学生の学習支援対策を実施する。	教務	教務	⑨ ベネッセスタディサポートを実施した(4月4日)。学修推進支援室でその試験結果・成績等を把握し、科目担当教員が連携して、学習指導を行った。	В
⑩ 学修推進支援室と物理、数学の教員が連携し、1年生から3年生までの数学、物理等の基礎学力向上に努める。	教務	教務	⑩ 数学、物理の成績要支援者・成績不振者に対し、科目担当教員から宿題等を課し学力の向上に努めた。	В
① TOEIC講習会を開催するとともにTOEIC IPテストを学校行事として実施し、学生の成績の推移を確認する。	教務	教務	⑩ 夏季休業中にTOEIC講習会を実施した(7月14日~16日)。また、TOIEC IP試験を学校行事として実施した(7月21日)。前年度に比べて、4年、5年の両学年のスコアは20点以上上昇した。	A
② 授業アンケート方法、内容を変更し、より学生の意見が反映される授業アンケート方法にする。授業アンケート結果を公開し、改善計画を立て、教授法の改善に努める。	教務	教務	② 今年度から、学生の意見がより反映されるよう、アンケート項目を変更した授業アンケートを各授業科目最終日に実施して、アンケート結果を公開し、次年度の授業計画に反映させる。	В
③ 教員同士のピアレビューや教員の資質向上を目指したFD活動を実施する。	教務	教務	③ 授業公開を実施し、教員同士のピアレビューを行い、出されたコメント等は授業改善に資するために科目担当教員にフィードバックした(11月26日~30日)。 アクティブラーニングに関するFD研修を実施、資質向上に努めた(3月6日)。	В
④ 「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」「全国高等専門学校体育大会」、「インターハイ」、「ImagineCup世界大会」等、に積極的に参加し、優秀な成績を収められるよう、参加学生をサポートして学生の意欲向上を図る。また、高専イメージの向上のため、これまでのコンテスト等実績をオープンキャンパスなどでアピールして志願者獲得につなげる。	教務 学生	入試・支援学生生活	(4) 今年度も各学生コンテスト等に事務的支援を行っている。 プログラミングコンテストは3年連続で文部科学大臣賞を受賞するなど、それぞれの大会において本校のイメージ向上に寄与している。主だった競技会やコンテストは以下のとおりである。 ・全国総合体育大会(インターハイ)に少林寺拳法部が出場した。 ・全国高等専門学校体育大会に柔道部及び陸上部が出場した。 ・平成30年度鳥羽市民体育大会ソフトテニスの部で優勝した(10月28日)。 ・パソコン甲子園2018でベストデザイン賞を受賞した(11月17日)。 ・第7回高校・高専気象観測機器コンテストで優秀賞を受賞した(11月17日)。 ・第7回高校・高専気象観測機器コンテストで優秀賞を受賞した(11月17日)。 ・キャンパスベンチャーグランプリ2018中部で特別賞を受賞した(11月30日) ・第29回全国高専プログラミングコンテストで文部科学大臣賞(最優秀賞、情報処理学会若手奨励賞)、特別賞を受賞した(10月27日、28日)。 ・東海高校新人陸上競技選手権男子走高跳で8位入賞した(10月27日、28日)。 ・全日本ソーラー&人力ボートレース大会2018で学生総合優勝および特別賞を受賞した(8月25日、26日)。 ・全日本は19日本の大会に出場した(8月23日~25日)。 ・全国高専大会男子走高跳で3位入賞した(8月18日、19日)。 ・東海地区高専大会男子走高跳で優勝した(6月23日、24日)。	S
⑤ 地域と連携を図り、地域清掃等ボランティア活動を継続して行う。	教務 学生 寮務	学生生活	⑤ 鳥羽警察啓発活動ボランティアに参加,協力を行った(7月12日、11月30日)。	A
(3)優れた教員の確保	247.47.4			
① 教員組織が多様な背景を持つ教員で構成されるよう、教員採用に際し、広く公募を行い、公募制の徹底を図る。	教員選考	人事労務	① 本校・高専機構・国立研究開発法人科学技術振興機構(JREC-IN Portal)・関連学会のHPによる公募及び関係大学・民間企業に公募要領の送付して公募の徹底を図り、1名の教員(海事職)の採用を決定した。(平成31年1月1日付採用)	A
② 高専間での任期を付した人事交流を行い、教員活動の活性化を推進する。	教員選考	人事労務	② 高専・両技科大学教員交流制度により、平成32年度に鈴鹿高専と教員1名を人事交流するための準備を行っている。	В
③ 専門科目については、博士の学位を持つ者や職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育能力を有する者の採用を促進する。	教員選考	人事労務	③ 専門科目(海事職以外)については、博士の学位を有している(採用日前月末までに取得見込みの者を含む)優れた教育能力を有する者を採用した。(平成30年4月1日付採用3名)	A
④ 教員の採用にあたっては、女性教員の優先的採用を推進するとともに、女性教員の積極的な登用を図る。	教員選考	人事労務	④ 教員公募において、「男女共同参画社会基本法」の趣旨に基づき、評価が同等であれば女性を優先して採用するなど積極的な登用の推進を図り、平成30年4月1日付で女性教員を1名採用した。	A
⑤ 女性教職員の就業環境について要望を把握し、更なる改善に努める。		施設	⑤ 就業環境についてのアンケートを依頼し、アンケート結果を 取り纏めて平成31年度以降の改修計画に含めた(2月~3月)。 また、潮騒会館1・2階の女子トイレにおいて、2階の和式2箇所の うち1箇所を様式にし、1階の様式にはウォシュレットを設置し た。	A

年度計画	委員会等	事務	計画の実施状況等	自己点検評価
⑥ 国立高専機構主催のFD研修会や教育研究集会等の各種研修に積極的に参加させることにより、教員の能力向上を図る。	教務	人事労務	⑥ 年度計画を基に、以下の取組を行った。 ・平成30年度高専機構主催の管理職研修に2名、中堅教員研修に1 名、新任教員研修会に4名が参加し、教員の能力向上を図った。 ・平成30年度英語力強化・高専ー技科大連携プログラム(ニュー ヨーク市立大学クイーンズ校)に1名が参加した。 ・第3ブロックグローバル高専事業平成30年度教職員向け英語研修 に、教員5名、事務系職員1名が参加した。	A
⑦ 三重県教育委員会と連携協力し、各種研修等への 参加を通して、学生指導力や教員の資質向上に努め る。	教務	人事労務	⑦ 各種研修等の開催について教員へ周知を行っている。	В
⑧ 国立高専機構教員顕彰に候補者を推薦する。	校長	人事労務	⑧ 平成30年度国立高等専門学校教員顕彰一般部門に1名を推薦 した。	В
⑨ 国立高専機構の制度を活用して、内地研究員及び 在外研究員の派遣に努め、教員の教育研究能力の向 上を図る。	校長	企画· 地域連携	⑨ 平成30年度の内地研究員及び在外研究員派遣は0名である。 応募はなかったが、平成31年度の在外研究員及び内地研究員に関 しては、学内で周知を図った。	С
(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム				
① MCCに準拠したWebシラバスを作成しているが、各科において各科目の到達目標、ルーブリック評価及び授業計画等が学習到達目標を達成させる上で妥当であるか、今年度も各学科において検討する。	教務	教務	① MCCの完成版に対応するため、カリキュラム及び到達レベル等を各学科で検討し、Webシラバスを作成・公開した。	A
② 学修推進支援室を中心に、アクティブラーニング等の教授法の調査・研究を行い、学内に展開する。	教務	教務	② 第3ブロックAL(アクティブラーニング)研究会に参加し、アクティブラーニング等の教授方の調査・研究を行っている。また、FD研修を開催することで、教授法を各教員に展開した(3月6日)。	В
③ 学生の積極的な資格等の取得を促す。	教務	教務	③ 資格による単位認定や教員の指導により、一級海技士及び二級海技士等の船舶関係の資格の他、貿易実務検定、数学検定等、例年に取得していない多種多様な資格を取得している。	A
④ 学生による学生会諸活動の企画・運営の支援及び 学生会諸団体の他高専との交流の支援を行う。また、 学生の交流活動の一環として他高専との学生会や寮 生会の交流を支援し、学生の意識向上や学生活動の 活性化を図る。	学生	学生生活	④ 本校主催のリーダーストレーニングに、鈴鹿高専の学生会役員、学園祭役員が参加し、リーダーとしてのメンタルトレーニングについて講義を開催した。また、学生会則等部活動事務マネジメントについてグループ学習を行った。(8月30日)寮生会においては、学生の意識向上や学生活動の活性化を図るため、鈴鹿高専及び豊田高専と連携し、寮生交流会を実施した。(11月10日)。	A
⑤ KOSEN4.0イニシアティブ採択事業により、創造性を育む教育方法(PBL)の実践を推進する。	教務	教務	⑤ 電子機械工学科及び制御情報工学科の創造実験の授業で創造性を育む教育方法 (PBL) を実施している。その一つがプログラムコンテストで文部科学大臣賞を受賞した。 "KOSEN (高専) 4.0"イニシアティブフォーラムで、各学科の学生の代表がPBLで学んだことを発表した (2月22日)。	S
⑥ 平成25年度に受審した機関別認証評価結果に基づく改善を継続する。	点検評価	企画· 地域連携	⑥ 各学科の求める人材像(アドミッション・ポリシー)について、学生募集要項、学生募集パンフレット及びHP等に掲載し、受検生、保護者及び中学生等に周知を行っている。また、年度計画の達成状況について内部評価を行った。	
⑦ STCW条約に基づく資質基準を維持するとともに、同条約に基づいた設備の点検を継続する。	S T C W 条約対策	入試・支援	⑦ 内部における点検を行い、その後財団法人(国土交通省委託)による監査(資料提出による確認)を受けた結果、指摘事項はなかった。	A
⑧ 受け入れ企業等の開拓を県内を中心に積極的に行い、インターンシップ参加を奨励する。	教務	教務	⑧ 県内企業を中心に学科長等とインターンシップ依頼先企業の 選定を行った。 また、平成30年度インターンシップ参加学生数は、商船学科14 名、電子機械工学科28名、制御情報工学科34名、専攻科5名となっ ており、工業系学科において、参加率は82%となり、昨年に比べ 7%向上した。	A
⑨ 現職並びに退職技術者による企業技術者等活用プログラムを企画・実施する。 また、日本弁理士会と連携して、知財セミナーを開催する。	教務	教務	⑨ 企業技術者等活用プログラム、知財セミナーを次のとおり実施した。 ・特別講義(ビジネスモデル)において、伊勢産業支援センターから講師に招き授業を実施した(9月17日~19日)。 ・後期に特別講義(航空宇宙産業)において、航空宇宙産業の技術者を招聘し講義を実施した(10月17日、10月31日、11月14日、11月21日、12月5日)。 ・日本弁理士会と連携して、知財セミナーを実施した(5月11日)。	A
⑩ 高専と大学との共同教育課程の導入に向けて対象 大学を絞り、協議を進める。		教務	⑩ 高専と大学との共同教育課程(現、連携教育プログラム)の 導入に向けて専攻科委員会で協議した。	В

	年度計画	委員会等	事務	計画の実施状況等	自己点検評価
(11)	学生及び教職員のICTスキルを向上させるための講習会を開催し、活用促進に努める。	総合情報センター	教務	⑩ 学生のICTスキルを向上させるための講習会として、商船学科1年生を対象として一般基礎教育1でOffice365講習を行った。	В
(5)	学生支援・生活支援等		<u>I</u>		
	学生相談室の担当教職員、臨床心理士等の連携 強化を図り、学生の学習・生活相談への支援及び 心のケアの充実を図る。	学生	学生生活	① 臨床心理士を交えた担当教職員のミーティングを2回(11月7日、1月30日)開催し、学生の対応について指示を仰ぐとともに、学生についての情報を交換し、必要に応じて臨床心理士、精神科医につなげた。学生主事室、寮務主事室とも密に連携をはかり、学生への細やかな対応を通して、メンタルヘルスの維持に努めた。	A
2	修学支援要項に従って、学生及び保護者からの 支援要請に適切に対応する。	学生	学生生活	② 本年度新入生の修学支援要請は2件あり、所属学科、一般教育科の教員、学修推進支援室などが連携をとりながら、主に学習支援を行った。	A
3	アルバイト研修会の実施を検討する。	学生	学生生活	③ 12月11日付け広報において、学生及び保護者向けに対し日常 生活に支障が出ないよう心がけること及びブラックバイトなどの 被害に遭わないよう注意喚起を行った。	В
4	健康管理(メンタルヘルス、薬物乱用等)、交通安全 等に関する講習会を開催する。	学生	学生生活	④ 新入生には一般基礎教育1の時間を利用し、臨床心理士が「充実した学生生活のために自分の考え方のくせを知る方法」というタイトルで講演会を行った(4月11日)。2年生に対して、一般基礎教育2の時間を利用し、鳥羽市健康福祉課子育て支援室と連携して、「デートDV」についての講演会を行った(7月11日)。また、小児精神科医を講師とし、うつ病について教職員向けFDを行った(8月2日)。	A
5	学校医による定期的な健康相談を実施する。	学生	学生生活	⑤ 学校医による耳鼻科健康相談(10月18日、12月13日)を実施 した。眼科健康相談(11月22日)、歯科健康相談(11月29日)を 実施した。	A
6	保護者懇談会を含め、保護者からの学生に関わる相談に応じ、学生支援を充実する。	教務	教務学生生活	⑥ 保護者懇談会を年2回(6月14日~20日・10月20日~26日)開催し、保護者からの意見等を担任会議で情報共有を行った。 寮生保護者懇談会を年2回(6月16日・10月21日)開催し、前期79世帯、後期63世帯の保護者が出席し、学寮運営についての意見交換を行った。	A
	現在新入生120名に対して40名の枠しか収容能力がなく、学生寮の入寮希望者数に対し既に収容能力を超えているため、学生寮寄宿舎整備計画を策定し、整備を進める	寮務	学生生活	⑦ 入寮希望者数が増加をしており、寮の受入可能数が上限を超える見込みがあるため、施設環境整備委員会等において今後の改修計画を検討し、最優先で高専機構に営繕要求を行った。	
_	学生の学習支援施設としての図書館の学生用図書 の充実を推進する。	図書紀要	図書	⑧ 学生用図書については、順次購入を進め、平成30年度は1,200 冊増加した。	A
	授業料免除や奨学金制度について、在校生及び保護者には案内状を送付し、新入生及び保護者には、入学手続き説明会で説明を行う、とともに、HP等によって詳細な情報の提供を行う。	学生	学生生活	⑨ 授業料免除や奨学金制度については、HPに掲載を行うとともに、保護者へ案内状を送付し、情報提供に努めた。また、該当学年の教室、廊下の掲示板及び学生課前等にポスター掲示を行い、学生への情報提供に努めた。	A
	キャリア教育推進室を中心に、全学生を対象にカリキュラムと連携した学年適応型の進路指導を行うとともに、就職活動に備え、外部講師を招いて就職ガイダンスや校内就職支援セミナー等を実施する。	教務学生	学生生活	⑩ 社会人基礎力養成のための授業科目(一般基礎教育1・2)、就職力養成のための授業科目(キャリアデザイン1・2)に於いて、外部講師を招き、以下の授業を行った。 一般基礎教育1(1年生):スマホ安心講座(KDDI講師)(7月18日)、消費者教育(鳥羽市出前トーク講師)(11月21日)。一般基礎教育2(2年生):日本国憲法(三重県弁護士会弁護士)(6月27日)、ライフプランを考える(日本FP協会講師)(6月6日)、デートDV防止啓発講座(鳥羽市子育て支援室講師)(7月11日)キャリアデザイン1(3年生):インターンシップの動機づけ講座(マイナビ講師)(11月27日)、自己分析講座(マイナビ講師)(11月27日)。 キャリアデザイン2(4年生):就活講座(マイナビ講師)(11月27日)、模擬グループ面接講座(マイナビ講師)(12月4日)。専攻科、本科3年生、4年生を対象とした校内就職支援セミナーを実施した(2月8日)。	
	き極めに行い 学校レ企業の焦想な塊を深め まし	キャリア 教育推進室 学生	学生生活	① 夏季休業中インターンシップにおける企業への巡回訪問で38 社訪問したことや、企業訪問を積極的に受け入れることにより、 求人の確保を図った。	A
	海運企業及び海事関連機関との情報交換を深め、 商船学科学生の海上就職率向上のための取組を積 極的に行う。	キャリア 教育推進室 学生	学生生活	② 海運企業等の訪問は、30件以上あった。また、海事関連機関との情報交換も計6回あった。	A
_	学生の海上就職への志向性を高めるとともに、特に外航海運会社就職のために必要な知識・能力向上のための教育改善に取り組む。	字生 キャリア 教育推進室 学生	学生生活	③ 5商船系高専と海事関連機関で実施している「次世代海事人材育成プロジェクト」において、コミュニケーション能力や国際性等の資質を確かな能力として定着させるグローバル教育プログラム実践の一環として、特に低学年の英語の導入教育を行った。	A

	年度計画	委員会等	事務	計画の実施状況等	自己点検評価
14	キャリア教育推進室を中心に、入学から就職までの 一環したキャリア教育を策定し、低学年から実践してい く。	キャリア 教育推進室 学生	学生生活	④ 社会人基礎力養成のための授業科目である一般基礎教育1(1年生)および一般基礎教育2(2年生)、就職力養成のための授業科目であるキャリアデザイン1(3年生)及びキャリアデザイン2(4年生)の授業内容を、キャリア教育推進室と学科および担当者が共同で授業、セミナーの企画を行った。((5)⑩参照)	S
(6)	」)教育環境の整備・活用		<u> </u>		
1)	教育研究設備の整備について、設備マスタープランの 更新を行う。	校長	課長補佐 (財務担当)	① 平成31年度設備整備計画に向けて設備マスタープランを更新し、予算要求を行った(3月)。	A
2	無線AP数を現状の1割以上増設し、教室及び研究室等のアクティブラーニング環境整備を推進する。	総合情報センター	総務	② 無線APを、事務室や教室、研究室等に増設し、アクティブラーニング環境整備を行った。	A
3	施設の老朽狭隘状況、耐震性能等をとりまとめた整備計画鳥瞰図や、維持管理状況、光熱水費等調査資料を作成し、改善を行う。	施設 環境整備	施設	③ 施設の老朽状況については、専門家(一級建築士)による調査を実施する契約を締結(2月4日)し、調査を実施した(2月~3月)。この調査データを元に老朽化状態の資料を作成した。また、光熱費調査資料は毎月のデマンドデータを順次取得している為、このデータの集計をグラフ化して比較できるようにした。	A
4	平成29年度の艇庫の耐震診断に伴い、耐震補強 を行う。	施設環境整備	施設	④ 艇庫耐震補強工事の契約を締結(11月9日)し、工事を完了 (12月7日) させ耐震強度(Is値)を0.36から0.72まで引き上げた。	A
5	学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配布するとともに、労働安全衛生管理に関する講習会等に教職員を積極的に参加させる。	安全衛生	人事労務教務	⑤ 平成30年度AED研修(普通救命講習会)に教員3名、事務系職員3名の計6名が参加した。 新規採用等教職員に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付し、学生に対しては、新入生に「実験実習安全必携」を掲載した学生便覧を新入生に配布した。	A
6	男女共同参画室を中心に、男女共同参画に関する 意識啓発のため、関連情報を教職員へ提供する。 また、外部が主催する男女共同参画に関する研修 等に教職員を積極的に参加させる。	校長	総務	⑥ 男女共同参画室を中心に、男女共同参画に関する意識啓発のため、男女共同参画に関する情報を教職員へ提供した。 また、高専女子フォーラムへ学生2名を派遣し、男女共同参画推進を図った(12月)。	A
2 研	f究や社会連携に関する事項				
	研究の推進、各種プロジェクトへの応募及び外 部資金獲得に積極的に取り組み、外部資金等の増 加に努める。	研究主事	企画・ 地域連携	① 柑橘栽培の人工知能化に関する研究が総務省のSCOPEに採択された。また、農林水産省系のプロジェクトに2件参画した。	S
2	外部資金獲得状況を学内で全教員に周知し共有することにより、外部資金データベースの効率的活用を維持する。	研究主事	企画 • 地域連携	② 外部資金獲得状況を教員会議で周知し共有し、他高専の獲得状況を理解した上で科学研究費補助金をはじめとする外部資金獲得の申請を促した。	В
3	包括連携を結んだ鳥羽市、三重県工業研究所、和歌山高専と連携し、共同研究を推進する。	研究主事	企画· 地域連携	③ 和歌山高専とは、以下の事業を実施した。 ・鳥羽丸を和歌山へ派遣し防災関連のシミュレーションを実施(5月8日) ・本校に和歌山高専の教員を招聘し相互に研究事例紹介を実施(9月7日) ・和歌山高専・次世代テクノサロンにて講演(11月27日)。 ・和歌山高専と「持続可能性を目指すグリーン海洋工学によるレジリエンスを支える海洋環境と防災」をテーマに科研費(基盤S)を申請した。鳥羽市とは、以下の事業を実施した。 ・答志島への遠隔監視制御檻の設置支援(10月17日) ・観光課の大型客船寄港に伴うインバウンド対応の意見交換等を行なった(10月31日) 工業研究所とは、助成金の共同申請について検討した。	A
4	各教職員の持つ研究シーズをwebページ上に掲載する。	研究主事	企画・ 地域連携	④ 各教職員の持つ研究シーズ集を作成し、Webページへの公開を行った。	A
(5)	高専機構が主催するの新技術説明会への参加を促す。	研究主事	企画· 地域連携	⑤ 高専機構主催の説明会等について、全教員に開催案内をメール、 インフォメーション等で周知し、積極的な参加を促した。	В
	外部研究経費の新規獲得事例を増やすため、各教職員の分野に応じて個別に紹介を行う。	研究主事	企画· 地域連携	⑥ 高専機構、外部団体等からの競争的資金等の公募情報については、他高専の教員との共同研究も含めて積極的に応募するよう教員に周知するとともに、事案により個別に案内を行う体制づくりをした。	A
7	科学研究費補助金等への申請率95%を当面の目標にして取り組みを強化し、採択率の向上に努める。 (平成29年度、教員・技術職員による申請率は89.6%)	研究主事	企画・ 地域連携	⑦ 外部資金等獲得のため、科学研究費補助金の申請率を向上させる 取り組みとして、教員会議において全教員の申請を方針とした結果64件 の申請があった。教員のみの申請率は92.7%(昨年度86.8%)、技術職 員を含む申請率は94.2%(昨年度89.6%)であった。	В

	年度計画	委員会等	事務	計画の実施状況等	自己点検評価
8	教職員に学会、展示会等への参加を呼びかけ実質的な研究・教育成果の公表につなげる。	研究主事	企画• 地域連携	⑧ みえ産学官技術連携研究会総会にて研究事例の発表を行った (7月2日)。百五銀行のデジタルフォーラムにて発表(11月19日)。"KOSEN(高専)4.0"イニシアティブフォーラムを開催した (2月22日)。全教員に対して、今年度論文発表、学会発表、その 他研究発表を行った実績について、件数の調査を行った(2月)。	A
9	地域や業界等からの教職員及び学校へ向けられた要望を集め、関係する教職員、団体へ返答する 試みを実施し、新たな共同研究等へ結びつけるようにする。	研究主事	企画 • 地域連携	⑨ 平成31年度に向けて全教員が外部機関との連携を行うため、調査アンケートを実施した。株式会社中電CTIと共同研究に関する打合せを行い、今年度共同研究を実施した(1月21日)。中電CTIとは、次年度も継続する予定である。	A
10	機構からのコーディネート活動に関するスキル 等の紹介を受け、それを本校へ適用可能な部分を 精査し、活用する。	研究主事	企画 · 地域連携	⑩ JSTのコーディネータおよび西日本KRAとの面談を行った(6月7日、8月21日)。外部資金公募等の情報を共有し、学内への周知を行った。	A
(1)	地方自治体、法人、民間企業等からの技術相談に応じるとともに、交流会等に積極的に参加し、 受託研究・共同研究等への発展を目指す。	テクノ センター	企画• 地域連携	① 今年度33件の技術相談があり、そのうち2件は共同研究に結びついている。	A
12	地域の関係機関等と情報交換等を積極的に行う。	テクノ センター	企画· 地域連携	② 農業研究所及び三重県庁の担当者と「ICT・スマート農業に関する意見交換会」を開催し、意見交換を行い、教職員6名が参加した(8月10日)。	A
	知的財産に関する講演会またはweb講演会等の実施情報を集め、教職員に周知、参加を呼びかける。	研究主事	企画• 地域連携	③ 特許庁等が主催する知的財産権制度説明会の開催について教職員へ周知を行い、教員1名、事務職員2名が参加した(8月3日、8月8日)。	В
<u>(14)</u>	知的財産コーディネーターの利用を推進する。	研究主事	企画· 地域連携	④ 毎月、機構KRAの個別相談会開催について教員へ周知を行い、1 名の教員が参加した。	В
15	機構による知的財産の状況調査結果を精査し、 本校で利用可能な事例を、必要に応じて校内に紹 介する。	研究主事	企画• 地域連携	⑤ 知的財産の事例については、機構からの情報等随時周知を行った。	В
16	本校の産学連携事例を調査し、web上で事例紹介を 行う。	研究主事	企画· 地域連携	(B) 産学連携事例調査を実施した(11月)。 調査結果を精査しWebでの紹介内容を検討した。	С
17)	過去の産学連携事例をピックアップし、活用に 努めるよう教職員に周知する。	研究主事	企画 • 地域連携	⑰ 科研費採択事例集を総務課事務室に保管の上、教職員に案内し随時閲覧できるようにし、若干名の教員が閲覧した。	A
18	本校教職員の専門分野、研究開発実績等を紹介する「研究シーズ集」を更新して、受託研究、共同研究、技術相談等の推進に活用する。	研究主事	企画• 地域連携	® 研究シーズ集を作成しHPへアップロードする等、研究活動に 関する情報発信を行った。	A
19	公開講座の参加者に満足度や次回のテーマ等についてアンケート調査を実施し、満足度が8割以上になるようコンテンツの改善に努める。	広報・公開	企画• 地域連携	⑩ 平成30年度公開講座として、「サイテクランドin鳥羽商船(10講座)」の実施(8月18日~27日)、及び「小学生のためのバレーボール教室」を実施(10月6日)し、172名の参加者があった。参加者全員を対象に満足度のアンケート調査を実施した結果、「満足」及び「概ね満足」は90%以上であった。	A
20	教育委員会や小・中学校と連携した出前授業を 実施し、「ものづくり教育」、「理科教育」「プログラミング教育」等の支援を行う。	広報・公開	企画 • 地域連携	② 平成30年度出前授業として、小中学生を対象とした以下の講座を実施した。 ・「商船概論」(鈴鹿市立平田野中学校 6月12日) ・「オリジナルうちわを作ってみよう」(小俣児童館 8月10日) ・「商船概論」(鈴鹿市立千代崎中学校 10月11日) ・「LEGOロボットを作ろう(初級)」(鳥羽市立答志中学校 11月3日) ・「オリジナル下敷きを作ろう」(鳥羽市立長岡中学校 11月7日) ・「オリジナルTシャツを作ろう」(鳥羽市立加茂中学校 2月12日) また、三重県教育委員会が発行している「まな便」に講座を登録し、以下の講座を実施した。 ・「LEGOロボットを作ろう」(南伊勢町 1月27日) ・「LEGOロボットを作ろう」(白塚公民館 3月28日)	S
21)	小中学生を対象とした理科・科学イベントに出展し、地域における理科・科学技術に対する関心を高めるよう努める。	テクノ センター	企画• 地域連携	② 地元池上町の小中学生及び保護者を対象とした「ロボット教室」を実施した(11月3日)。 また、和歌山高専と連携して紀伊半島地域の小中学生を対象とした科学技術教育を実施する内容で、平成31年度「ジュニアドクター育成塾」に申請をした。	A
22)	一般市民の利用促進のため、学校説明会等で中学生と保護者へ本校図書館についての紹介を実施するとともに、地元の広報紙へは図書館の利用案内の掲載を依頼する。	図書紀要	図書	② 学校説明会で、中学生と保護者が400名来館し、本校図書館の利用のPRを実施した(8月18日、8月19日)。 また、地元の広報紙(広報いせ・広報とば・広報しま)に、図書館の利用案内の掲載を依頼した。(4月23日)	A

	年度計画	委員会等	事務	計画の実施状況等	自己点検評価
3 国	国際交流等に関する事項				
1	グローバル教育推進室が中心となり、シンガポール・ポリテクニックなど他機関等との連携を図り、国際交流の推進に努める。	グローバル 教育推進室	教務	① グローバル教育推進室を中心に、シンガポール・ポリテクニック等の連携を図り、国際交流に努めた。なお、平成31年3月に予定していたシンガポールMELキャンプ(3月11日~23日)はSMAの都合により次年度6月に延期となった。・KCC国際インターンシップ(3月2日~21日)・SMA鳥羽丸トレーニング(9月12日~19日)・SPプロジェクト(3月4日~4月12日)・オタゴ・ポリテクニク就業経験プログラム(9月5日~23日)・日タイ高校生サイエンスフェア(6月7日~9日)・高専生のための英語キャンプ(8月18日~9月2日)・シンガポール・ポリテクニックとの交流イベント(9月7日~15日)	S
2	アジアの留学生の獲得を目指す。	グローバル教育推進室	教務	② 高専の重点交流国であるモンゴルの3高専に複数教職員を派遣し、学生や教職員の相互交流について意見交換を行った。また、鈴鹿高専と共同でさくらサイエンス等へのプロジェクト申請を検討した。	
3	グローバル教育推進室を中心に、トビタテ!留学 JAPAN等を積極的に活用して留学希望者への教育・ 支援を促進する。 また、工業系学科向けの海外インターンシップの導 入に向け検討する。	グローバル 教育推進室	教務	③ トビタテ!留学JAPAN(高校第4期)に学生が3名採択され、ニュージーランド、タイへ留学した。トビタテ!留学JAPAN(大学4期)については、1名が採択され、アメリカのカリフォルニア州に留学した。なお、トビタテ!留学JAPAN(高校第5期及び大学9期)に向けて、学生向けの説明会を実施した。高校第5期に8名が申請している。 工業系学科向けの海外インターンシップについて、八戸高専が主幹校であるオタゴポリテクニク就業体験プログラムに立ち上げ当初から参画しており、今年度は本校から8名が参加した。	A
4	留学生の増加を図るため、留学生施設の生活環境 整備を検討する。	寮務 施設 環境整備	学生生活 施設	④ 寮務主事、学生課長、学生生活係とワーキングを立上げ定期的に打合せを実施し、暁寮B棟1階に留学生用寮室及び交流スペースを確保する為の営繕要求を行った。	
5	留学生に対し、異文化理解等を目的に日本文化施設の見学会や留学生交流会などを企画し実施するとともに、日本文化を学ぶ体験学習を実施する。	教務	教務	⑤ 茶道、華道の日本文化の体験学習を実施した(12月6日、13日、19日、1月10日、17日)。	A
6		教務	教務	⑥ 鈴鹿高専と合同で留学生交流会を実施した(12月15日)。	A
4 管	 理運営に関する事項				
1	運営諮問会議を開催し、中期目標・中期計画、年度 計画及び本校の将来計画についての提言を得る。	校長	企画• 地域連携	① 運営諮問会議を開催し、平成30年度年度計画の達成状況及び本校の現状と課題について説明を行うとともに、委員の方から提言を得た(3月14日)。	
2	業務の集約化及びアウトソーシングを検討する。	事務部	調達	② 本年度より、鈴鹿高専と公用車燃料契約を共同契約した。これにより、経費の削減及び契約事務の効率化を図ることができた。	
3	高専機構作成「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」により、教職員のコンプライアンスの向上を図る。	校長	総務	③ 高専機構作成「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」により、教職員のコンプライアンスの向上を図った(12月)。	
4	業務分担等を整理するとともに、各種業務マニュアル、事務引継マニュアルの整備を行う。	事務部	総務課 学生課	④ 業務分担等を整理し、引き続き各種業務マニュアル、事務引継マニュアルの整備を行っている。	В
(5)	公的研究費等に関する不正使用の防止策を確実に 実施するとともに、教職員に対し、コンプライアンス教育研修を複数回実施し、不適正経理の防止について の周知を定期的に行う。また、研究倫理教育を行う(e ラーニングにて実施)。	校長	財務・経理	⑤ 年度計画に基づき、以下の取組みを行った。 ・全教職員を対象にした公的研究費の不正使用についての研修会を実施した(7月24日~26日)。 ・研究者の一部を対象に旅費のヒアリング及び非常勤雇用者の一部を対象に勤務状況についてヒアリングを実施するした(2月実施)。 ・不正に対する意識向上を図るため、年度当初に全教職員から公的研究費に関する誓約書を提出させた。 ・研究倫理教育(eラーニング)を実施した(2月)。	A

	年度計画		事務	計画の実施状況等	自己点検評価
6	事務職員及び技術職員の能力向上のため、高専機構等が主催する研修会等に積極に参加させる。また、職員のSD研修を継続して実施する。	事務部	人事労務	 ⑥年度計画に基づき、以下の取組みを行った。 ・平成30年度高専機構新任部長研修に1名、新任課長研修に1名が参加した。 ・平成30年度高専機構主催の初任職員研修に1名、若手職員研修会に1名が参加した。 ・平成30年度東海北陸地区高専主催の係長級事務研修に3名、技術職員研修に1名が参加した。 ・平成30年度国立大学法人主催の新任課長補佐研修に1名、係長研修に2名、中堅職員研修に3名、目的別研修に2名、リーダーシップ研修に1名、職員基礎研修に3名、人事担当者研修に1名が参加した。 ・第56回政府関係法人会計事務職員研修に1名が参加した。 ・平成30年度三機関連携グローバルSD(マレーシア・ペナン研修)に1名が参加した。 ・国立公文書館主催公文書管理研修Ⅰに2名が参加した。 	A
7	事務職員については、国立大学法人、高専間等との人事交流を計画的に行う。	事務部	人事労務	⑦ 4月1日の人事において、三重大学から1名の人事交流者を得た (全6名)。また、高専間職員交流制度により、鈴鹿高専と相互に 1名の人事交流を行っている。	A
8	危機管理体制及び緊急時対応・設備についての見直しを行い、危機管理マニュアルの更新等を検討する。	校長	総務	⑧ 危機管理体制及び緊急時対応・設備についての見直しを検討し、随時、危機管理マニュアルの更新を行った。	В
9	練習船鳥羽丸の緊急出航マニュアルを策定し、それに基づき訓練を実施する。	校長	総務	⑨ 練習船鳥羽丸の緊急出航マニュアルの策定に向け、検討を 行った。 また、練習船鳥羽丸船長及び機関長と計画を立て「大規模津波 発生時の練習船鳥羽丸の緊急脱出プラン」を科学研究費補助金 (挑戦的萌芽)に申請した。	
10	⑩「大地震対応マニュアル」を策定し、教職員及び学生へ配布する。	校長	総務	⑩ 「大地震対応マニュアル」を策定し(11月)、教職員及び学生へ配布した(12月)。	A
Ⅱ	」 美務運営の効率化に関する目標を達成するために取る	べき措置			
		事務部	総務課 学生課	① 年度計画に基づき、下記の取り組みを行った。 ・今年度から一般競争に変更した電力供給契約で、経費削減が見込まれる予算を元に、事務室等の管理部門の照明のLED化し、さらなる管理経費の削減を目指している。まず9月に総務課事務室をLED化し、年度内に学生課事務室をLED化した。 ・書類を保管しておくパイプ式ファイル等を再利用し、管理経費の削減を行っている。	В
2	三重大学、鈴鹿高専等県内の高等教育機関との連携事業を推進する。	校長	総務課学生課	② 平成27年度に三重県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、もって人口減少の抑制及び地域活性化を実現するために県内15機関で構成された「高等教育コンソーシアムみえ」の企画運営委員会・地域貢献部会等の会議に研究主事(または副校長)が代表して出席し、構成機関代表者と地域活性活動について活発な意見交換を行った。また、コンソーシアムネ事務局が企画したイベントや各種アンケート調査に協力した。また、平成27年度から三重大学が雇用の創出と若年層の県内就職率向上を目指した事業として文部科学進事業(COC+)」の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の割き続き、三重県の地域創生、持続的な活性化のために必要な人財を育成するための教育実践の内容・方法を検討する「教育プログラム開発委員会」担当校として、上記委員会、上記委員会の下部組表である第1分科会、第2分科会に研究主事(または副校長)が代表して出席し、意見交換を行った。鈴鹿高専との間では第16回連携強化推進委員会を開催し、両校の教務、学生、寮務、研究の各主事間及び事務部長間での連携事項日)。	A

平成30年度 学生の活躍記事(新聞)

No.	日 付	記事タイトル	対象学生	備考
1	30. 12. 15	水やり時短装置優秀賞 コンテストで鳥羽商船 高専、市長に報告	制御情報工学科	読売新聞
2	30. 12. 8	農業用アプリで全国2位	制御情報工学科	中日新聞
3	30. 12. 1	吹奏楽やチアリーダー 交通安全運動鳥羽で出動 式	学生ボランティア	中日新聞
4	31. 11. 20	デジタル技術、経営・養殖に 百五銀行140周年 フォーラム	制御情報工学科	伊勢新聞
5	30. 11. 6	アカモク資源管理に意欲 プログラミング全国大 会最優秀 鳥羽商船高専が会見	制御情報工学科	中日新聞
6	30. 10. 29	鳥羽商船高専が最優秀賞	制御情報工学科	伊勢新聞
7	30. 8. 23	皇太子さまに背押され	商船学科	中日新聞
8	30. 8. 2	皇太子さま、高校生と交流 鳥羽商船高専を見学	電子機械工学科 制御情報工学科	伊勢新聞
9	30. 7. 13	少林寺拳法部員 気合だ! 鳥羽商船高専選手意 気込み	少林寺拳法部	中日新聞
10	30. 7. 15	AIで魚に自動給餌鳥羽商船高専生、IT世界大会へ	制御情報工学科	伊勢新聞
11	30. 7. 1	夢あるならTRY!留学	商船学科	中日新聞
12	30. 7. 1	ボーイスカウト最高栄誉賞受賞	電子機械工学科	読売新聞
13	30. 5. 15	人工知能で魚養殖給餌システム開発	制御情報工学科	朝日新聞
14	30. 4. 25	システム開発で世界切符 ITの大会鳥羽商船生が 全国入賞	制御情報工学科	中日新聞

平成30年度 学生の活躍記事(本校HP)

No.	日 付	記事タイトル	対象学生	備	考
1	31. 2. 6	「第6回伊勢湾フェリーフォトコンテスト」にて鳥羽伊良湖航路活性化協議会長賞を受賞	商船学科		
2	30. 11. 22	第7回高校・高専気象観測機器コンテストにて優秀賞 受賞	電子機械工学科		
3	30. 11. 2	平成30年度鳥羽市民体育大会ソフトテニスの部で 優勝	テニス部		
4	30. 11. 2	第29回全国高専プログラミングコンテストにて3年 連続で最優秀賞を受賞	制御情報工学科		
5	30. 10. 30	東海高校新人陸上競技選手権男子走高跳で8位入賞	電子機械工学科		
6	30. 9. 14	全日本ソーラー&人力ボートレース大会2018にて 学生総合優勝および特別賞	商船学科		
7	30. 9. 11	活躍の舞台は水平線を超えてどこまでも! 記事 掲載	制御情報工学科		
8	30. 8. 20	全国高専大会男子走高跳で3位入賞	電子機械工学科		
9	30. 8. 8	インターハイ陸上競技の運営に本校学生が技術協力	制御情報工学科		
10	30. 7. 9	男子走高跳で2mクリア!!	電子機械工学科		
11	30. 6. 26	東海地区高専大会男子走高跳で優勝!!	電子機械工学科		
12	30. 6. 1	三重県高校総体男子走高跳で4位入賞→東海高校総 体出場権獲得	電子機械工学科		
13	30. 4. 26	祝・ ImagineCup世界大会出場決定!	制御情報工学科		